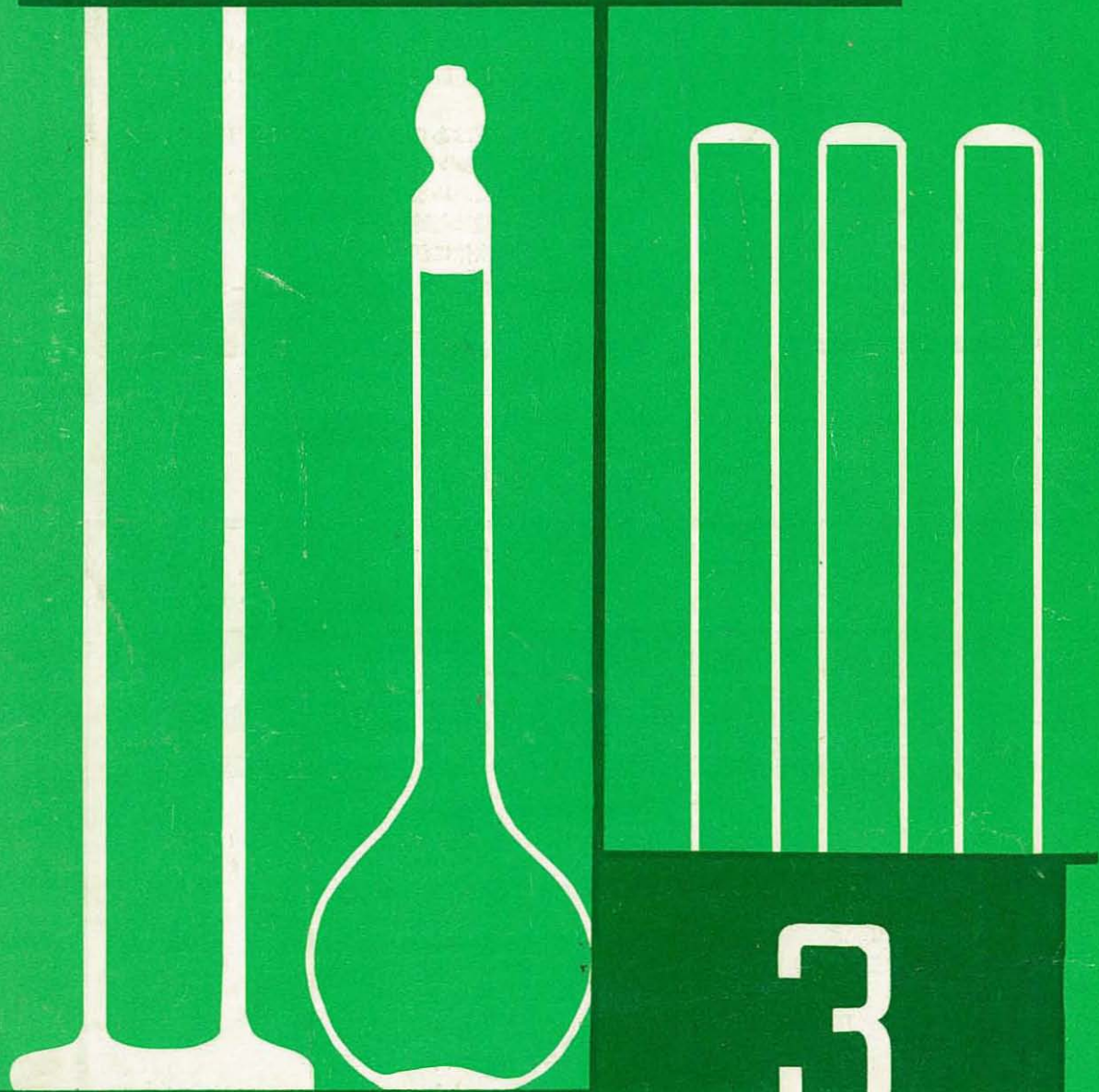
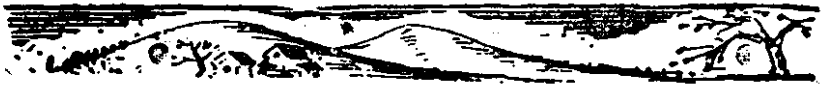


あみこす



3

東北大学医学部薬学科



巻 頭 言

アミコスも三巻が出た。順調に進んでいることは何としても喜ばしい。

何事にもあれ、初代は情熱がある。それでこそ、アミコスも誕生したのであろう。ところが、2年、3年たつと、いわゆる中だるみが来る、

「売家と 唐様で書く 三代目」とはこの間の消息を物語る。

もともと、薬学科はまだまだ、ここまで達していないのだ。なるほど誕生して3年目かもしれない。だが、専門課程によりやく進んだ程度で、最高学年はまだない。講座も完成しない。校舎もない。設備も不十分だ。

とにかく、林子平ではないが、ないないづくしだ。

従ってまだ唐様で書ける時代でもない。パイオニヤ精神。フロンテイヤ精神こそ必要なのだ。それを、このアミコスの中にも燃焼させて欲しい。

—1959. 6. 20—

岡 崎 寛 蔵

せわしい人生

龜 谷 哲 治

私はせっかちである。実際、自分でも確かにそう思うし、他人が見てもそうらしい。特に四十代に入った最近ではその感が深い。趣味にしても釣のようにのんびり糸をたれて魚を待っているのは性に合わない。最近自動車に興味を有しているのも、スピード感があって気持がよいからである。スキー・スケートもよろしいが、自動車の方が私にはスピード感とスリルがはげしいようである。また私は早口、早飯で、歩くのも早い。恐らく講義に出来ない人は聞き取りにくいことが多いことと思う。自分でも時に、学生諸君に判るようにゆっくり講義していてもつい早くなってしまふ。何故早いものが好きで、そんなにせっかちなのであろうか。きっと生きる時間が少なくなって来たせいだろうと思う。年寄りになるとおねわれなくなる。これも無意識的に死を目前に控えているためなのか。

更に世界はますますスピード感をたかめて正にジェット時代。世界の距離は不変だが、時間はどんどんちぢめられていく。日本でのこのご汽車旅行している間に世界一周は容易である。私の学生時代はやはりのんびりしていたようだ。そして夢や希望ばかり多すぎてついおぼろげになってしまう。しかし大学の最終学年をへて研究生生活に入り、研究の面白さが判り始めてからは、だんだんのんびりできず、毎

日が仕事でせきたてられているような感じであった。現在のように研究生生活一本になると、毎日が楽しみであるが、ややもすると仕事に追いつけられないような感じが強い、これもせっかちな故であらうか。

かの有名なウッドワード博士はまだ四十代と聞く。恩師ギンズバーグ教授は三十代の初めに、至難とされていたモルフィンの全合成に成功し、湯川博士も二十代の仕事がノーベル賞になったし、そのほか世界の有名な学者にあってみると、案外若いにおどろく。大器晩成と云う言葉もあるが、大体に於て素晴らしい仕事は若い二十代、三十代に行われている。自分は学生でまだ若いと思っていても、いつの間にか三十代をこえて四・五十代えと入って行く。人間は老い易いが、学は成り難いようである。私もこれまで張り切っては見たものの、何もせずに人生の大半をすごしてしまったようである。

要するに私の云いたい事は、極めて豊富なアイデアと夢の多い青春時代を大切にしてほしいと云う事である。若いうちは「あとの半年や、ねてくらせ」とのんびりうそぶいていても光陰矢の如しである。青春時代いかに理想にもえていても、毎日奥さんにせきたてられているサラリーマン生活では悲しい。私は仕事に夢中になれる人になればどんなに幸福かと思う。

将来私の教室に来られる方は、早く早くと云われるから、相当の覚悟で来る事が望ましい。スピード感のある確実な研究生生活。これが私のモットーである。このせわしい短かい人生をどうしたら有意義に暮せるであらうか。

目 次

巻 頭 言	薬学科主任教授 岡崎 寛 蔵	1
せわしい人生	薬学科教授 亀谷 哲治	1
【教室紹介】		
薬品分析化学教室	// 助手 毛利 友二郎	3
衛生化学教室便り	// // 鈴木 康男	3
薬剤学教室紹介	// 助教授 池田 田憲	4
薬品製造学教室研究内容	// 教授 亀谷 哲治	5
雑 感	// 教授 加内 鉄三	8
衛生化学教室	// 助教授 内 山 充	9
座談会 岡崎・岡野両教授を囲んで		10
医学祭に初めて参加して		
抗生物質のペーパークロマトグラフィ	長浜昇・高橋威夫・三野俊作・小野寺威	12
薬化学催眠剤	京田 守弘	13
特集 薬学探訪記	編 集 部	15
衛生試験会		15
立外一社		16
中外一社		17
中外一社		18
中外一社		19
中外一社		20
中外一社		21
中外一社		22
中外一社		23
内外薬科大学アンケート		24

お国自慢シリーズ

お国自慢	武山 尚子	27
お会みふわ天し	田内 洋子	27
自津のさ故郷	藤松 美喜子	28
自津のさ故郷	菅原 美喜子	29
自津のさ故郷	清野 通子	30
自津のさ故郷	永谷 富彦	31
自津のさ故郷	八木 勲	32
自津のさ故郷	岩 勲	32
自津のさ故郷	山 三太郎	33
自津のさ故郷	秋 山 知子	34
自津のさ故郷	江 田 絃子	35
自津のさ故郷	嶺 岸 絃子	36
自津のさ故郷	小 嶋 晃	38
自津のさ故郷	大 槻 勲夫	39
自津のさ故郷	E S 生	39
自津のさ故郷	佐々木 絃子	40
自津のさ故郷	山 本 一	41
自津のさ故郷	千 本 広	42
自津のさ故郷	山 本 幸子	43
自津のさ故郷	橋 藤 洋子	45
自津のさ故郷	三 児 玉 充生	45
自津のさ故郷	提 大 津 子	46
自津のさ故郷	一 旅 十 木 絃子	47
自津のさ故郷	富 村 松 誠一郎	48
自津のさ故郷	旅 の 余 徳 堅次郎	49
自津のさ故郷	考 え る こ と 藤 進	50
自津のさ故郷	編 集 後 記 飯 塚 義 夫	51

薬品分析化学教室

毛利友二郎

私が南の国博多からはるばる当地へやって来たのは、1月の半ばだから、早いものでもう9ヶ月になる。

着任当時は、僅かに分析と薬剤の2教室しかなく淋しい限りであった薬学科も、春の訪れと共に講座も増設され、学生も進学して来てまことに賑やかになった。懸案の新館建築もどうやら近々の中に着工の運びとなる模様で、我が薬学科もひたすら発展の一路を辿っている様である。アミコスも教えて3回目、過去2回寄稿した同室の先輩岩口さんから「今度は君の番だ」と無理無態に押しつけられ、かくはペンを取った次第である。

編集委員氏の要求は、講座の紹介ということなので、御参考迄に、薬品分析なる講座の性格を明らかにしてみたいと思う。

薬品分析の講座は、本学薬学科では、1番最初に出来た講座で、さしづめ第1講座というところである。正式名称は「薬品分析化学教室」で、構成員は、岡野教授、岩口助教授に続いて、合屋氏と私が助手、それに研究補助(教務員)の千葉、鈴木両女史の計6名である。

当教室の研究テーマは、甚だ漠然とした言い方ではあるが「生化学的活性物質(例えばプリン塩基類、アミノ酸、抗生物質等)の金属キレートに関する研究」で、最近漸く取りかかったばかりで、どう展開するかは今後の問題で、その成果については、まだ述べる段階ではない。分析教室というからには、分析に関する研究をするのが本来ではあるうけれど、研究というものは、やっているうちに思わぬ方向に発展する事が間々あるもので、必ずしも分析的な研究

をするとは限らない。

教室の名称は、教育的見地から解釈するのが適當のようで、その意味からすると、薬品分析化学教室とは、薬品分析に関する講義及び実習を担当する教室である。という事になる。

薬品分析と一口に言えば、化学的分析、物理化学的分析、生物学的的分析等、すべて含まれるのであるが、我々が取り扱うのは、前二者でその中でも最も基本的な部分であり、応用面には関しない。例えば裁判化学や、水質検査や食品分析の如きものは、衛生化学の範囲に入る。従って、当教室の使命は、分析の原理的な知識及び技術を教授し、より高度の理論、技術の理解、体得を容易ならしめる事であるといえよう。

分析で行われる講義は、定量分析、無機微量定性分析、有機定性分析、機器分析である。

又、実習については、分析が薬学諸学科の基礎をなすところから、どこの学校でも、分析実習を1番最初に行うもので、期間も薬化学を除く他の諸学科に比べて遙かに長いのが普通である。我々の所でも、4月専門課程進学と同時に始められる。今年の例では、期間は、4月末から7月初め迄、正味2ヶ月半で、この間に、定量分析、無機微量定性分析、薬局方の確認試験を行った。有機分析、機器分析についても是非やらなければならないものではあるが、本年は何分最初の事ではあり、色々な都合で遺憾乍ら割愛せざるを得なかった。

今年は、予算の関係で、器具の購入等で、不本意乍ら学生諸君にかなりの負担をおかけしたが、次回からは、学生負担は出来るだけ軽減して行く方針である。

以上拙い文章で甚だ恐縮だが、薬品分析教室なるものの内容を幾らかでも理解して頂ければ幸甚である。

衛生化学教室便り

鈴木康男

薬学科の皆さん、と云ってもまだ顔も姿も知らない方々にも、ささやかな便りを致しましょう。私自身の経験に依りますと、自己紹介をした後にはよく、「衛生化学ってのは、何をやるんですか?」と質問を受けることがあります。まあ、そう膝を直さずに、のんびりと話でも聞いて下さい。慌てずとも講義とか、試験とかで、一通りの問題はこの2、3年のうちに過ぎるのです。しかしながら、薬学を終えた人達からも、似たような問を寄せられると、しばし愕然とならざるを得ません。先ず「衛生屋」という名称から連想されるものに恐れをなして鼻をつまんだり、臭いものにフタとの考えを無くして頂く事です。

東北大学では今の処最も新しく生れた此の教室も、実

は我国では最古の歴史を持って居ります。明治26年に、現在の東京大学に講座制が設けられると、今日の衛生化学教室が第1講座の名で発足したと記されていますから、もう7・80年の昔の事となりましょう。これには、当時の社会状況が衛生化学を切実に要望した結果の現われなのですが、この講座は常に実社会面に連がりの多い仕事を続けて来ました。

私見になりますが、「衛生化学」の名称をそのままに理解しても「生を衛る(まもる)化学」を意味しています。従って狭い意味の食品分析や環境分析を扱かう衛生試験に関する化学よりも、ずっと広い範囲を含んでいるものと考えられます。例えば「裁判化学」と謂う分野があります。これは犯罪を1種の社会の病氣とみて、これを医学的に取扱う「法医学」と対をなす薬学の分野で、衛生化学の仕事になります。化学の知識で犯罪という病の診断や、その治療、予防を行ないます。この方面では、明治の初年に毒物分析が行なわれて問題となった「相馬事件」(詳しくは犯

罪学雑誌を御覧下さい)以来、近くの帝銀事件、下山事件など、常に新しい試練に遭っていると云えます。一寸休んで考えてみて下さい。一般に自然科学は実証的で、実験が再現出来る点に特徴があるようですが、「裁判化学」は実験の再現が不可能であること、実験条件が規立されないこと、解答が得られぬことなど、実施の面では他の化学とは著しく異なるものを持っていることが判ると思います。この点では、医学や他の社会科学に近いとも考えられます。当教室でも、僅かながら裁判化学分析の依頼もあり、基礎的な毒物の分析に習熟しておく必要のあるのも他教室には見られぬ仕事の1つです。

さて、今迄述べて来たのは古い面ばかりでしたが、この教室の特徴の最大のものは、その新らしさにあると云ったら言い過ぎでしょうか。「衛生化学」は、更に積極的に生命に関する問題を取上げて検討する処に眼が向けられています。即ち、生化学を研究の手段とする薬学の立場がそれです。ここに在米中の奥井教授の便りを無断で借用する失礼を冒して、次の断章を引用させていただきます。

「我々の教室は、衛生(裁判)化学の名前をかかけ、この方面の進歩に貢献する義務がありますから、大きな方向としては毒物を取り上げ、これに現在の生化学の発達を取り入れて代謝解毒、これに関与する酵素系、或いは逆にこの毒物が正常代謝系にどのように影響を与えるか、などについて現在大いに問題となっている毒物から検討してゆく。又、これを拡張すれば、総ての医薬品、異状物質も含

めて問題がある。……」又、更に先生は、反応の場を「生体」に於いて、化学的物質の代謝を見ても申しております。このような生化学的な諸問題は、現在の酵素化学の進歩に深い関連を持っており、我々が今後十分に時間を掛ける主題です。

さあ、これで「衛生化学教室」の概念は、おぼろげながらお判りですか。衛生化学は総ての薬学の知識を基礎とした応用生化学の面が多分にありますから、その多様性にまどわされぬ様御注意願います。

さて、現在の処教室員は奥井教授以下総勢5人、在米中の奥井教授と入れ換わりに、今夏内山助教は1年間の予定でイリノイ大学に出張渡米なされました。当教室の設備、教室員が揃うのは、今期建築予定の薬学の建物をも含めて来年の事になります。幸いにも、今年度の第1期工事では衛生化学教室が、新館の1部を使用することになったので、早急に出来上るのを期待しつつ、内部設備の計画などにも無い智恵をしばっています。1・2階の皆さんの学生実習室の真上の3階が当教室に予定されて居ますから、完成の暁には充分な交流が出来るでしょう。

総ての教室の仕事が初まるのはその頃から現在種々の準備中という処、奥井先生の糖・脂質化学、毒物化学、内山先生の放射化学、生化学を中心として連繋のある研究が進められる様待期して居ります。

以上近況をお知らせ致しました。

× × ×

薬剤学教室紹介

池 田 憲

薬学科薬剤学教室という同じ様な2つの名前の並んだ講座の名を見て、その内容の見当がつかのは、薬学の事情にかなり明るい人である。薬学というのと薬剤学というのはどう違うか。我々にははっきりしていても素人の人にはわからない。余り良い名前とはいえない。何か言葉の綾をもて遊んでいる様な気がする。ここの所がはっきりわかる様にする為に、今試みに此の二を英訳してみよう。そうすると日本の薬学というものの特殊性が、かなりはっきりとするのではないかと思う。今度度手許にアメリカに於ける薬学教育に関するリストがあるのでその名前を調べてみた。それによるとアメリカに現在(1958年)存在する薬学部(科)若しくは薬科大学に相当するものは76ある。その名称は大抵 University of ~ (若しくは University) の College of Pharmacy の名がついている。其他 Division of Pharmacy というのが二つ。Department of Pharmacy というのが一つあるが、何れも Pharmacy がついていることには変りがない。一寸変っているのは College of Pharmacy and Allied Sciences というのと College

of Pharmacy and Science と名のあるものが、例外的に夫々一つづつあるが、これはどちらも University に属しない単科大学である。ところが日本では Pharmacy と名のことを成べく避けている様である。Pharmacy と云うと薬剤師養成機関であると思われるからであろうか。そして Pharmaceutical Institute 若しくは(Faculty) 等と呼んでいる。東大は薬学部になって Dept of Pharmaceutical Sciences と名のある様になった。ところで Pharmaceutics という名前は、日本語の既成語でいえば、製剤学に当る言葉で、我々の使っている薬学という言葉とはずっと離れて、薬剤学という言葉に殆んど同じである。有名な Bentley's Textbook of Pharmaceutics というのは調剤学及び製剤学の教科書である。日本薬学科の欧文誌は Pharmaceutical Bulletin という名で出発したが、内容に Pharmaceutics にふさわしい論文は一年の中に数える程しかない。そこで改題して Chemical and Pharmaceutical Bulletin としたのは、昨年である外国から雑誌の名称と内容が一致していないという苦情がきたからだという。どうしてこの様な違いが出来たかを考えてみると、次の様に言えるのではないかと思う。諸外国に於る薬学と云うのは、極めて限られた日本でいう薬剤学を中心とする。換言すれば薬剤師の養成に限られた教育や、研究だけを指すもの様

である。それに比べて日本ではより基礎的な植物成分の構造決定や、純有機化学的な研究を薬学の分野の人々がやる様になって、研究の中心はそちらの方にある為、薬学の中に改めて薬剤学という屋上屋を重ねる様な名前をつくらねばならなくなったのだと思う。だから改めて云うが、日本の薬学の名にピッタリする外国語はない。強いて探しても日本の薬剤学に相当する様な言葉しかない。どうも話は大分横道にそれた様であるが、ここの所がよく解らないと薬学に居ながら薬学とは何ぞやという様な疑問が何時迄もつきまとうのではないかと思う。今すぐこれ迄に言って来たことが或いは理解出来なかったかも知れないが、薬学というものを知って来れば追々とわかって来ることと思う。こんな話をいきなり持ち出したのではいささか編集者の意図と異なるかも知れないから、アリキタリの紹介に移ることとする。わかり易い様に例を上げて説明する。例えば今ここにある種のサルファ剤を純合成的に結晶として取出したとする。この化学的化合物はそのままでは医薬品ではない。これを患者が用いる迄には、何等かの手が加えられねばならない。最も簡単な場合である粉末をそのまま服用する場合でも、天秤で秤量するという操作が必要である。注射剤として用いることもある。軟膏に練りこんで傷口に塗ることもある。点眼剤として目にさすこともある。坐剤として膣や肛門に入れることがある。等々色々な用い方がある。その様な各種の剤形に迄もって行く過程について研究するのが我々の分野にあるといえる。従ってこの分野は薬学ならではの分野である。外の分野は必ずどこか他の学問の分野でも同じ様な研究がなされている。薬学の出発点であり、薬学の終着点である性格を帯びている。然し過去に於ては

余り学問としては重く見れなかった。剤形に持って行く迄の過程といってもこれ迄のやり方は簡単なものであったし、又剤形という複雑な組成を持つ物質の集りを取扱う方法が進歩していなかったからだと言えるかも知れない。だが最近の研究ではどんどん新しい研究方法が採用される様になって、昔とは変わってくる様になった。しかし薬剤学の特色である現実の問題が解決されねばならないという使命を持っていることが、学問的であろうとすればする程、実際とは離れるという矛盾にいささか混乱の様相を呈している面がある。学会の報告でも、例えば病院薬局の実際面から起った問題についての検討がなされた報告と、物理化学の先端に行く様な研究が、同じ会場で行なわれるので戸惑うことが屢々である。しかしこの様な現象も過渡的なものであって追々と整理される様になるであろう。次に教室の現状をお知らせする。教授の岡崎先生は御承知の様に昨年新潟大学からおいでになった。現在の研究は新潟時代から引続いて消化酵素剤及び制酸剤についての研究をしておられる。此の研究は周知の様に昨年度の薬学大会に於て、日本薬学会奨励賞が受賞された研究である。次に筆者は昨年末東大薬学部からこちらに来た。目下の所は東大時代に引続いて溶液中での薬物の分解や安定化についての検討を行っている。此の様な問題は最近各方面でやかましく言われる様になった事柄で、本年の薬学大会で薬剤学部に於けるシンポジウムにも取上げられたし、本年九月チューリッヒで開かれる国際薬学連合に於ても、シンポジウムに取り上げられている。次に助手としては石川潔及び田尼和喜の両君が居り、更に幡小富士、小松治子の両嬢が、先の二つの題目のグループに分れて研究を行っている。

薬品製造学教室研究内容

亀谷 哲 治

I は じ め に

当教室では、複素環式化合物の合成研究に主力を注いでいるが、まずアルカロイド関係では、例えば、クラリン及びその関連化合物の合成、またロツンジン及び関連化合物の合成の検討がなされている。何れもイソヒノリン核が含まれているが、前者は更に、7員環を含む多環性物質、後者は benzoquinobrzine の骨格をなしている。これらは、アルカロイドの基本的研究として興味があると考えている。

次に、アルカロイドの基本的骨格の一つであるイソヒノリン誘導体の合成に、興味を有し、papaverine 様作用、あるいは morphine 様作用物質の発見、次に、Bischler-Napieralski 反応の理論的検討、更に、現在において、イソヒノリン合成法が複雑な行程を必要とすることにかんがみ、その簡易合成法にある程度の知見を得たので、その発展を検討中である。また、イソヒノリン骨格類似のチエノ

ピリジン、フラノピリジンの合成と、その薬理作用の検討がなされている。

次に、最近合成樹脂の発展に伴い、ワニリンを原料として、チオニルクロソドにより、構造未知のワニライドの生成を発見したので、これの化学的性状の検討と共に、その樹脂的発展に興味を有し、種々検討中である。

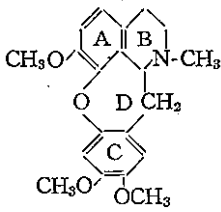
更に、抗癌剤として、チオールスルフィネート類に相当の期待がかけられるので、これら一連の含流化合物の合成を種々試みつつある。

次に、各研究課題の詳細について説明する。

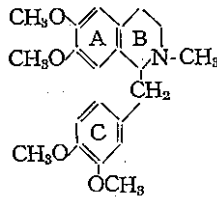
II 複素環式化合物の合成研究

1 クラリン及び関連化合物の合成

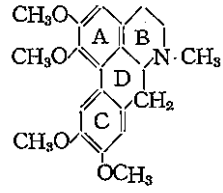
Cularine $C_{20}H_{23}O_4N$ は、Dicetra eximia 等により抽出単離される alkaloid であるが、1950年 P. H. F. manske により、(I) の構造式が与えられた。この構造 (I) は、Laudanosine (II)、papaverine、coclaurine、glaucine (III) 等の多くの benzye isoquinoline alkaloid の構造と比較した場合、D環の7員環エーテル結合の存在もさることながら、他の alkaloid が、何れもA環の2個のエーテル結合



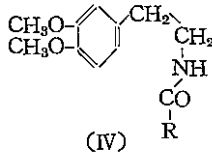
(I)



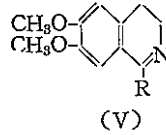
(II)



(III)



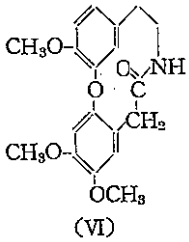
(IV)



(V)

に対してパラ及びメタ位にあたる位置で, isoquinoline 閉環を行った如き骨格を持つに反し, オルト及びメタ位に相当する位置で isoquinoline 閉環を行った構造を有する点で, 極めて特徴的である。

合成化学の立場から見ても, (IV)型化合物の isoquinoline 閉環反応はすべて methoxy 結合のパラ, メタの位置で行われて, (V) 型化合物が生成し, オルト, メタの位置での閉環は起らないとされている。



(VI)

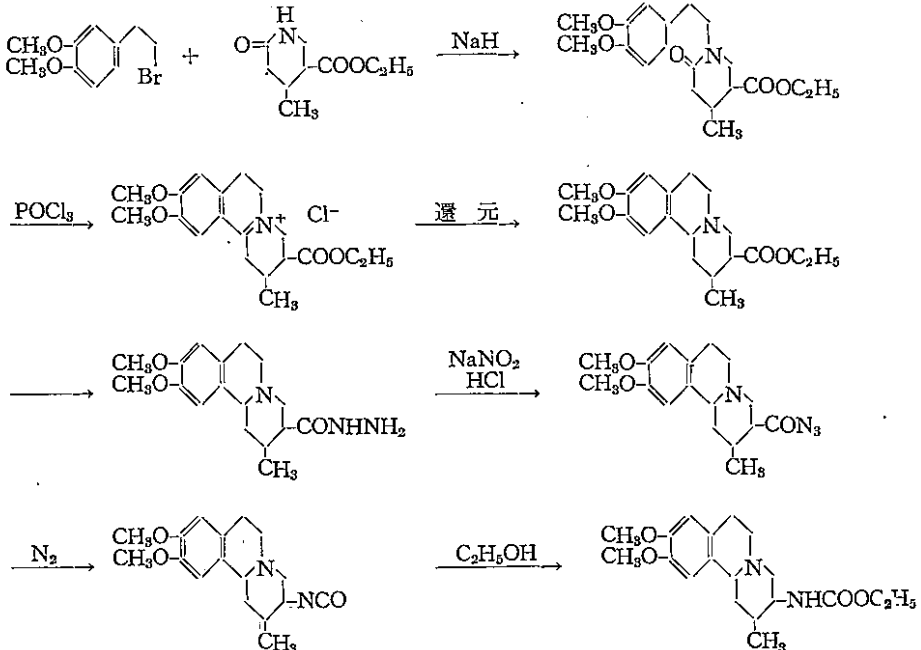
そこで, (VI)の如き化合物を合成し, この isoquinoline 閉環反応により, (I) 型骨格を誘導, 更に, cularine を合成してその構造を合成的に証明することは, 本アルカロイドの植物体内合成の見地

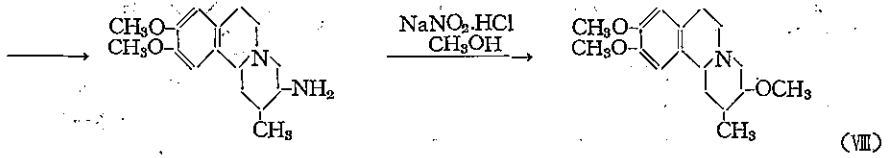
からばかりでなく, 合成化学の立場からも興味ある問題と思われる。

われわれは, まず vanillin を出発原料として (VI) を合成すべく, 目下検討中である。

2. ロツンジン及びベンゾヒノリチン誘導体の合成研究
Stephania rotunda Loureiroの主アルカロイド, ロツンジンの推定構造式 すなわち, 4', 5', 6-trimethoxy-7-methyl-3, 4-dihydro (2', 1':1, 2-benzoquinolizine)

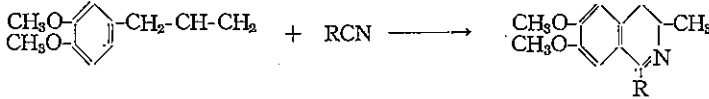
(VII) を合成的に証明する目的で, N-置換-2-Pyridone 体を, POCl_3 を試剤として常法の如く Bischler-Napieralski 反応で閉環し, ベンゾヒノリチン誘導体を合成する試みは, 予期に反して N-置換-2-chloro 体が生成することを知り, pyridon 体の閉環をもとにした一連の合成研究を中止, pyridone 体の閉環をもとにし, tetrahydrorotundine (VIII) の合成を検討している。合成経路は次の如くである。





3 イソヒノリン誘導体の合成研究

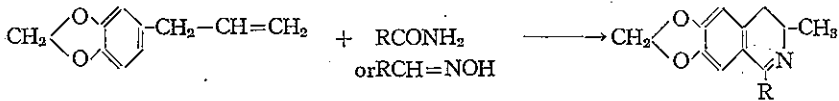
(1) 従来、メチルオイゲノールとニトリルを硫酸の存在下に縮合させ、3,4-ジヒドロイソヒノリン誘導体を合成



の代わりにオキシムまたは酸アミドを用い、 POCl_3 の存在下にサフロール及びメチルオイゲノールを縮合させ、3,4-

する Ritter-Murphy のイソヒノリン簡易合成法が報告されているが、本法によると、サフロールを用いることができない点に原料面の制限があるが、当教室では、ニトリル

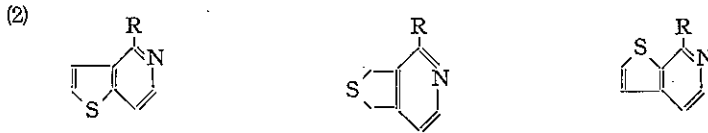
ジヒドロイソヒノリンを得た。



後者の方法により、Ritter-Murphy 反応にてサフロールを用いられない点が改良されたが、更にこの簡易法を検討拡大し、各種イソヒノリン誘導体の鎮痛作用を検討する

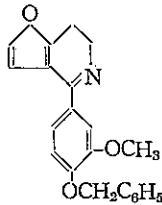
(2) チェノピリジンの合成研究

各種チェノピリジン誘導体を合成し、その鎮痛性を検討する。



(3) フラノピリジン誘導体の合成研究

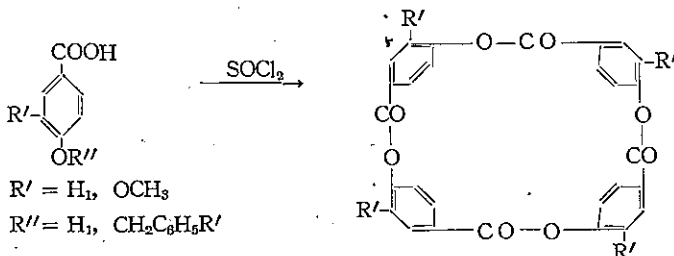
フルフラールを原料として得られるフリールエチルアミンよりフラノピリジン或いはアルキルフリールエチルアミン類を合成し、その子宮緊縮作用を検討する。これまで、右の図の如き benzyloxy 体に相当の子宮緊縮作用があったので、興味深



いものと思われる。

III ポリエステルに関する研究

P-オキシ安息香酸またはP-ベンシルオキシ安息香酸に SOCl_2 を作用すると、次式の如き、ポリエステル類が生成する。またこの反応はワニリン酸、ベンジルワニリン酸の場合にも同様に環状のポリエステルが得られる。しかし、m-オキシ、o-オキシ安息香酸類では、このような環状のポリエステルは得られない。従って、環状ポリエステル生成反応を考察すると共に、得られたポリエステルの合成樹脂方面への応用も検討し、更に、触媒の SOCl_2 の性状を検

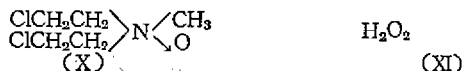
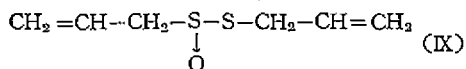


討し、なお SOCl_2 以外の触媒についても、同様にの環状ポリエステルが生成するか否かを研究する。

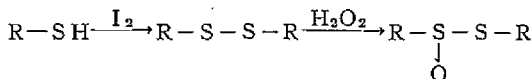
IV 抗癌剤の合成研究

1 各種チオールスルフィネートの合成研究

アリシン (IX) すなわちアソールチオールスルフィネート及びナイトロゲンマスタードN-オキサイド (X), 過酸化水素等の酸化性物質につき、その制癌性が報告されているので、これらの点に注目し、酸化性物質と制癌性物質の間に何らかの関連性があるものと仮定し、チオールスルフィネート体のアルキル、アリール、アリサイクリック、ヘテロサイクリック誘導体を次の経路で合成し、種々の実験薬につき、スクリーニングテストを行い、その抗癌性を



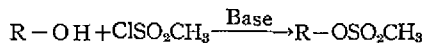
検討すると共に、酸化性物質と制癌性物質の関係を明らかにし、なおチオールスルフィネート体の簡易合成法も併せ



て検討する。

2 各種メタンスルホン酸エステルの合成研究

メタンスルホン酸グリコドと脂肪族、芳香族、脂肪環状族、異項環アルコールとを適当な塩基性物質の存在下に縮合させて、種々のメタンスルホン酸エステルを合成し、チ



オールスルフィネート体と同様、抗癌性物質の合成を目的とする。

雑 感

加 藤 鉄 三

朝倉書房から出版している大有機化学の序説に小竹博士が、有機化学の歴史を概説し、日本に於ける有機化学の発展の経過を述べている。それによれば、「日本に於ける本当の意味での有機化学者は長井長義 (1845 ~ 1929) であり、彼はドイツに学び、明治20年より東京大学の薬学科によって日本の有機化学者を指導したのである。すなわち理科系の有機化学よりも約15年先んじてわが国薬学系統の有機化学が始まったのであって、わが国の薬学系統の有機化学が、隆々たる発展をとげたのも無理からぬ事である。云々……。」と書き起し彼の門下、朝比奈、近藤、緒方等2代目の業績、更に3代目の数々の薬学先輩の仕事有機化学の面より記載してある。

勿論この書によらず、我が薬学の伝統として有機化学より出発して今日に至った事は、多くの人々が考えている事であり、我々も無意識に薬学即有機化学と信じて別に疑わずに来た。この伝統の灯を消さずに進む事は勿論、薬学を志すものの責任の1つではあるが、然し薬学と言うものを生きた現実に即応させるためには伝統の構造決定やそれから出発したとも考えられるミクロのテクニック以外にもっと吸収し発展させねばならない、化学の新分野が展げつつある。勿論、物理化学、生化学、機器分析による新しい分析化学等もとり入れられ着実にその成果をみている事も衆知の通りではあるが、薬学の先人の余りに偉大な業績に比すれば、未だ未だこれからのものであり、ようやく緒についたものと言うべきである。

偉大な先輩を持ったと言う事は、我々の誇りであるが、

同時に又何かしら重い荷物も背荷された感じでもあろう。私の恩師の落合名誉教授は長井先生の孫弟子であり、停年まぎわ述べられた言葉に「唐様で書く3代目」にならないよういつも考えていたと言われた事を秘々思い出す。今後4代、5代と続くうちに薬学も大いにその内容に於て変化して行くであろう。少くとも長井先生の時代は欧米的科学は日本に於て零であり、吸収すればいいと言う時代であった。僅か100年後の今日になって、何とか追い付ける所迄の水準に達したが、これからが問題である。マラソンと同じで追いついて更に追いつくには更に大きな努力が必要である。皆でじっくり考えて、仙台の薬学科を立派に育てたいものである。仙台は従来の考え方で言うと特に薬学を発展させるべき立地条件に恵まれていない。薬業界と地域的に離れて居り、化学工業の背景もない。仙台で誇れるものは静かな環境とアカデミックな雰囲気である。私は20年前に仙台で3年間過ごしたが、日本のアルト・ハイデルベルヒと言っていたその頃の森の緑は少くなり、いささか近代化されたビルが多くなった感じではあるが、半年の再びの生活で、昔乍ら学生の町である事に変わらない事を発見した。

この環境の中でじっくり地についた仕事を皆でやりたいものだと言っている。

小型シネとカメラ

カメラ
テレビの10カ月々賦
シネ

コセキ

県庁前店 (2) 7135(代) 東一店 (2) 3560

衛生化学教室

内 山 充

衛生化学教室に関する紹介をする御約束の期限を1ヶ月も過ぎてしまい、当然この原稿は締切りに間に合いません。思い乍ら、一応の紹介を試みたいと思います。本稿が諸君の眠に入る頃は奥井教授も着任され、教授の新しい考え方が披露されることとは思いますが、以下今迄に私が折にふれて奥井教授の意見をうかがったり、又私自身考えたりした事を順序不同に述べてみたいと思います。

衛生化学という講座はその名称からは、はっきりどういふ事を研究し処理している所かという事が掴みにくいと思います。薬学の講座の名称は、その半数が80数年前我が國に薬学教育が始められたときの名称を受け継いでいるわけで、時代の経過に従って内容は大いに變化しております。特に衛生化学においてその變化が最も甚だしいと云えます。

衛生化学は当初文字通りの衛生、即ち公衆衛生、食品衛生等のうちの化学部門を扱っていました。臨床医学が一般に治療医学に重点をおいているのに対し、公衆衛生は病気になる以前の予防ということで、ベッテンコーヘル以来極めて重要視され、1の環境改善の努力が100の治療に勝ると云われております。学術会議の部門で、基礎医学、臨床医学と並んで公衆衛生の部門が設けられているのもこういう理由からでしょう。従って薬学もこの面で薬学者の知識を応用すべき問題、例えば空中の有毒ガスの測定、飲料水試験、食品中の異物検査、食品添加物及び化粧品試験等大衆の健康を守るための諸問題を採り上げたわけです。これらは現在、殆んど教室の第一線の研究対象としては採り上げられていませんが、実社会では非常に多くの技術者や研究者がこの仕事に従事しており、教室でも社会の要求があり次第何時でもこれに応ずべき態勢を整えております。大学は研究活動以上に教育という大きい使命を帯びていますが、衛生化学では現在でも上記衛生技術者の養成指導という責任がありますので、教育の面ではこれらを決して軽視せずにとり入れて行きたいと思ひます。

又上述の衛生試験に関連して、当教室の担当に裁判化学というものがあります。これに関しての詳しいガイダンスは教室の鈴木氏がすると思ひますので略しますが、とにかくこれは一般社会と密接な関係をもつという点で特殊な責任が当教室に課せられていると考えます。我々は今迄の謂わば古典的な裁判化学の記載を統合整理し、そして新しい感覚の導入には相当の熱意と努力を払うべきであると考えています。

さて、現在衛生化学の大部分を占めているのは動物組織の構成物質の化学であります。というより生化学或いは生

物化学という方が概念的にびったり理解して頂けるかも知れません。採り上げるべき問題は理学部の生物化学、医学部の生化学と全く同様なので、即ち糖類、蛋白質、脂肪、ビタミン、酵素、核酸その他代謝生成物の、構造、性質、単離、合成、分解等物質論であります。問題は殆んど無尽蔵にあり、世界中の生化学者の解決に余念のない興味ある研究対象が数限りなく残されています。これらの生体構成物質の研究の目的は、結局のところ“生命”というものに結びついており、研究を新しいしかも有意義な方向に展開させてゆくためには、夫々の物質が体内に存在する意義や成因並びにその運命を考え合わせ乍ら進まねばなりません。それで最近生化学の研究の動向が、これまでの静的な物質中心の見方から動的な代謝過程中心の見方に大きく變化して来たというわけです。特に最近、研究に有用な器具や技術の発見が相次いで起り、一つの発見がなされる毎に化学、生化学共に段階的な研究成果の飛躍を見ております。ワールブルグマンメーター、スペクトロフォトメーター、クロマトグラフィー、トレーサーテクニック、これら一つ一つがそれぞれ一つのエポックを作ったと云えましょう。

諸君が衛生化学、生化学の講義をうけるに当り最初によつかるのは、六炭糖の数多くの異性体の構造式かと思ひます。どうか毛嫌いせず慣れて下さい。又中間代謝の酵素系の繁雑さに全く悲鳴をあげ、10年程早く生れて来なかったことを欺きたくなることもあると思ひますが、諸君も諸君の5年後の学生に較べればおそらく1/2程の生化学的知識を先ず知ればよいのです。早く現在の世界の学界のリミットを知って、自分達の毎日の歩みが即ち学問の歩みに一致するようになれば勉強のやり甲斐も出て来るというものです。

次に具体的な衛生化学教室の研究テーマの事ですが、新設教室でスタッフも新任ですから研究内容を具体的に詳しくお話することは出来ませんが、現在のところ教授の長年手がけられた糖類の合成、分解、構造決定に関する研究、及び教授と私とが共に現在取組んでいる特殊脂肪酸代謝に関する極めて興味深い研究があります。又最近急激に発達した合成有機農薬に関する研究、裁判化学の諸問題、毒物代謝機構の研究等が当教室の主要テーマとなると考えております。

以上極めて簡単ではありますが、一応衛生化学教室の紹介を試みましたが、限られた紙上では教室の性格を完全に説明すること自体不可能の事と思ひます。従って諸君が疑問を持った場合には、教室員にどンドン質問なさることをお勧めして本稿を終りたいと思ひます。

1959年9月31日

× × × ×

岡崎・岡野両教授を囲んで

出席者 岡崎教授・岡野教授
三年 中野卓夫・早坂鉄太郎
二年 小池克郎・今江真理
一年 川村通夫・戸根八重
武田尚子・佐々木絃子

一講義への態度一

〇〇 僕達はこれからそれぞれいろんな方面に進んで行くんですけど、進む方向によってその生き方が異なってくると思うんです。それで、我々学生のあり方というかそういった事を経験上からでもおうかがいしたいんですが。

岡崎 我々の経験を話したら、皆を学者にしてしまう事になる。それであま、現状としては、結局現在の科目を一通り万遍なくやってもらいたいという事だな。そして特に興味のある物は後でくわしくやるよりしょうがない。

〇〇 しかし講義だけは出ての方がいいな。

岡崎 確かに講義二時間の分は本を見れば読めるよね。しかし残らないんだな、あれは。面白いもんで講義って奴は一時間半ないし二時間が単位だね。それ以上になるとだれちゃう。そこで科目が変わって気分転換になるんだが、講義の合間に漫談でもはさんでもらうと頭に残るもんですよ。本を読むっていうのは案外すぐ忘れちゃうもんでね。

〇〇 しかし、講義というか、そういう段階というのは学生時代のみじゃないですか、だからそれ以上になるとがらりと異なってくると思うんですが。

岡崎 それ以上になると、自分の研究題目に関する物だけを調べるようになるんで、必要にせまられるからよく憶えるよ。実際にやるんだからね。やはり実験をやるのが一番よく憶えるんだよ。自分でやった研究は10年たっても20年たっても忘れないからね。

〇〇 その研究の母体となるのが講義というわけですね。

岡野 大体皆、将来どういう方向に行くか決めてるの。

〇〇 僕なんかまだはっきりしてませんね。自分ではっきり決めている人も少しはいるでしょうけど、大部分は来年の特別実習っていうんですか、あれで決まると思うんですが、のんきかも知れませんけどね。

岡野 特別実習で決まるというとうどう決まるのかな。

それでね、社会へ出て行くとか、あるいは生物学的なものをやろうとかあるだろうが、何というか、違った学科だなあ、自分は例えば衛生の方をやるから化学は

必要ないとか、あういうのはいかんよ。さっきも言ったように、やっぱり薬学の科程にあるのは全部きいておくべきだ。

そういうのは視野のせまい職人みたいな者になっちゃうよ。

〇〇 そういうんじゃないくて、その方向がバイオロジーに進むか、あるいは物理化学的なものへ進むか、というのは決まるんじゃないですか。

岡野 うーん。しかし、外から見てちゃその内容が判らんからな。どういう仕事をしてるかという事。

〇〇 そこで自分のやろうとするブランチがあるかどうか非常に疑問になってくるんですね。

岡崎 そりゃあねえ、将来もずうっと学問で身を立てて行く場合の話ですよ。会社になんか入ったらそんな事言ってもらえんもん。そら、会社の至上命令だ、何を作れてね。そういう場合だったら、やっぱりいろんな事かじっておかなけりゃいかんものね。

一他の分野との関係一

〇〇 それで研究の場合ですが、自分の研究を進めて行く上にどうしても他の学部ともある程度手を握って行く事が必要だと思いますが。

岡崎 それはね、研究の場合ほとん角、自分の専門に近い事ばかりやっても駄目なんだから。もっと視野を広くして他の研究分野を見なければいけない。でないとアイデアがせまくなりすぎているのでね。

例えば滅菌法だが、いわゆる薬学関係では余りやっていない。むしろこれは、かんずめ、びんずめ工業の方が進んでいるんだ。気がついたか知らないが、宮城酪農には高温瞬間滅菌と書いてある。こんな方法はまだ注射薬に取り入れていない。流れ作業で大量に作る場合にはそういう滅菌法がいるんだからね。薬学関係の本ばかり読んでいては困る。むしろ理農関係の本に絶えず目を配る事が必要だね。

岡野 それで四年の実習をやるとよく判るんだが、言われた事だけをやる人と、与えられたテーマを自分で考えて、いよいよ深く掘り下げて行く人、滅菌法にしてもどれが一番効果的か、経済的かなどと考える人と、ここで伸びる人と伸びないのが出てくるんだ。

だいたい女の子は、言われた事をきちんとやり、データもきれいに取る事はよくやるんだね。

まあ、女にだって優秀なものいるけど、何人か一人は。

〇〇 それはそう言えますね。

岡野 いや、言われた事をきちんとやるのもいいけどね。

岡崎 何か変わった現象が起っても、何とも考えないのは困るね。

岡野 自分で解決する熱意がなくなっちゃね。

一 実 験 第 一

〇〇 今、僕達がやってる化学実験にしても、ちょっと突っこむとすぐ判らなくなってしまう。未知の領域に入ってしまうんですね。

岡野 それは自分でやればいい。(笑)

〇〇 それをいろんな科目についてやるとなるとよっ程でなきゃできないでしょう。

岡野 それはその時にぶつかって考えればいいんじゃないか。

〇〇 学生時代はそこまで考える必要なんてないと思うけどな。

岡崎 本来はあくまで実験化学だから、頭ばかり進歩しても困るんですよ。これをこうやってこうして、と記憶だけはあっても、実際にやってみるとできない。薬学は実験が一番大切なんだから。

岡野 それは大事な事だな。

〇〇 しかし、そういう事をやる人と考える人とは二つに分れるんじゃないですか。

岡野 それはまずいんじゃないか。分かれるにしても、化学は物理学みたいにただ簡単に切って割る事ができるわけではないしね。物理は理論的な法則があるが、化学はだいたい法則はない。ある論理、例えば原子論のようなものでも、あれだって予想する事はできない。化学は帰納よりも演えきの学問だからどうしても実験が必要なんだ。

化学療法剤をつくるにしても、何万と云う化合物を実験してやっと出来たんだ。考えてみれば、結核の療法剤にしても、パスなんかは50番目位に出来てる。あるアイデアでもってやっていって50番目位であたったんだ。それにしたって50の化合物を実験しなけりゃいけなかった。頭だけではだめなんだね。

岡崎 今はアイデアの時代なんだからね。ただ他人がやった事をやったんではだめなんだ。研究所や薬局にしたって、やる事はいくらでもころがっているんだけど、ある薬局では、全然良い仕事をしていない所もあるし、又いろんな良い仕事をしている所もある。

我々とすれば、むしろそういう独創力を養え、と云うのだがね。

〇〇 今の場合、試験のための勉強と思われるのですが、そのような勉強の仕方を見ていると、いきどおりを感じますね。試験試験でもって追われているのはなげかわしい。まあそう云う事は学生々活にふれてくると思うのですが。

岡崎 その昔ね。朝日奈先生の試験はノートでも参考書でもなんでも持ち込んでよかった。問題は、だいたい外国の学術雑誌にでたもので、これをこうしてこうなった場合、元の構造式は何か、とか云うのだった。それで構造式が推定出来れば大したものだがね。

岡野 勉強の仕方は試験のための勉強ではなく、ようするに目標をつかむような勉強の仕方でなければね。

〇〇 いま目標をつかむ、とおっしゃったんですが、その為にはある程度の勉強が終ってからでなければ無理じゃないでしょうか。そう云う事は基礎が終ってからではないでしょうか。

岡崎 ただ、二人が目標がなんののかと云ってるのは、二人が一応は学者のはしくれとして云っている事でね。その体験を語る事は全部を学者にしてしまう事になる。つまり製薬会社とか、病院薬局に行く人は、そう極端に考えなくともいい。我々から云うとそう云う事になる。

〇〇 専門課程が二年で足りないと云うのはどうですか。

岡崎 それはね何年あっても同じなんだよ。なぜかと云うと、むしろ今云ったように研究する場合どういふ風にすればいいか、と云う事がわかればね。とにかく、毎年化合物は、何万と増えていくんだから。我々学生時代、50万と云われたのが、今ではとにかく何百万と云われているんだからね。それを一々皆とでもやれないよ。結局、アウトラインだけやってさ、あとは自分が実際問題にぶつかった場合、それに関係ある文献や報告をやるより仕様がなないんだ。

〇〇 学者という事でうかがいたいのですが。学者のあり方と共通する事で、学者になるという希望の学生に対する要望ですけど、もう少し専門分野だけでなく、人間味の広い素養を養うためにも、一つの型にはまらず、巾の広い人間を創るように極力努力してもらいたい。現在の生活を見ていると、視野の狭いというか、機械化された小さな人間を養生するという感が強いと思われそうですが。先生方は現在の学生をどのようにお感じですか。

岡崎 一面から考えればね、昔の高校生は哲学だのなんだのをかじって、何か自分だけが選ばれて、一般大衆と違うような気になっていて、足が地についていないんだ。その点、今の学生は現実的である事が、ある点では偉いと思うんだ。しかし、それはテクニシャンとしてはいいけれど、学者はやはり夢がなくちゃいけない。もっとも今の社会では、夢ばかり見ていると食えないけどね。(笑)

編集部 どうもいろいろとありがとうございました。

夢を見るのも現実的に、食べる程度の夢でも見ましようかな。

では、この辺で……。

医学祭に初めて参加して

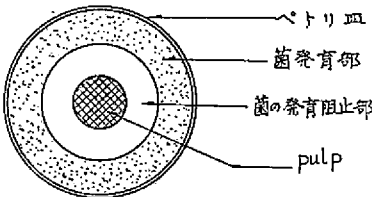
抗生物質のペーパークロマトグラフィ

ペーパークロマトグラフィと云えば、一般に良く知られているのはアミノ酸の分析である。これはアミノ酸を各種有機材溶媒で展開し、呈色試薬によって呈色する方法であるが、このペーパークロマトグラフィの分野に於てはその他多くのテクニックが加えられ、各方面に応用されている。

ここに紹介するのは、一寸変わった方法であり、抗生物質即ちペニシリン、クロラムフェニコール、テトラサイクリン、ストレプトマイシン等のペーパークロマトグラフィである。

これは生物学的方法によるもので、上述したような呈色試薬を使用しないで細菌を使用するのである。しかもこの場合単一溶媒又は混合溶媒で一次元、又は二次元方式の一枚の濾紙の上で Rf 値を正確に測定して他物質の Rf 値との細かい差を問題とするのではなく、或る物質が幾つかの溶媒や電気泳動の組合せで、だいたいどの位置にどのような像を示すという総合的な結果を見るのである。これらの結果に基づいて新抗生物質の概略的な同定（既知の抗生物質であるか否か、又はどの型の物質であるか）及び精製方針（放線菌の培養濃液を力を落さないように粉末にまでする操作）を決定するのに利用される。

このペーパークロマトグラフィについて説明をする前に抗生物質の阻止像について述べなければならない。例えばクロラムフェニコール粉末をメタノール溶液とし Pulp disk（直径 1 cm の円形パルプ）をそれに浸して十分吸着させた後 Staphylo coccus（ブドウ状球菌）の培養菌液と寒天培地（Peptone 0.5%, NaCl 0.3%, 寒天 3%）とをペトリ皿中で混釈し平面的に固ませた上に貼りつける。

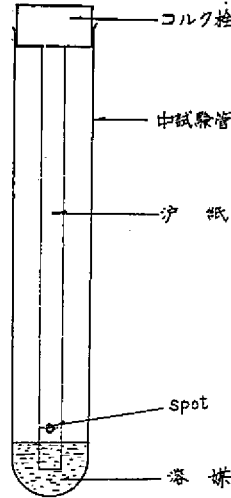


次に 37°C の温度で 14 時間位培養すると寒天平面上に Staphylo coccus が繁殖してくるが Pulp disk の周りだけはクロラムフェニコールの力によって発育が阻止されて抜けて見える。これが阻止円といわれるもので、阻止円の輪廓の状態及び阻止円内の透明度等を總称して阻止像という。この操作は現像と呼ばれる。

この阻止像をペーパークロマトグラフィに応用するので

あるが、これには特に規格と言うものは無いが、簡単な例を示そう。

東洋濾紙 No. 131（巾 1cm、長さ 15cm）の下から 2cm の



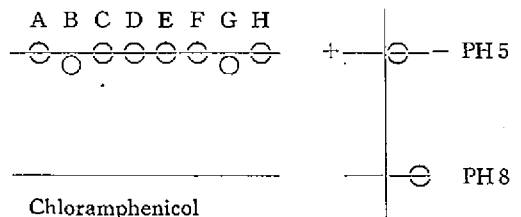
所を原点として、抗生物質の溶液をスポットする（直径 0.5cm 程度）。これを乾燥した後、中試験管の下部に濾紙の原点が浸らない程度まで浸るように展開溶媒を入れ、口をコルク栓で封じる。溶媒が基線より 12cm の位置まで達した時に濾紙を取出して風乾する。次に現像板（木製のガラス張の箱に寒天のシートを作り、その上に菌液と寒天培地とを混釈して重層し、固ませたもの）に張り、20～30 分の Diffusion の後に取り去り、37°C 14 時間前後の培養を行なう。これによってできる阻止像

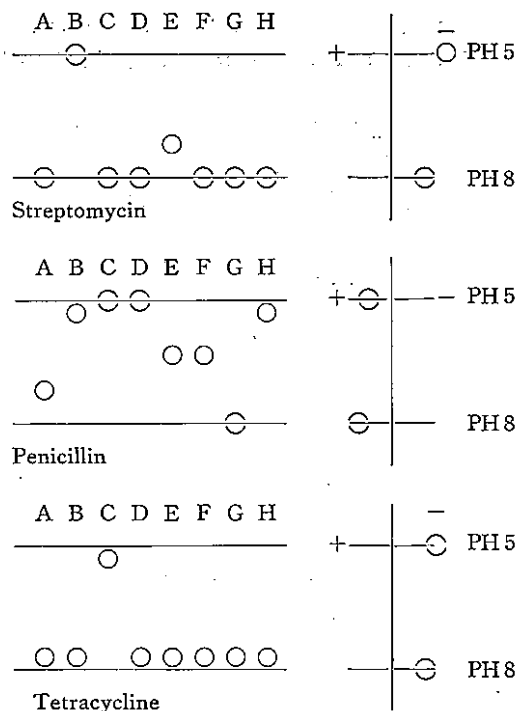
によって被検抗生物質が如何なる溶媒によって如何なる Rf 値を示すかがわかるのである。

一例であるが、次に掲げる展開溶媒によって行ったペニシリン、クロラムフェニコール、ストレプトマイシン、テトラサイクリンのペーパークロマトグラフィの結果を示して見る。

なおその右に書かれてあるのは PH. 5.8 の phosphate buffer における濾紙電気泳動の結果である。濾紙電気泳動は長さ 30cm 巾 1cm の濾紙の中心に物質をスポットし風乾後 250V 2 時間半通電し風乾して現像する。

- A ; Wet. Butanol
- B ; 3% NH₄Cl
- C ; 80% Phenol
- D ; 50% Acetone
- E ; 40cc. Butanol, 10cc. Methanol. 20cc. H₂O, 1.5 Methyl orange
- F ; 40cc. Butanol, 10cc. Methanol. 20cc. H₂O
- G ; 80cc. Benzene, 20cc. Methanol
- H ; dist. water





その他、エーテル、クロロホルム、酢酸エチル、ピリジン、氷酢酸等の種々の溶媒を追加してその溶解度を知り、精製過程に於ける示唆とすることができる。

又阻止円の輪廓及び阻止円の寒天の透明度も同定の参考となる。ストレプトマイシンでは阻止円が明確透明であるが、テトラサイクリン、クロラムフェニコールでは輪廓がぼやけて阻止円の寒天も不透明に曇って居る。

A, C, Gはクロマトによるものであり、Bは塩析クロマト、D, F, Hは溶解クロマト、Eは沈澱クロマトである。

Bの塩析クロマトとは溶液のイオン濃度を高めると沈澱を生じる物質は繊維素の共存下ではこれらを溶液から沈澱させるに必要な濃度よりもはるかに低い塩濃度で吸着的に塩析することを利用したものである。

又Eの沈澱クロマトとは、メチルオレンジと抗生物質との塩ができてFより溶媒による溶解度は大きくなる。この場合E, Fの上昇の差が重要となる。普通B, Hが上ってE, FのRfが低く他が上らないものを水溶性抗生物質と呼んでいる。ストレプトマイシン、カナマイシンはこの系統に属する。又A, D, E, F, Gの上るものを溶媒系と呼んで溶媒による精製が為される。

このような方法によりペーパークロマトグラフィが行なわれているが、新抗生物質の概略的な鑑別だけで更に細かい鑑別には大型のペーパークロマトグラフィ及びU.Vなどに頼らなければならない。

又このペーパークロマトグラフィから精製方針を如何に読みとるかという事に就て述べると例えばストレプトマイ

シンの場合については電気泳動により塩基性物質であることがわかり、E, Fの差から塩を作って沈澱せしめ得る可能性を知る。溶媒不溶であるので溶媒抽出は不能であり、従って吸着法を用いる。例えば活性炭未吸着酸性アセトン溶出とか、合成樹脂に依る吸着法である。事実カナマイシンはResin吸着、ライネケート塩沈澱、更にResinにてライネケを除いて精製される。

テトラサイクリンは例として不適である。即ち何れの展開溶媒でも上昇を示さないが、carrierを使用して溶媒に抽出する。

クロラムフェニコールは弱塩基性の態度を示し、溶媒、及び水に可溶である。従って或るPHに依り水に転溶される可能性を示す。従って溶媒を高級なものに変えて不純物を除去しながら精製し得ることがわかる。

更にペーパークロマトグラフィの用途として一つつけ加えたいことは、放線菌が培養によって抗生物質と共に色々の色素を産生することがある。この場合にペーパークロマトグラフィを行なうと、その色素と抗生物質が同一物であるかどうかを判定することができる。即ち阻止像と色素との差があれば色素は別の物質である。

以上抗生物質のペーパークロマトグラフィについて概略的に述べたが、その他2, 3の方法も行なわれている。又実際に抗生物質の分離、精製などの過程を具体的に詳しく述べなければ、本当に理解することは困難と思われるが、これらについては次の機会に譲ることとする。(この一部は5月の医学祭に於て発表したものである。)

薬化学催眠剤

「催眠剤」をテーマとし、ジエチルバルビツール酸の合成を中心として催眠剤の構造と作用による分類、新催眠剤の紹介、その他トランキライザー等についても展示した。展示の内容は医学科と比べ直接感覚に強く訴える性質のものでなく、或る程度抽象的理解を要求するものであった為に、いわゆる「お祭り」の意味から離れてしまう可能性もあったかも知れない。実際に一般入場者は合成に興味を示さず、アパルトについてもあまり関心がなかったようである。勿論熱心に質問して来た人もあり、不眠症の治療一薬価一法規一中毒一化学結合から反応条件までに至る理論一更にアスピレーターの性能から温度計の位置についてまで多くの問題について discussできたことは我々にとって有益であったが、多くの人々にとってはアンケートに示されたような「面白さ」として印象に残るものではなかったように思われる。

合成の実験は山中助教授、後藤助手の指導により五月第二週二日間にわたって行われた。以下その概略についてまとめて見る。マロン酸ジエチルの入手が間に合わなかったのでアセト酢酸エチルを用いたが、Fieser: Introduction

to Org. Chem. (丸善) P170, Enols and Enolatesを参照して β -keto ester としての反応を比較して欲しい。

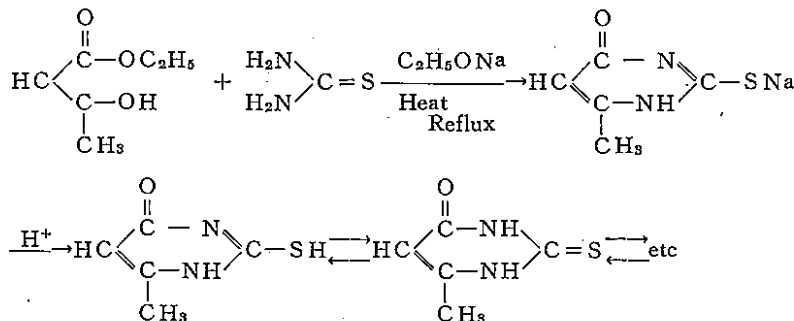
1) アセト酢酸エチルのモノエチル化

金属 Na に対して小過剰のエタノール、アセト酢酸エチルを加え加熱カクハン還流装置で C_2H_5I を反応させ、反応終結後エタノールで抽出した (エタノールの留出が不十分

だったので収率は低かった。反応については Fieser P172 Alkylation of acetoacetic ester の項を参照して頂きたい)

2) アセト酢酸エチルとチオ尿素の縮合閉環

時間的制約の為にアセト酢酸エチルはアルキル化せず、用い、尿素の代りに反応の容易なチオ尿素を用いた。



マロシ酸ジエチルを使えば Fieser : P175 の反応式に従うジエチル化と P505 による尿素との縮合でジエチルバルビツール酸 (バルビツール) が得られる。

$\text{O} = \text{C} - \text{NH} \rightleftharpoons \text{HO} - \text{C} = \text{N} -$ がよく問題になったが Fieser もエステルの互変異性についてふれているから参考にして頂きたい。

ヤサイ 洗いに

食器 洗いに

液体

アルコ 

株式
会社

シエルの貝印灯油

料理と暖房用の理想燃料

仙台市東二番丁一〇



三浦善作商店

電話(2)5934・(2)8959

整形外科・外科

岩 本 病 院

仙台市元寺小路146

電話代表 ③ 8 1 7 1

赤電話 直通 ③ 9 6 8 2

特集

薬界探訪記

本学薬学科は創立以来三年を経過し今や着々と軌道上を前進しつつある。しかし先輩もなく、仙台という薬界のバックボーンもない土地に住んでいるため、我々学生は薬界に対する知識は無に等しく、従って多くの学生は将来の自分を考える時ただ漠然とした想像しかつかみ得ず、いたずらに焦燥を感じるのみの人が多いのではないかと思うのである。

そこで編集部は、これらの問題を解消するためにいくらからでも役に立とうと、実際に薬界の様々な活動状況を現場に出かけて行って、目で見、耳で聞き、この

道の先輩に教えを願うことにした。

編集部が見学した場所は、仙台では、宮城県庁医務薬務課、宮城県衛生研究所、東北大学附属病院薬局、また夏期休暇を利用して上京し、三共製薬品川工場、中外製薬浮間工場、エーザイ研究所、国立衛生試験所、理化学研究所、森永乳業目黒工場以上九ヶ所であった。いずれも我々の主旨をよく理解して下され親切に遇していただいたことを報告し感謝の念をささげたいと思う。

—編集部—

国立衛生試験所

二年生が受講した「薬用植物学」の下村先生が、国立衛生試験所にお勤めになっておられるので、編集部が東京に出かける前に先生を囲んで座談会を開くことが出来たし、又同所を訪問した際も、いろいろ便宜をはかっていただいた。

就職に関すること

就職率はその学科の歴史と大いに関係する。それは社会の実状だからいかんともしがたい。しかし何事も step by step 着実に実力の涵養に努力すれば近い将来には必ずや門が開かれる。

それでは学生時代に何をやってそれにそなえるべきかという問題であるが先生は

一つは在学中に特殊な技術を身につける必要がある。語学が得意であるというのは、一つの立派な技術となる。

二つ目は、薬学科という所は他の化学系学科と競争がはげしいので、薬学の研究者になろうとするには人のやらないこと、例えば人がつまらないといってあまりやりたがらないものとか、新しいこと即ち、生理化学、生化学 etc. に積極的に入っていく必要があることである。この二点を要約すれば、自分に特色をつけろということになる。しかしそれは何もむづかしいことをやれというのではなく、自分の趣味としている機械いじりや写真技術をだんだん深めていくという様な仕方で充分であるとおっしゃられた。

国家公務員となる場合

先ず技術公務員の試験に pass しなければならない。競争は定員30名に対し200~300名受験する。薬剤師国家試験よりはむづかしいそうである。それに合格して資格が向う一年間だけ与えられ、欠員があれば入れるということで、男子の場合は100%入れるが女子の場合は5、6名合格するうち2、3名あぶれるということだ（一年たてば資格はなくなる）技術公務員試験をうけずに国家機関に入るには、無給の研究生として1~2年間勤務しあきがあれば入れるということであるが入ってから差ができるからこれを目指すにはやはり技術公務員試験に合格する必要がある。

国立衛生試験所とは

明治6年に設立されたこの種の国家の研究機関としては唯一のものである。かつてはほとんど薬学出身者でしめていた。現在は200名強、専門学校出身者が130名位で技術屋の集りである。

仕事を大別すれば

- 1 医薬品、その他の検定の仕事
- 2 研究費は出ないが、それぞれの研究の仕事である。

各仕事に応じて8つの部に分れている。

○細・菌部

病原菌にならない細菌を取り扱う所で

コバルト60を照射して殺菌を行う

注射薬の無菌試験

発熱性物質、同注射薬の試験

抗ガン性物質の薬理作用の研究等

又黄変米の毒性試験

これらは動物実験を通してかなり実績を上げている。

○特殊薬品部

ここは種々の標準品を作る所でビタミン、インシュリン止血、鎮痛のバックク、ルテン、ジギタリスetc.放射性物質の研究もやっている。例の原爆マグロの検査はここでやった。

○製剤薬品部

年間 600万円の研究費をもらって研究だけやっている唯一の部である。抗ガン性物質の研究がそれである、個人的実績が少しある程度であり成果は上っていない、もちろんむづかしいからであるが……。

○生薬部

薬局法に入っている薬品の基格、是量法を作る。薬品中の異物の検査の仕事。現在、血圧降下剤のレセルピンとバッククからとれる物質の定量法をやっている。

○ビタミン化学部

かつてはビタミンの定量法をやっていたが今は傾向としてビタミンの生化学をやっている。

○医薬品部

植物性、動物性以外の薬品の何千件という検定をやっておりこの検定量で他の部がうるおっているという話。

○食品化学部

食品の異物や食品添加物（防腐剤、色素etc.）を取扱う所で我々が衛生化学とか裁判化学とかで習う内容のものである。この部は戦後アメリカの進駐で急に拡大された。

○療薬部

注射、脱脂綿、歯科材料、義手義足の材料の検査、研究を行っている。

下村先生の御世話で我々7名は全体の約1/4ほどの部門をそれぞれ専門の先生方に説明して頂くことが出来た。

全体としてやはり自分が選んだテーマで研究するといった感じを受けた。しかしそれはここの性格上やむを得ないのかもしれないし又そういった研究こそ必要なのだと思う。例えば生薬の所では麦角の有効成分であるアルカロイドの定量方法について研究を行って薬局法の修正をしようとしていたし、放射線をあつかっている部門ではコバルト60で放射線を我々の生活に利用しようとする応用方面、即ち殺菌作用、高分子化合物を作るための重合化への応用、食品の腐敗防止など手広く研究していたし、又食品の所では飲食物取締令及び食品衛生法にしたがって食品添加物の試験、有害物質の定量、製品の品質規格、輸入食品のテストなどの検査を第一に行っているし、又薬理の所では廿日ネズミ、モルモット、ウサギなどを大量に飼っていて、最近話題になった不良化粧品検査や吉田肉腫を使つての抗ガン性物質の研究を行っていたことなどがその例である。

1/4周し終つて特に印象を受けた点はこういった分野に入るのは薬学出身の人が多く聞いていたが実際に目でみて回つた仕事の内容は薬学の範囲をはるかに越したものになっている。食品の所に行つたときもその係長の人々が我々に、単に薬学だけに止まらず、他の多くの部面をとり入れた立体的知識とそれを生かす応用のきく態度を身につけることが必要であると語っておられた。我々が赤外線吸収スペクトルによつて試料（検体）の化学構造をいとも容易に調べることができることをこの目でみてなるほどなと思つた。又放射能測定用の機械を説明して下さつた人は機械の内部の複雑な配線を指し示しながら、この様な機械が故障してもすぐ直すことが出来るようにならなければ一人前になつたとはいへない。特に最近真空管に代つてトランジスターが急激に進出し我々のような古い真空管になれた頭では役にたたなくなつてきた。つまりいまの若い人達と同じスタートラインに並ぶことになつた。こうなると若い人達の柔かな頭の方が有利になってくる。我々は今の若い人達に期待していますよと話してくれた。僕はなかなか味わうべき言葉だと感じた。

中外浮間工場

ここは赤羽駅よりバスで15分位西へ行き、まだ点々と畑が残っている郊外といった感じの所にあつて、明るいクリーム色のそして堂々たる建物がそれであつた。「この工場より大きい工場は外にもありますが新しいシステムで合理的な運営をしている点においては一流の工場でありこの特色でもあります。

昭和31年4月に現在の建物が着工されましたがグロンサンの需要が急激に増昇したため工場施設の拡張が急がれ現在予想外の拡張を進めております。このため最新式マシンを導入して生産にあたつてますがそれでも需要に追いつかず、従来の手工業的な流れ作業も行われているのが現状です。」と工場長さんが誇らしげに我々に語る。

この浮間工場の施設は現在グロンサン工場、バルサン香工場、製剤工場、注射薬工場より成つており、内部は色彩調節をした立派なものだ。又今後向いの広大な空地に現在以上の大規模な工場が建設される予定である。又研究所の方は現在高田馬場にあるが来年から十数億円の予算でこの工場のある浮間町に東洋一のものを作る予定であるそうだが、まあ東洋一はともかくそれが確かに可能であるとの印象をうけた。現在約50名程度の所員数である。

この外にある中外製薬工場としては高田馬場、福島鏡石、広島松永の三ヶ所にある。以前には北海道、大阪の堺、外地としては京城、上海にあつたが現在はない。

職前は三流会社であつたが、社員の努力を認め、その実力に応じてどしどし適所に登用していく実力主義と社長の

エーザイ製薬

新しい明るい建物、ガラス張りの経営、他社と比べると相対的に若い社員、新入社員が「自分が上役と感じられるのは社長だけ」と語ってくれたこと、社長も普段は一般社員と同じ室で仕事をしている。先輩の人も先輩顔しないで親切に教えてくれる……などから若さと家庭的な感じと明るい雰囲気につつまれていた。

積極政策が功を奏して現在の会社までのし上げてきた（現在900名の従業員がおり、内600名が臨時工である）従って入社の際も実力本位でとり、入社後も努力しだいで各人の間にいくらかでも差ができるそうだ。そのため家に帰っても常にコツコツ勉強しているし又様々な仕事をとりあつかっていく上に於ても常に批判的態度でのぞみ能率本位に考えていくが必要になってくる。

次に我々が製薬会社に入ればどんな仕事をさせられるのかとたずねると次の様に説明してくれた。

1 一般管理部門

学術的……宣伝をする所
プロパー……セールスマン

2 生産部門

これは研究部門ではなく工場内におりいままでの経験に対して学術的知識を応用して担当部の改良を行っていく、又工場内で製品を検査する実験室がついており実際に検査にたずさわるのは高校出の人で十分間に合う。ただその主任だけが大学出のことである。現在20人位の大学出がいる。

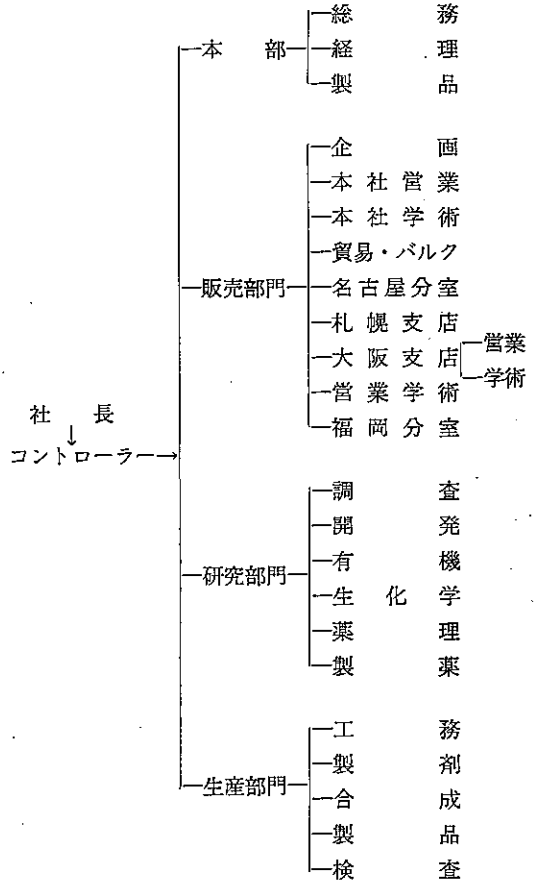
3 研究部門

会社の方針に全面的に従うもので基礎的研究、外国の文献からの研究、製造の改良

等の内容である。

さていろいろ話を聞いてから工場内を見学した。まず「グロンサン製造工場へ行った。ここでは他の部門から送られて来た一つつみ30万円也の純粋なグロンサンに澱粉や他の強化栄養剤などを加え、それを錠剤にして糖をかぶせ製品にする過程である。工場内部は中央に廊下があり、その左右に天井の高い広々とした室があり、その中に黄色に塗られた機械類が大きな音をたてていた。その中の様子が廊下からガラスをへて見える様になっている。さすがに新しい工場だけあって、床はリノリウム敷きでごみのつばい感じは全くない。機械類や床、窓わくなどには明るい色彩が塗られていて、清けつで明るい感じを受けた。機械類は新しい型のものがどしどしとり入れられているが、それだけでは需要に追いつけず、古い型のものも共に使用している。しかしやがてはすべて新型の機械になるとの話で、現在が丁度その過渡期だとの感じを受けた。次に純粋なグロンサンを作る過程の方に行ったのが、大きなタンク類が内部にどっしりとかまえているのが印象に残った。さらに殺虫剤・バルサンの製造工程などを見て場内を一周した。最後に工場の厚生施設をみたが入浴施設、理容室、映写設備のととのった食堂、休けい室、医務室、などいたれりつくせりであった。

とにかくグロンサンという中心になるものを得て新進の意気盛んに、どんだんして行こうとするファイトがうかがえた。



エーザイの運営は社長を中心として上図のように4つの部門から成っており、それぞれに代表部長をおき一室の計画をあたえられてそれを実施することにより運営される。

本部は全社的に人、金、及び物を統轄し販売・生産・研究の各施行部門は、それぞれの向に専念することになっている。

各部門の上にはコントローラーという管理部門があって、各施行部門の業態を管理することになっている。

この会社はこれといった大黒柱的な製品は存在していないが、他のメーカーが手をつけていない分野をねらって開拓していく方針で中堅的なものが多くそろっており、営業が堅実なのが特長で将来のびていく可能性が多いという。

製品の半分がプロパーの力によって病院へ半分が薬局へ出されている。参考に今年入った人は全部で大学出が45名でそれらの人達は半月間見習いで、研究室、工場、企画などを一通り経験する。それから研究所方面をプロパー方面とに分れるわけである。とにかく会社が若いため1~2年でかなり責任のある仕事を与えられ、非常にやりがいがあると思った。又常に試験試験で社員は勉強をおこたるわけにはいかない様になっている。即ち大学を出てからが勝負なのである。

この研究所は、はっきりと調査と研究に分れている。調査というのは外国の事情を捕えて研究のムダをはぶくと同時に研究方向を探知する目的をもっている。したがってここに入る人は特に語学、主に英語、独語の文献を読みこなせる人が是非とも必要なのである。そしてここで捕えたものは、会社の方針にしたがって有効に利用される訳である。研究室は、製剤、合成、元素分析、生化学、生薬、動物実験室、検定室等の室に分れて、あくまでも科学の実用化を目的に各大学の先生方が研究されたテーマを基礎にそれを実際に応用する分野を研究している。二週に一度、自分の研究の経験報告をする研究会がもようされ、三名の顧問が助言する様になっている。

次にこの社ではプロパーを非常に重視していることが感じられる。即ちプロパーは医者を取り自社の製品について各方面からくわしく説明する。いわば ditale man であると同時に医者の求めている医学界、薬学界の最近のニュースを提供し、さらに外部からのニュースを捕える会社にとって重要な人物であり、プロパーの数は会社の規模を表わす重要な指表となっているとの話である。今後プロパーはあまり人数をふやさず一人でできるだけ多く回れる様に各自に自動車を与える様にしたいといっていた。

研究員となるのもプロパーとなるのも、もちろん本人の希望もいれるが、入社時の成績次第である。

資本金4億7千万、従業員 930名

三 共 品 川 工 場

創立以来60有余年、300余種に渉る 薬品の製造、日本有数の製薬会社

1分間に 600個も打ち出す打錠機、カプセルの滅菌、充填、熔封、その他オートメーションされた種々の設備をみてから、会社の方と懇談した。

戦前は病院関係へ送る大衆性の少ない薬品を製造していたので大衆とのつながりが他社より立ち遅れていたが、胃腸薬などの出現で次第につながりを増加しつつある。

代表的薬品

クロロマイセチン、ミネピタール、タカジアスターゼ、オリザニン

品川工場 敷地 2万坪
工場 1万余坪
従業員 1,300名

労務状況 一ヶ月売上 10億円
男子742名 女子554名
平均年令 男子29才 女子25才
平均勤続年数 8.2年 男子9年 女子7.1年
賃金 平均 22,520円
初任給 中卒 5,200円
高卒 7,450
大学 12,200
年2回昇給 1回最低 600円

研究所は三共の基礎をきざいた高峰博士を記念して高峰研究所と呼んでいる。人員約140名毎年4~5名入っている。しかしここは伝統が古くがっちり固まっており、人員の新陳代謝が少ないといえる。研究分野においては薬学出身者ばかりだと思っていたら大間違いで農学関係の人達の進出がめざましかった。研究所ではテーマを与えられて

新発売

本邦初のイオン交換樹脂による

徐放性 抗アレルギー剤

- 1 朝1錠と夕刻1錠で足りる
- 2 1錠4睡で充分な止痒効果
- 3 昼間に用いて催眠性がない

ハイスタミン錠

(Diphenylpyraline製剤) 1錠中4mg含有 健保適用



イーザイ株式会社
東京都文京区竹早町
1,000錠 四、〇〇〇円
100錠 六〇〇円

新薬製造の研究にあたっている。又上の人は自分の研究もやっている。又外国会社とも技術提携を結んでいるが主として文献上の交換が多いとのことである。この会社は別に学閥はないが東大、慶大が多い。東北薬大からも毎年2名入社しているそうである。

「4年制大学を出ただけでは製薬会社特に研究部門に入るのはむづかしいときいたのですが。」という、「基礎をしっかりとっておけば4年制で結構。大学院卒という人はあまりききません。」との返答であった。

プロパーについて聞くと初めからプロパーとして専門に採用する様なことはなく、原則として技術系統、事務系統から希望者をつのっている。事務系の人でも、熱心にやれば3ヶ月もすれば以前に薬学的知識を全くもってなくても一通りの仕事は覚えられ、あとは本人の腕次第、即ち先輩の地所を守るだけでなく積極的に分野を開拓していこうという精神、腕、心臓が必要とされる。したがって将来ほんとうに薬学的才能をのばしていきたいと考えている人は、やはり研究方面に進むべきだといわれた。みなプロパーは年令的に若い者がなり40代をすぎると実績に従って各地位におちつくという。

理 化 学 研 究 所

私達の見学した理化学研究所、略称「理研」は大きな木立に囲まれたやや古めかしい落ち着いた研究所にふさわしい雰囲気感ぜられる所でした。

先ずこの「理研」の所在並びに沿革と仕事の概要を報告致しましょう。

◇所 在◇

「理研」は東京都文京区駒込上富士前町31番地にあり、敷地8,280坪、建物5,850坪でありこの研究所の職員総数は817名です。

◇沿 革◇

理化学研究所は大正6年3月20日に財団法人「理化学研究所」として発足し学界及び産業界に多大の貢献をしました。終戦をむかえ昭和23年3月に連合軍総司令部の指示により財団法人組織を解散し、「株式会社科学研究所」となりその後財政基礎確立のため昭和31年2月、科学研究所法に基づいて半官半民の特殊会社として、新「科学研究所」として発足し、さらに昭和33年10月、理化学研究法に基づき特殊法人として改組設立して現在に至っている。

◇仕事の概要◇

この研究所には、物理部門、工学第一、工学第二、無機化学部門、有機化学部門、生物化学部門の6つの部門があり、37の研究室に分れております。そしてここでは大きく分けると4つの仕事が行なわれている。

(1) 試験研究 これは科学技術の基礎と応用の両面にわ

たる総合的研究であり、次の3つに区分して行われます。

- (1) 自己研究……自己資金と政府補助金によるもの。
- (2) 受託研究……国及び民間産業からの受託研究。
- (3) 工業化試験…産業界で要望されていながら実施困難なものを重点的に行う。

(2) 試験研究成果の普及

- (1) 研究成果の発表、刊行物の頒布、講演会や講習会の開催など。
 - (2) 特許権など工業所有権を実施して広く民間産業会社に役立たせる。
 - (3) 技術相談…例えば、アイソトープ関係の設備などの各般の技術指導と相談。
 - (4) 試作品の製作…各方面の要望にそって研究所の成果を活用すること。
- (3) 試作品の製造 企業的に、技術的に一般では製造困難なものを作る。最近一年間の製造品目を例示すると、放射線測定器（放射線計数装置、GM計数管、ポケット線量計等）精密測定器（顕厚計、表面アラサ検査機等）、水中カメラ、映写幕、サーモペイントなどです。

(4) 新技術の開発

- (1) 主として大学、国立、公立並びに公益法人等の試験研究機関で行われた新技術の成果と調査検討し「開発委員会」にはかった上で企業と契約を結び開発を委託する。
- (2) 新技術のあっ旋 各種研究機関の成果を自己資金で開発実施できる企業にあっ旋するための諸準備を整えます。

以上の仕事を行うには多大の資本金を必要とします。それではこの研究所はどう運営されているのでしょうか。

◇資 本 金◇

資本金は12億5千140万円です。うち政府出資金が8億円であり民間出資金は4億5千140万円です。これは政府出資額は常時資本金の1/2以上に当る額を定められているからです。

◇研究成果は人々の上にどう役立っているか◇

この理化学研究所の成果は大学その他の研究機関の委託等に応じた指導並びに共同研究において常に中心的活動を行い、又産業界のあらゆる面に科学的助言と指導、工業所有権の委託実施などを広く行いこの結果は技術や設備その他、特許料等の外貨節約に役立ち、研究においては実用化された物（例えば、ビタミン類、新抗生物質、農薬品、合成清酒、合成ゴム、アルマイト等）は我々の生活水準向上のために大いに役立っております。

以上が理化学研究所の概要であります。

◇見学内容◇

さて私達が見学したのは、この生物化学部門の抗生物

質研究室でした。この抗生物質研究室では現在主として抗ガン性物質並びに抗結核性物質等が研究されております。

現在の段階に於てはガンが如何なるものか判然としておりません（例えば、蒸留水を継続的に数百回ぬることによってもガンが発生するからです）。

それで現在は抗ガン性物質を天然物から求め、各方面から土壌を集め、その土壌中に含まれている各種細菌を培養し実験的にガンを起させたマウスに注射してその結果、延命した細菌より抗ガン性物質を注出する方法によって研究が進められております。この研究は実に強い意志と根気を必要とする仕事であります。ペニシリンやストレプトマイシン等の発見もこの様な研究が基礎となっております。

又、この研究室には放射線照射（コバルト60）により食品（例えば、酒、味噌、醤油）又、薬品（注射液）の防腐の実験研究が行われており、現在コバルト60の照射により物品の変質が起らないように、且つ、長期間の防腐が行われ、照射によって防腐された物が人物に入った場合、人体になんらの影響も起らないための照射量等の研究が進められており、これが実用化された場合我々の生活は益々豊かなものとなります。

◇私達の将来◇

この「理研」に於ける研究者は奨学生制度によって入所した者、教授の紹介による者、自己負担による者、産業界から派遣された委託研究者等であります。私達の見学した生物化学部門の抗生物質、生化学、醗酵化学、等の研究者

の出身学部を見ますと、ほとんど総てが農学関係出身者でしめられており、我々としては少し物足りなさを感じました。将来研究者を志している我々は薬学の研究分野の広い事を認識して、各部門に積極的に進出して行かなければならないと思う。

宮城県庁医務薬務課

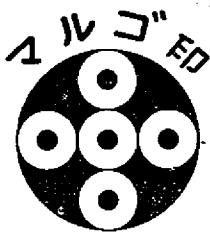
県庁の組織で衛生部の下には医務薬務課、予防課、公衆衛生課の三課がある。それぞれ専門に薬剤師が働いているが、官庁の仕事はいかなるものかということを知るために我々に最も関係をもつこの課を訪ねる対称にした訳である。毒物劇物取扱者試験願書綴などという書類のうづ高く積まれた机の前に係の人から色々話しを聞くことが出来た。医務薬務課には次の様な種類の仕事がある。

庶務係（11名）：これは保健所、衛生研究所の運営指導、課の定員、研修、勤務に関する事。会計や書類の保存等の事務を行う。

医務係（6名）：これは病院設置の許可、病院診療所又は助産所構造設備検査及び使用許可、病院診療所、助産所の広告取締りに関すること、又医師、歯科医師 etc. の免許に関する事務取扱い。その他

看護係（4名女子のみ）：宮城県公衆衛生看護学校運営に関する事、看護婦、保健婦、助産婦の免許、登録、再教

長期大量投与に
副作用の少い



田辺製薬

の新結核薬

ピルビン酸カルシウムイソニアゾン（略称IPC）

社会保険
予防法適用

ピルビナイレン

末 25g 100g 500g
錠 100錠 500錠 1000錠

- 大量イソニアジド療法に最適です
- 有効血中濃度の持続時間が長い
- V.B₆の減少又は欠乏が少ない
- 副作用少く、安全に使用できる
- 結核病薬に対する滲透性が大きい
- 発病予防・再発防止に最適

VNI-62

育に関する事、その他

薬務課（7名）：薬事法による登録許可及び指導に関する事。医薬品販売業者資格認定・薬剤師国家試験に関する事。医薬品製造品目許可に関する事。温泉法の施行に関する事。薬剤師免許申請に関する事。薬局の登録及び更新に関する事。毒物劇物製造業者の登録更新に関する事。麻薬及び大麻取締法に関する事。医薬品用具及び化粧品製造業の登録並びに更新に関する事。薬局・医薬品販売業の統計調査報告に関する事。薬事統計に関する事。薬価基準調査に関する事。医薬品用具及び化粧品等の生産指導に関する事。医薬品等検査合格証の受払いに関する事。

薬事指導監視係（7名）：麻薬及び大麻取扱者の指導取締りに関する事。麻薬司法警察に関する事。あへん法並びに刑法第十四条の罪の取締に関する事。不良不正表示医薬品用具化粧品等の指導取締に関する事。誇大広告、無登録業者の取締に関する事。採血業者の指導取締に関する事。医薬品等の試験検査並びに鑑定に関する事。覚せい剤の施用機関及び研究者の指定に関する事。覚せい剤並びに覚せい剤原料の指導取締りに関する事。毒物劇物指導取締りに関する事。有機燐製剤の指導に関する事。青少年保護育成運動に関する事。宮城県覚せい剤問題対策推進本部に関する事。

衛生統計係（7名）：各種統計調査に関する事。

以上が各係の分担事務である。

この衛生部の下に県下14ヶ所に保健所と他に衛生研究所があり技術的な仕事はその任務である。例えば薬事鑑視員が“あやしい”と思った薬品類は研究所（衛生試験所が拡充されたもの）や国立衛生試験所に送られ、分析の結果規格にあわなければ、県がその業者に勧告や廃棄命令を下すといった具合である。県の仕事は厚生省と業者の間にあつていろいろ事務的な手づつきとか、県下を足まめに歩き廻り鑑視の目を光らせるといった内容のものである。しかし人数が足りず市とか保健所からほとんど応援をもらっているのが現状である。

薬事鑑視員の資格

- 1 薬剤師、医師、歯科医師又は獣医師
- 2 通算して一年以上薬事に関する行政事務に従事した者であつて、主務大臣又は都道府県知事が薬事鑑視について十分の知識経験を有するものと認めたもの。

この県庁薬務課に入るには薬事法に規定されているのだが、先ず薬剤師の免許をとり、地方公務員の試験にパスしそして欠員があれば可能とのことである。

他の予防課（2名）公衆衛生課（1名）にも薬剤師がいるがいずれの場合も第一線の技術的な仕事は保健所、研究所がやり県庁の仕事は許可、申請等の机上の事務的な仕事と指導取締等の歩き廻る仕事だけの様である。

宮城県衛生研究所

この研究所は県民の健康を守るために、県内14ヶ所の保健所の上に立って、専門的な調査研究をしているところである。こうしたものは戦争前にはほとんど申しわけ程度のものであったのが、戦後占領国の政策によって衛生関係の行政が重視され、県の機構改革で衛生課が衛生部となると共に以前の衛生機関が統合されて衛生試験所が組織され、後に宮城県衛生研究所と改称され、衛生部直属の調査研究機関として活動を続けているわけである。

我々は玄関のホールから二階の講義室に通された。ここは30個あまりのいすとか机が並び前部には黒板、教卓があつた。研究所内各部門の研究発表会、役員会議、高校卒業生を対象とした、技術養成講義などが行われるという話である。我々はここでしばらく説明を聞いた後、各部門に分れている研究室を見学した。

さてここで研究所内はどのような部門に分れ、どのような仕事を行っているかについて述べてみよう。

まず大きく細菌の部と化学の部に分かれている。細菌の部は病原菌の検査研究及び培養さらに臨床的な診断に必要な検査を行うところである。

細菌室

第一：腸内菌及び結核菌の検査

食物の中毒原因の検査研究

第二：血清学的診断に必要な検査研究

日本脳炎・インフルエンザの検査研究

第三：寄生虫検査・衛生動物などの試験研究

培養基室

各保健所におけるための細菌の培養に必要なものを作ったり、消毒むよで試験動物を飼育する。

臨床検査室

尿中の糖など病気の診断に必要ないろいろな検査研究
これらの研究のため孵卵機室（人体の温度における細菌の状態を研究する目的）や冷蔵室などの設備が目についた。

化学の部は、医薬品・化粧品・温泉・水などの検査研究などから食品類の検査研究にいたる我々の日常生活につながるをもつ様々の商品類をとりあつかひ、我々の生活を守つている。

有機化学室：医薬品、化粧品などの検査研究をする。

環境検査室：温泉、水、空気、住居の衛生状態などの試験研究

食品検査室：一般加工品（ミソ・ショウユ・中華ソバ

に入れるカン水・ズルチン・サッカリン)の分析・栄養を調べあるいは中毒の防止についての試験研究

水産食品検査室：魚介類その加工品などの試験研究。

乳肉検査室：牛乳、バターチーズ、アイスクリーム、等の乳製品、ハム、ソーセージなどの食肉品の試験研究

化学の部には 精密機械室、分析室、天秤室、実験機械室、細菌室があり、検査研究に大いに役立っている。

精密機械室にある分光光度計、PH測定器や天秤室にあるマイクロ天秤などは最新式ですばらしい。測定するものを機械の中に入れて紙にPHの値が書かれるといった具合だ。つまり種々の分析といっても手にたよる部分がないに縮小され、こういった機械類がその代りをするようになっているのである。我々はこうした事実をみて物理的な知識の必要性を痛感した。

また食品検査室では、その当時新聞紙上をにぎわしていた女川のアミをそめる色素から有害成分が検出されたと東京から情報が入り、そのためペーパーグロマトを使ってその確認を行っていた。どうして東京までそんなものが運ばれていったのが不審に思っていると、県内の食品はほとんどが衛生研究所を通ることなしに、各都道府県に送られ、他県で御用といったことも少なくないと説明してくれた。

東北大学医学部附属病院薬局

きしみだけは、うぐいす張りを思わせる古びた廊下をしばらく通った病院の右はずれが薬局関係である。東北大学医学部の前身医専時代の薬科出身で我々の大先輩たる薬局長、高瀬先生が丁度外出されたあとだったので主任の方にお話をさせていただいた。

この薬局部門は、調剤、注射、軟膏、製剤に分れ、外に薬品倉庫を持つ。

調剤：凡そ20坪の臨時調剤室と40坪の調剤室があり、各科からの処方箋に従っての調剤一切が行われる。

臨時調剤室は急病者、時間外患者のために昼夜開かれ調剤室とほぼ同種同量の調剤を行う。

注射液：6坪程度の一室で大量の注射液が作られる。製剤室からひかれた蒸溜水に粉末をとかして作り、それを大型フラスコに各々分けて貯えられる。

製剤：ここでは蒸溜水の製造及び薬局で使う大量の薬品の精製が行われる。蒸溜水は直径1m余の釜(タンク)をもつ蒸溜装置で作られ、それが注射室、調剤室にパイプで引かれ、またこの室でも製剤用として使われている。その装置以外には機械らしいものは何も見あたらない。案内し

さて次に我々にとって身近な問題に入ろう。ここでは事務をもっている人4人をのぞいて、27名の技術にたずさわっている人がいる。そのうち薬剤師は、5名とのこと。意外に少ない数字である。それは、こういった仕事は地味で地方公務員待遇であるため、薬学系出身者の人達は他の華やかなプロパーなどの職を希望し、こういった所にはあまり来たがらないそうで、本来はもっと薬剤師の人が必要であるが、かわりに生物とか水産関係の人が仕事を行っているという。また薬剤師のする仕事というのは、化学の部の医薬品・化粧品・温泉・水・空気それに食品類の検査研究・細菌の部の臨床検査などが主になっている。

ここでは研究所と名前は付いているが、おもに検査が中心となりそれに追われどうして、研究といってもそのあいまに行うので、どうしても行っている検査から離れるのがむずかしく、それに則したものが多く、コウエン菌の研究・黄豚の原因追求・寄生虫の研究など今行っているそうだ。研究の結果は所内発表会のほか、学会に出かけていってそれを大いに活用するそうであるが、学会といっても思うように出席できないのが現状らしい。やはり先立つもの、金の時代はここでも大きい制約となって表われ、各検査に必要なぎりぎりの人員しか採れず、また最も必要な医師や薬剤師を十分に集めることができない。しかしここは各県にある衛生研究所のうちでも、東京以北最もすぐれている部類で他と較べたらめぐまれているようではある。

ていただいた人の話によると次の軟膏の室と同じく、戦時中、機械装置を疎開させたため、それが使いものにならなくなってしまう、いまだにこうしたもので間に合せているとのことである。そばにはうず高く薬品がつまれ、それがここで煮沸消毒される。この室は廊下を経て北向きにしか窓のない、採光通風の悪い一見小使室を思わせる粗末な場所です。我々は室の暗さ、貧弱さにまず驚かされた。

軟膏：北側の廊下に面して製剤室と同じ並びにある。3・4坪ばかりの薄暗い一日中電燈がともっている部屋である。あたり一面、所せましと薬品類及びそれを軟膏にするための器具が並べられてある。大量の軟膏を作る場合にはローラーが使われるが、一台きりの小型のもののためほとんどは小さな器に手でねっているとの話である。

薬品倉庫：天井はりが縦横にみえて体育館を思わせる製剤室及び軟膏室の二階が、この病院であつかう大部分の薬品類の保管所になっている。製薬会社など外部からとりよせる薬品はここに保存され、必要に応じて担当部門にまわされる。各薬品は注射液、錠剤、新薬の三種に分けられて各々の棚に整然と保管されている。しかしここは木造で天井もなく屋根裏がまる見えの状態なので、温度、湿度の差がはげしく、訪れたときには内部はむっとする暑さであった。また防火設備もなく、全く薬品保存には適所ではないが、現在はこれに甘んじる外はないとのこと。

次に組織を図示すると

薬局長 外科医長 内科医長 etc.
調剤, 注射, 製剤, 軟膏主任
薬剤師, 補助員

薬局は外科, 内科…etc. といった各科と対等の位置にあり, 薬局長は科長会議に出席する。現在薬剤師は定員21名(うち女子4名)で, その8割以上は東北薬大の出身で, その他東京女子薬専などの出身者も含まれる。薬剤師は一通り先述の四部門の仕事を順次につくが, 後にはいずれかの専属となり分業の形をとる。実際の仕事は大学病院の各科からの処方箋に従って調剤することで, 現在は定員もそれに必要な最小限の数であるため勤務時間はその仕事をやるので精一ぱいで, 現在の段階では医学・薬学共同での研究といったものは全然行われていない。ただ薬剤師の中には勤務時間外に病院の薬理, 基礎医学, その他の研究室にいて博士号をとる例がかなりあったが, それはあくまで薬剤師の仕事とは別個で, あくまで個人的なもので調剤の仕事には医学の知識は全く活用される部門はない。

大学で学んだ基礎知識はそのまま活用され, 4年の大学を出た場合, 完全に調剤に慣れるまでに個人差はあるにしてもほぼ3年は要する。最後に案内して下さった人は将来は薬学科は密接な関係を保って協力し合い, 単に調剤だけでなく研究部門の新しい分野を開いて東北大学附属病院の薬局として立派な成果をおさめたいと云っておられた。

そういった意味において我々薬学科生に大いに期待していると話してくれた。

薬 局

今やPRの時代とばかりに, 新聞, ラジオ, テレビ等でクソリの宣伝は実に華々しいものである。この種の宣伝は, 製薬会社(メーカーと呼ぶ)が行うものであり, 一般小売業者と較べて, それほどメーカーの勢力は大きいのである。メーカーと小売業者との間に問屋(卸屋)があり, 両者の橋渡しの役割をはたしている。メーカー→問屋→小売業者というルートを経て, 人々の手にクソリが渡って行くのである。小売業者, すなわちクソリ屋と一口に云っても種類があり, 然るべき薬剤師が居り, 二坪以上の調剤室と法規に定められた備品をそなえている店を薬局と称し, 他の二号業者, 三号業とは区別されている。二・三号業者は調剤が出来ないのは勿論, 取扱可能な薬品数も相当かざられている。

さて大分世間を騒がせ, 昭和31年4月1日より実施された医薬分業は, 次第に各方面において理解されつつあるが制定された分業法が穴だらけの為か処方箋は思う様に薬局に出廻らない有様。しかし現代の医療大系を健全なものにする為には医薬分業が是非とも必要であるから, いずれは名実共に実施……される事になるであろう。

この様に分業があまりうまく行かず, 加えて生活協同組合・購買組合等の拡大, 薬局の漸増と都市集中化, メーカーの直売, 一般経済界の不況による一部業者の濫売, 安売が行われ, 薬局の経営は困難である。といったところが薬局の現状であろう。

しかし一方においては, 学校保健法による学校薬剤師, (学校保健法というのは, 一校に一名づつの薬剤師を置かねばならぬという制度), 更に工場衛生管理者資格, 受胎調節指導者資格, 臨床試験技術者資格を持つことが出来, 又国民健康保険制度の発達による国民健康保険薬剤師等, 薬局における薬剤師の仕事の範囲は除々に拡大しつつある。

こうした中であって, 今後の薬局は, 気軽に食品検査, 検便, 検尿, 水質検査等を行い, 街の小さな環境衛生の相談所あるいは健康の相談所として, 又薬剤師も単に人としてよりも街の化学者・技術者としての信用を得る事がこれからのとるべき道ではなからうか。(新妻卓逸)

精神々経科

国 見 台 病 院

院長 松川金七

仙台市長者荘150

TEL (2) 8360・2478

理 科 診 療 科

産 科 婦 人 科 永 井 病 院

TEL 院長宅 (2) 0583

仙 台 (2) 0386

仙 台 (2) 5582 }北三

入 院 設 備 有

大 友 胃 腸 病 科

仙台市二日町北二角

電話 (2) 6575

薬科系大学に関する

アンケート

アミコス編集にあたって、6月下旬に全国の国、公、私立大の薬学部（科）及び薬科大26大学を対称として、薬学に関するアンケートを出してみた。このうち返答あったのは、千葉大、共立薬大、東邦大薬学部、静岡薬科大、金沢大学薬学部、富山大学薬学部、名古屋市立大学薬学部、京都大学医学部薬学科、京都薬科大、徳島大学薬学部、九州大学薬学部、長崎大学薬学部、熊本大学薬学部の13大学である。

(1) 専門講座について

名称はともあれ、大体が下記のような5～9講座を持っている●薬品分析化学 ●薬化学 ●薬品製造学 ●生物薬化学 ●衛生化学 ○薬剤学 ○薬品作用学 ○生薬学 ○放射化学（●は本学に現在設けられている講座）

このうち一般学生が、興味をもっている講座は、薬品分析化学、薬化学、薬品製造学、生物薬化学であり、敬遠している講座は、衛生化学、生薬学のようなものである。

(2) 専門過程の学生の出席について

殆んどの大学が極めて良好である。出席を厳しく要求され、単なる単位をとるための時間かせぎという学生も多い（某私大）という回答もあったが、概して自主的であり、向学心に燃えているようである。

(3) 教養過程と専門過程の関係について

1年から、化学実習、生物実習と基礎専門をやっているところが7/13、2年からは6/13である。特に単科大学では一般教養科目という名目で、専門科目をやっている。例えば生物で薬用植物学、化学で有機薬化学を履習している。総合大学に於ては、2年前期から基礎専門、後期から専門科目に入っているところが多い。但し1年から基礎専門科目をやる傾向も多分にみられる。現状のデパート的専門過程には不満をもっており、もっと専門科目をやりたいという意見が多く、教養科目を余裕をもってやってみたいという某私大の声を除いて、殆んどが一般教養科目を、重要視していないようである。これを逆に云えば、後述のように専門過程が2年半ではあまりにも短かく、落ち着いた研究出来ないということである。本学でも2年後期から専門過程に入るのは遅すぎるという声が上級生に多くみられその理由として大部分が「薬学の発展とその範囲が広いから、専門過程2年間では足りない。」というものである。

(4) 専門過程の実験・実習について

特に優れていると思われる点は、実験用モデル工場を有す京大、物質的には不備だけであるが(?)数名の優秀

教授の頭脳をもつ千葉大等は羨しくもあり、又我々も考えなければならぬ点ではあるまいか。

不備な点は、歴史のあるところでは校舎老朽、機械器具が古いため故障が多く、設立以来日の浅いところでは、機械器具が不備であり、冷暖房の設備がないと嘆く段階まで不備だらけのようである。一般的に国立大薬学部（科）よりも公私立の薬科大の方が施設が整っているようである。

(5) 薬学を研究する期間が4年間であるということについて

どの大学も4年間では短かいと唱えている。その主な理由は、最近抗生物質、放射線学等の研究分野が広範囲に至り又一般的教養も余裕をもってするとところまでいっていない（徳島大）専門過程2年間では確かな技術も身につけられず、世の中に出てから困る（金沢大）などである。その解決策としては、教養過程を廃止する（九州大・金沢大）、5年制にする（千葉大・京都薬大・徳島大）6年制にする（九州大）などがあげられているが、中には4年間では不足を感じるが、経済的なことも考えれば問題がある（熊本大）教育計画をもっと有効にやれば4年間でもよい。1年間延長したところでずるずるやれば教育効果は上らない（東邦大）心構えの問題である（静岡薬大）4年以上の本格的な研究を望む者は大学院がある（富山大）など、単なる期間のみの延長に反対する意見もみられた。本学に於ては「丁度良い」が最も多く次に「短かすぎる」という意見であった。その理由として前者は「しっかりやれば決して短かいということはない。」後者は「専門的知識を充実させるため」であった。

(6) 薬学部（科）の男女の比率について

一般的に他の学部比べて女子の数が大変多い。名古屋市立大、京都大、金沢大、富山大等は。男：子=3：1、熊本大・長崎大・静岡薬大等は1：1、九州大・徳島大等では女子の方が多い様である。そして京都薬大、静岡薬大を除いて殆んど年々女子の数が増えて来ている。本学もこ

の傾向が多分にうかがわれるが今のところ比率は3:2である。「薬学と女性」興味深い問題であろう。

(7) 薬学部(科)に存在する組織について

殆んど学校が名称こそ違え、東北大の薬友会のような組織をもっている。目的は殆んど薬学科内の親睦をはかったり、就職問題教授と学生との間の会を開いたり、いろいろの行事を計画遂行するというようなもので、政治色のものは少いそうである。薬学部(科)で組織している関係上、構成は専門過程の3・4年生が会員で、1・2年生は準会員(千葉大・富山大)というように、主たる3・4年生の専門過程の人達を中心に活動しているようだ。そして各地方の薬連の加盟しているところも多いようである。本学の薬友会は、会員の親交互助をはかり、会員の相互練磨によって人格学問の向上並びに薬学的素養をつちかうことを目的とするとある内に本学の学生は親睦を得ることを、学習意欲を増すことを期待して、その具体策として、講習会、研究会等を最も望んでいる。

(8) 雑誌発行に関して

アンケートに返答のあった全部の大学が、薬学部(科)としての雑誌、新聞を年1~2回発行している。純粋な専門誌を発行しているところは共立薬大と、長崎大・九州大・熊本大の三学が合同している2つに過ぎない。文芸的なものと、専門的なものの混合しているものは、千葉大で大部分が文芸・親睦的なものである。ついでに本学での「あみこず」の今後に望むことについてのアンケートには、専門的なものと文芸親睦的なものの混合が良いの意見が圧倒的に多く、その形式としては活版を取り入れるのが、文字がはっきりして良いというのが多かった。又文芸的なものと専門的なものを別々に発行した方が良いという意見も多かった。

(9) 専門過程の学生と教養過程の学生の交流について

大体総合大学である国立大学は、1・2年と3・4年の校舎が別である為、交流はあまり行なわれていず、主にクラブ活動、新入生歓迎会、4年生送別会、各種スポーツ大会を行ったりして交流をはかっているようだ。それにひきかえ単科大学である公私立の大学は、校舎が1ヶ所にかたまっているため比較的交流はうまくいっているようである。特に各学年10名づつ、40名が1人の担任教授の世話になる担制度(京都薬大)があるところもある。こうしてみると専門過程の学生と教養過程の学生は、校舎が離れていると自然に交流がなくなるようである。

(10) 一般に講義だけでは得られないものを、どの様にして得ているかについて

勉強・研究に関しては図書館で勉強する。特別講座がある(京都大)ゼミナールを設け、時には教授を招いて討論する。(千葉大)学術サークルに加入(京都薬大)各研究室へ教授の手伝いに行く(富山大)乳業関係酒造関係等の工場を見学したり、毎年4年の春に一週間ばかり京浜・京阪

神の化学・製薬・食品関係の会社に見学旅行に行く(金沢大)等でその他は読書・映画・小人数の討論、各クラブ活動への参加等である。本学に於ては読書によるというのと、小人数の討論によって得ているというのが大変多かった。

(11) 薬学科は暇がないと言われるが放課後の学内サークル活動への参加の状態について

実習で暇がないのは確かであるが、各自暇をみつけてサークル活動へ参加している様である。しかし4年生ともなると国家試験・卒論・就職等で忙しくなるから手を引く様である。本学では教養過程に於てサークル活動参加者が割合多いが、不参加の者の不参加理由は好きなサークルがないからというのが多かった。

(12) 薬学に関係ある団体への参加状態とその活動状態について

関西薬学連盟——名古屋市立大、京都薬大、静岡薬大、富山大、金沢大
毎年7月頃運動・学術・文化を通じて薬学生の交歓会を持つ。

九州薬学部連盟——九州大、長崎大、熊本大
一年に一度交歓会を持つ。

関東薬学連盟——共立薬大、東邦大、千葉大
秋に体育祭学術祭を行う。

加盟していないのは京都大、徳島大と本学である。

(13) 飲酒・ダンス・麻雀等の解釈の仕方について

各人各様だが社会に出たときの娯楽の具として(特にプロパーには)必要である等と社会に出たときの事を考えて経験しておく方がよいとか、まあお付合程度でというのが大半の意見の様であって、各々程度をわきまえて、行動している様である。本学では学生の本分を踏みはずさない様に広く浅くやるべきだという意見が多かった。映画の方はどの学生も大いに見ている様であるが、本学では月に2~3回が最も多かった。

(14) 卒業後に関する就職問題や国家試験について

各大学の在学生の就職希望は、男子の場合8割程度の者が大会社の研究所の技術者で残り、2割位がプロパーその他となっている。女子の場合は男子と並んで製薬会社の技術者を望む者も居るが、大部分は病院か保健所薬局の薬剤師を望むようである。中には海外派遣を夢みて語学を熱心に勉強している人も居るとのこと(千葉大)。これに反して現実の就職状況は、男子の場合同じ製薬会社でも研究室に入る技術者よりも、営業方面のプロパー(外交員)として就職しなければならぬのがどの大学に於ても悩みの様である。製薬会社へ就職した者の1割位が研究室に進むということだ(某公立大)。この製薬会社勤務が7~8割、その他大学院進学、大学研究室助手、保健所、衛生研究所、県市町薬務課等である。女子の場合病院薬剤師が最も多く、次いで薬局薬剤師、保健所、研究所助手、製薬会社勤務と

なっている。就職率は各大学共10割の様であるが、一流会社へは3割程度とのこと（名古屋市立大・京都薬大）。又女子より男子の方が就職決定に於て早い傾向にある。本学に於る就職希望は順に製薬会社、研究所、大学院に残るのが多く、その理由として自分に適しているとか家庭の事情からというのが多かった。国家試験はどの大学に於ても殆んど全員受験し、平均して9割強の合格率を示しているが最近どの大学に於てもやや合格率が低下してきているとのことである。

(15) 女子学生の就職と結婚の問題について

最も理想的な考え方は就職して2～3年経ちある程度経済力の出たところで結婚して、結婚後もやはり職業を持ち続けられれば持っていたいということである（金沢大）研究室に入り或は就職して自分の仕事に身を打込むといっても、やはり女の最上の幸福は結婚ということに落ち着くのではないのでしょうか。もちろん異論を主張する人もいますが（富山大）そして各人々々の種々の状況により結婚と職業を両立させる者も居るが、大半は就職しても結婚すれば結婚生活に入り後になって自分が働らかねばならぬ時に薬剤師等の資格を役立てる人もある（長崎大）。とにかく過渡期の重荷を背負った者としての悩みは深くはつきり解決をつけている人は少い。抽象的に理想論を云々するけれども女子が生活上に背負っているハンデキャップは大きく家庭生活の幸福か、一生を仕事に捧げるかは、なかなか割り切れるものではない。だから一人前の社会人として、一応独立した生活を目前の目標とする以外にないのではないか（千葉大）という様にこの問題がいかに難かしいかを示している。

(16) アルバイトその他について

アルバイト学生は平均2割程度であるが、都会の学生は4割位の所もかなりある。本学でも4割程度。家庭教師が最も多く、他には休暇中に会社のプロパーとか薬局見習等である。入学者について、合格者中6割以上が現役というのが6学、5割程度が5学、3割程度が2学である。本学は4割が現役入学者である。女子には浪人が少い様だ。薬局や医師の子弟は両者を合せても1割から2割の大学が多いが、京都薬大の4割強や東邦大の4割は目立った。

最後に我々が最も考えねばならぬことを金沢大の方の意見を借りて述べる。薬学部は他学部比べて学資もかかるし、毎日遅くまで実験に追われ苦勞するにもかかわらず、他学部卒業生に比べて社会的地位が以外に低い（特に医者と比べると）。医薬分業は有名、無実であり医薬関係の制度はますます医者に有利な方向に向う傾向にある。又製薬方面に於ても理工科系の学生に侵されている。開局すれば販売ルートの混乱とメーカーの大量生産とのために、利益を無視しての乱売合戦に飛込まざるを得ぬ。勢い我々はプロパーにならざるを得ないのだが、そうなると学校でやったことはあまり役立たぬらしい。第一薬剤師の資格さえ必要

ないそうだ。我々は薬学生として薬に於る我々の地位を確立する制度が必要であるし、又それをつくることが我々の使命ではないだろうか。

学内アンケート

に見られた意見

編集部では我が大学の薬学科の学生が考えていることや生活状況を一面的にはすぎないけれども知って、その結果と他の大学と比較してみようと考えた。そのあらましについては前にのべたつもりである。しかしその中でくわしく述べられなかった点もあり、その中には非常に興味深いものが含まれているようである。そこでここにこれらの点をひろってみることにした。なおこのアンケートは都合により1・2年の分しか回収できなかった。したがって薬学という特定の学問にしばられず、自由なしかし未熟な立場での意見であるということができよう。

まず2年の後期から専門課程に入るがそれについて時期的にいってどう考えているか。及び4年制では短かすぎるという声もあるがどう考えているかと問うてみた。そのとき様々の意見が出たが『薬学を勉強するものとして充実した学問を身につけて卒業したいと考えているので、もっと専門科目をじっくり時間をかけてやりたい』という考えのもとに解答している人が多いことが目立った。しかし実際問題として『専門科目を早くやる必要はあっても学生の受け入れ体制ができていなければなんにもならないのではないか』『語学力も十分つかぬうち専門課程に入るのは不安だ』という意見もあり、教養課程の重要性を説明している。しかしなんといっても『教養と専門の科目が全くといっていいほど無関係であるので、2年間で薬学を修めることはむずかしいのではないか』というのが根本的問題であろう。また『他の学部も4年ですませているのに薬学科だけがたりないというのはおかしい。短かいということほどの学部にも共通すると思う』『短かいとは思いますが経済事情などを考えると頂度よいというほかはない』と現実問題の複雑さを示している。したがって『全力をつくせば2年で十分間に合うと思う』『じっくりと研究できるだけの期間が欲しいという人は大学院など4年の課程以外に、それを求めるべきである』という意見がでてくるのであろう。しかしこうした問題はじっくり時間をかけて考える必要があり、またその考え方だけで生活態度も変わってくるものであるから、ぜひ皆に考えてもらいたいと思う。

次に卒業後の進路については、まだ莫然と考えているだけだろうが、1年のをみていると、それがこの薬学科に入学したときの考え方を示すとみられるので興味深い。それによると製薬会社・研究所が多い。『ある程度の経済力を持ち研究を続けたいと思う』というのが主な理由である。しかしそれに次いで大学に残って研究したいという人が多い。『我々が薬学科の伝統を築く最も根本的なものはまず学問的権威であるから、その意味でも大いに研究事業につくしたいと思うし、また自分に適していると考えられるから自分は大学に残って研究したい』とありなかなか頼もしいかぎりである。その他病院関係とか薬局などは前三者に比べるとわずかなものである。

お国自慢シリーズ

お国自慢(秋田)

武田尚子

何よりもまず食物の事をあげたい。もう干拓されてしまったが、八郎潟からとれる郷土色豊かな魚類、また日本海からの「はたはた」これはしょつつるかやきにしても、飯ずしにしてもすごくおいしい。冬になくってはならない「きりたんぼ」このきりたんぼのうまさは米のうまさにある。秋田米はあまりにも有名。仙台に来た人で両親よりも秋田米が恋しくなって、ホームシックにかかる人が多いそうだ。この米から出来る酒がうまいのも当然。だが秋田の人は酒を飲みすぎる。だから高血圧の人が多いのは世界一だそうだ。自然についていうと、秀麗な鳥海山、男性的な男鹿半島、また水あくまで青い十和田と高山植物、温泉もある八幡平の両国立公園を擁し、世界一深い田沢湖もある。温泉も至る所にあるから旅行するには好適だ。

日本一の産出量を誇る石油や豊富な鉱脈等、地下資源にも恵まれている。また古くからの年中行事である「かまくら」「なまはげ」「奉天」等ゆかしくもまたなつかしい。

会津紹介

山内都

仙台から東北本線で4時間、郡山で乗かえてさらに磐越西線で2時間田園色豊かな山野をすぎると、会津若松市の玄関口に立つ。途中、中山宿ではスイッチバックを経験する。「汽車が一度では上らないだってね。へえー、山の中だなあ。」と私達会津人はからかわれる。上戸駅をすぎると猪苗代湖が左手にひらけ、笹に黄金の磐梯山が右に左についてくる。1819mの高山であるが、まわりに山々をひかえ、猪苗代湖がすでに500mであるのでそんなに高いとも思えない。しかしすそ野が美しく広がっているので、道のりとしては相当ある。とらげと呼ばれる谷が、山の正面真中に切り込んでいる。その後が山の銀座裏磐梯で多くの人々を誘いこんでいる。裏という字がついては感じが悪いからといって、今では磐梯高原と呼ばれている。汽車の中では会津弁が横行してくる。

「東京の学校さ行ってらんのかし。うちのせな(兄)の

方も東京さ行ってんだし。ああ大町の〇〇さんの近くだべ。わがまづ(若松)は広い様でせまいなし。いつかおらちにも寄ってくんしょ。」

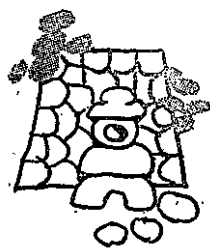
ゆったりとして眠くなりそうである。私達こそこんな会話はしないが、近郊のおばあさん達にとっては最後に「…し。」とつけるのが丁寧な会話ということになる。子供達はふつう「……べ。」を用いる。

会津若松市は城下町である。道路は敵に全部見すかさされないように、見通しのきかない交叉点が多い。鐘つき堂の城壁はまだ街の中央部に残っている。落城寸前まで鐘つき人が、父親が倒れるとかわってその娘が、1時間毎に弾をくぐって鐘をつき続け、城下町の人町はその鐘の音によって、ああお城はまだ大丈夫なのだ、と胸をなでおろしていたということである。

山城である青葉城とちがって、平城である鶴ヶ城は天主閣こそおちてしまったが城のおもかげをすっかり残している。内堀、廊下橋、塩倉、本丸、西出丸、等が桜の葉陰の下に静かに夢をみている。荒城の月の詩は鶴ヶ城を写したという説もあり、青葉城説と論争をおこした。本丸の一隅に荒城の月の詩碑が建立されて数年になる。北出丸に設けられたテニスコートは、つたのからまった城壁のために風がさえぎられ、絶好のコートとして全国から合宿のために来る人々が多い。内堀に浮くひしは武器として栽培された。ひしの実を干して城門にまいておくとわらじばきの敵軍の足にささって前進を妨げるという戦法である。一方食用にも供される。

あの有名な白虎隊の自刃の地飯盛山は市の東部にあって訪ずれる人々によって線香の煙が絶えない。その他猪苗代湖を見おろせる背あぶ山、夏はハイキング冬はスキーに空中ケーブルカーを利用する。尾瀬沼の縮少版の雄国沼、野口記念館、高松の宮の別邸天鑑閣、名庭御薬園、東山温泉等々、観光地会津としての存在も大きい。

最後に名産品をあげておくと、みしらず柿、漆器、こけし、赤べこ、絵ローソク、桐材がある。良い米と良い水とからうまれる良い清酒も忘れられない産物であり忘れられない味を持っている。



みちのく平泉

佐藤 洋子

私が岩手県人で一関の高校出身というので平泉についてちょいちょい聞かれますので十分御存知の方も多数おいでのこととは思いますが、みちのく平泉を簡単に御紹介しようと思います。

延暦の始めの坂上田村麿の蝦夷征伐あるいは源頼義、義家の東征や藤原三代栄耀の都としての歴史、悲哀の主人公義経になむ種々の物語、正に平泉は歴史と物語の地である。近世になってはかの俳聖芭蕉が奥の細道の旅での史蹟を徘徊し数々の名句を残しているし、文治年間には彼の弟子西行もここを訪れている。その後芭蕉西行の後を慕って多くの文人筆客が訪れ優れた詩歌紀行文が残されている。このような様々のこの地にまつわる歴史や物語文芸等を心に思い栄耀平泉のありし日の姿を偲びながら史蹟を低徊する時、真に歴史と物語の里としての平泉のみがもつ趣を味わうことが出来るのである。

他の観光地をたずねる時のように景色の美しさや華やかな建造物を期待してこの地を訪れる人はきっと失望するに違いない。何故なら、頼朝の奥州征伐の戦火によって灰燼に帰して奥州の平泉が歴史から消えて以来 800年の歳月が経ち、その間藤原氏の残した多くの物や義経ゆかりの数々もいくつか失われて、奥州の富を集めた平泉も今は貧しい平凡な一町村に過ぎないのだから。しかしその平凡な山も川もそれにまつわる物語を知って見れば何かあるなつかしさをもって我々にせまり、懐古の情にひたらせてくれるに十分なよすがとなるのである。

「三代の栄耀一睡の中にして大門の跡は一里こなたにあり」と奥の細道の平泉の段は始っているが、大門は毛越寺の南大門をさすとする説がある。現在の平泉見学コースとしても毛越寺を最初に回る方が都合良いと思う。駅から7分(徒歩)。830年 基衡公勅願によって再建され規模の広大さでは中尊寺をしのぐものがあったと言われるが、今はここも当時の建物はすべて失われている。しかし、その礎石、遺構がよく残り苑池は当時の姿そのままで存してい

る。千年余の昔これらの堂塔建立の際置かれたその場所に整然と並んでいる沢山の礎石とその間にこれも昔のままの形で潰たわっている広大な大泉池を見れば、塔山を背景とする広大な園林に七堂楼閣が建ち並んで大泉池にその姿を写したであろう昔の盛観が偲ばれずにはいられない。その雄大さは南大門跡の巨大な12の礎石によっても押し知るべしである。毛越寺復原図と実際に残っている礎石とを照らしてみると本当に興味深いものがある。毛越寺より高館へ行くが、徒歩20分位で途中金鶏山がある。高館は衣川館とか俗に判官館と呼ばれ義経の居城跡でありまた終焉の地である。父の遺命に背いた泰衡に攻められ、義経は妻子を害し自刃したのがこの丘である。裏手は北上川の浸蝕で断崖をなしているが眺望は平泉第一である。この丘に上れば西行のこと、北の王者秀衡と九郎義経の波乱万丈の絵巻、あるいは芭蕉のこの地行脚のこと等次々にくり展げられてくるのである。「聞きもせず東稲山の桜花吉野の外にかかるとは。」と西行は東稲の全山桜樹の見事さを読んだというが、その桜樹も今はなく全山つつじと化し、その昔つわもの共が功を競って戦った衣川古戦場跡も、前9年後3年役跡もあるいは弁慶立往生の場所も今は虫すだく草むらとなり、その面影さえ見られない。ただ東稲山とその下をゆるやかに流れる北上川が、昔からのこの地に秘められた哀しみも人の世の盛衰も知り尽して、どっしりと横たわっている。「国破れて山河あり。」の趣は全くこの高館から古戦場跡を見下しての感にぴったりだと思ふ。この丘の上には、鎌倉時代に建立された義経堂と呼ばれる一間四方の小さな御堂があり、その中には義経の像がまつられている。断崖の上に杉の巨木にかこまれた一字の御堂の中のこの人形は一体何を思っているのであろうか。等身大よりやや小さめのこの義経公の目は一点をみつめたままだが…。「哀しき丘」と題する無名詩人からの詩がその膝元に奉げられていたのが印象的だった。古来この館で作られた詩歌は非常に多く、かの有名な「夏草や……」の句もこの丘での作と言われる。この丘に立って昔を思えばどんな無風流な人でも懐古の情にせまられて、懐旧の詩のひとつも詠みたくなるのであろう。高館を下りて中尊寺へ向う。国道から中尊寺山への道は藤原氏栄耀の頃夜毎沢山の家来を集めて月見の宴を開いたという月見坂である。天にも届くかと

美術印刷

株式会社 針生印刷製本所

仙台市花京院通り39
TEL ㊤ 3388・6644

本

東一・八

仙 台 金 港 堂

TEL ㊤ 7012

思うばかりの杉の巨木が両側にうっ蒼と繁り三代のミイラが眠る金色堂への道は荘厳である。途中弁慶堂始めお堂と中尊寺本坊あるいは重要文化財の数々を陳列してある賛衡堂等がある。金色堂は1103年に清衡公が堀河帝の勅を奉じて天下大平の祈願の道場中尊寺の造営に当り、その境域の一郭に西方金色浄土を表現したという建造物である。内陣には建立の当初は中央のみ須弥壇を設けて、先ず初代の清衡公自身の遺体を納めて自ら浄土往生の姿を示されたのだという。後2代3代と壇を左右に増設してその遺体を安置し、秀衡公の枕頭には4代の泰衡公の首級を納めてある。堂は屋根瓦に至るまですべて黒漆の上に金箔が押され、その内陣に至っては鉋のない時代だった為荒げずりの木の上に布をはり、その上に漆を厚く壁って金箔を押し柱といわず梁といわず螺鈿珠玉をちりばめ七宝金銅目を驚かすばかりだったという。わずか三間四方単層の建造物の竣工に15年の歳月が費やされたというのも、すべて人手によらなければならなかった時代にあつては、さもありませんと思われるのである。しかしこの堂も「光堂」と呼ばれたのは遠い昔のこととなって、今では所々に金が残っているだけである。覆堂に包まれた中は薄暗く黒漆の中に螺鈿貝だけが鈍く光り、そこにまで金箔を押されたという屋根等は覆堂が出来るまでの100年間風雨にさらされた為、屋根まで光り輝いたというその昔を偲ぶよすがは、どこにも見出すことが出来ない。ここでも老朽の身を静かに横たえるもの荘厳さを感じるのである。

ふるさと（長野）

小 松 絃 子

山、又山に囲まれた長野県に住む私達は、知らず知らずの内に、山とは切り離せないものになっている。現に、私が初めて仙台駅頭に立った時、何か間の抜けた、天井のないような頼りなさを覚えた。山がないからだ、とわかってから、朝に夕に、何の気なしに眺めていた山々を、たまらなく恋しく思った。夏には登山姿、冬にはスキーをかついだ人々の、にぎわいと共に、山々は、又四季を明瞭に呈している。長い雪の後、新鮮な若芽の伸びだす春、急にあたりが明るくなって、ちっとしてられないような気持になる時を、厳しい冬の後の、わずかな時期だけに、一層私は、好んでいる。まわりの低い山は、淡い黄緑色になり、後の高いアルプス連山は、下の方から、白から濃い青色に変わり始める時である。故郷をはなれて、まず気がつくのは、空の青さである。どこまでも吸い込まれて行きそうな空あらゆる作物の実りの時期に、木の間隠れに、又熟した果実の間に、いっそう美しく見える。久しぶりに故郷の空を仰ぎ見、山々を眺め、美味しい空気を思い切り吸い込んだ時、変りない故郷への親しみを覚える。

広島、ヒロシマは吾が故郷である。北は中国山脈につらなり、南は風光明媚の代名詞のようにいわれる瀬戸内海に面し、7つの川が扇形の洲を拡げて流れ、何時でも川床の小石さえ数えられるのは“水の都”，また酒の名所の所以であろう。戦前はその中心に鯉城と呼ばれる広島城がそびえ、そのまわりには城下町特有の古い屋根瓦が重なりあ、い繁華街には新しいビルが目立っていた。一方日露戦争以来の軍都であり、大本営も置かれた宇品港は御用船の出入りする唯一の軍港であり、そのためにも又栄えた町である。呉、江田島など有名な軍都であった。昭和20年8月6日午前8時15分、閃光一瞬40万の人口は火の中に叩きこまれた。推定によれば1km以内で85%、1~1.5kmで35%、1.5~2kmで20%の生命が消滅し、焦死し焼死した。火を逃れたものは市の周辺や太田川畔に所かまわずのたうった。血と油汗にまみれ目を白く光らせ水、水をと生命の余喘にあえいだ。浅野侯が西湖を模した泉邸跡の堤の上で負傷者は火のくる度に深い淵に飛びこんで行った。あれから14年、今だに原爆の跡を残し、原爆症に苦しむ友は数しれない。廃墟には雑草が生い茂り、丸坊主の頭にも毛がはえ始めた。平和大通りが太田川を渡る所にイサム・ノグチの橋も出来た。カキ舟もケロイドの少年も昔の広島を思い出しそらとしている。広島の川は眠たくなるような美しさを取り戻し、これからは小鳥のように楽しく生きたいと原爆の子たちは言っている。しかしその小鳥はとて自分のケロイドの跡を気にしており、10人に1人の子供は頭の火傷を隠していつも帽子をかぶっている。かつて広島人はその風光のように明るく、ちょっと投げやりで非社会的だった。それが厭でも国際的にされ、いろんな事を期待される。しかし辛じて生き残り長い間虚脱の底に投げこまれていた市民は、まだまだ戦争の傷手を忘れることはできないであろう。「ノーモアヒロシマズ」本当によい言葉だ。平和、心から願わずにはいられない。しかし現在は少なくとも大規模な都市計画が広島を変えている。市民の住みよい都市、平和の拠点になる共同の施設、その無防都市への希望は決して濁っていない。市の周辺のかつての軍需工場が再び黒い煙を上げないよう祈ってやまない。

◇あるエスプリ◇ 1年 降 旗 由美子

もの憶えが悪くなったといって、生ねぎを我慢して喰べている年頃の人へある人から聞いたスペインの諺を一つ。

「ものを憶えることは非常に難しいが、忘れるということはもっと難しいよ。とくに自分の名前はね。」

お国自慢（天童）

福原美喜子

天童というと将棋駒、将棋駒というと天童という程に、天童は将棋の特産地として名高い。将棋は吉備真備が唐から持って帰ったという伝説もあるが、とにかく遣唐使か入唐僧によって平安初期に支那から伝来されたものらしいといわれている。その将棋がどうして天童に栄えたのだろうか。天童と将棋について少しのべてみよう。江戸時代の末になると貨幣経済の発達にともない武士の生活はことごとく窮乏していった。ことに農村は極度の疲弊におちいった。当時天童は信長の後裔二万石の織田藩であったが、藩財政の窮乏は同じであったろう。その救済策を講じ、天童駒の基を築いたのは当時織田藩の用人の職にあり後勤王の志士として知られた吉田大八である。大八はその受くる扶持だけでは生活出来なかった藩士に将棋駒製造の職に従わしめた。武士が手工業に従事することに対する反対を押し切り、将棋は戦鬪を象る競技であるから之を遊ぶことも製造することも武士の面目を傷つけるものでないと決心し、藩士に内職となさしめたのである。現在天童には有志による吉田大八の会があり、又名菓大八最中が作られその功績をたえている。最中の甘い味に大八公をしのぶというわけだろうか。とにかく夏の夕方縁先でうちわ片手にゆかた姿で将棋に興じている人達を見ると、私はふるさとをなつかしく思い出すのである。

「しし踊り」

清野學子

私の町では、八月も末となり、九月初旬の八幡様の祭典が、近くなると、夕食も済んで、団樂の炉辺を、囲む八時頃から、人々の寝静まる十一時頃まで、ドンドンと、しし踊りけい古の太鼓の音が聞えて来ます。

お祭りは九月の十日と十一日にわたって行われ、十日の夜と十一日には、近在の村々から、しし踊りの一団が、やって来ます。

その一団は約三十人ぐらいで構成され、大きな商店の前で踊り、見物人はその周りに、ぐるっと輪になり、皆背延びしながら一心に見ています。

踊りの方は、まず最初に、母や姉の、色とりどりな、長襦袢を着て、赤い襷に豆絞りの鉢巻をした、はたち前後の若者達が白足袋に草履をはいて、手には、鈴と1メートルばかりの棒を持って、笛、太鼓に合わせ、時々「ししさ、やじまじ」と「ししさ」の次に、出身の町名を、称えながら、踊ります。この時、打たれる太鼓は、直径が二メートル余りも有る大きなもので、大きい事が、その部落

の自慢とも成るのです。

しばらく若者達が踊った後で、いよいよこの踊りの主役である三匹のししが、現われて一緒に踊ります。

しし舞は、非常に技巧を要するのだそうで、しし踊りの上手下手は、このししの舞如何によるそうで、踊り手は高低中年以上の年寄りの様です。

ししの三人は、頭から足のさきまで黒装束で、頭にはしし頭を被っています。このししは、とても精巧に出来ていて、真黒い漆塗で、小さな角と海藻の髪毛を持っていて、額にはそれぞれ、太陽と鎌と三日月の形どったものが、付いています。そしてそれらは、天、地、人を表わし、さきの若者達の踊りが悪魔の踊りを表わして、その厄払いの為にしし舞を踊るんだそうです。

皆加わり賑かに踊っている内に、若者達は引きさがって三匹で踊りますが、その内に、鎌印を付けたししも消えて、太陽と三日月の二匹だけでクライマックスのしし舞を舞います。

この時は二匹とも気が狂った様に、頭を振り、手足を盛んに動かし、立ったり屈んだりして、ししの動作を表現します。

こうしてやや暫く踊った後で又、鎌型のししが加わって三匹でひと踊りして終ります。

このしし踊りは、全部男ばかりで踊られて、大変景気のいい勇しい踊りで、約一時間半ぐらいも続きます。

踊りが終ると皆、酒をふるまわれ、金一封をもらって、余所へと移って行き、夜遅くまで踊って、祭りを賑やかに楽しくします。

薬学書.....医学書

専門誌・學術書

正確・誠実取扱

株式会社 アイエ書店 東一・71

電話 (2)7957・(3)7424

(生) と (死)

原 通

五病棟七号室、消毒薬、アルコール、病院食等の混濁した病棟特有の臭気に神経を活化された。それに加えて重病患者達の醸し出す、自分の悲劇的末路を連知させずにはおかない一種緊迫した層を手で払い除けるように裏口から川原に出た。かつては山や谷に躍動したであろう水流も、最上川の川口に近づくにつれてドス黄色になり、川としての生命を終えようとしている。七号室では、貧欲な異常細胞の進攻に父はかろうじてこの世との繋りを保っているに過ぎなかった。ガン疾特有のドス黒い色に染まりながら…。

一体生命を有するものと無生物との終極的差はこの瞬間に決定づけられるものなのか。では我々の方が劣るではないか。すべてが一瞬に消滅してしまうのだから、個性も、恋も、富も、名誉も。違う、そんな筈はない。数千年昔から彼等はその形態を変えてきたに過ぎぬのに我々の祖先はその内容を向上せしめ、文明を築きあげてきた。樹輪の様に一循環を経る毎にその含有物は豊富になり、他を圧倒するのだ。父の事は諦めよう。宇宙に還元するに過ぎぬのだから。一瞬とりとめのない白昼夢に耽り、すい込まれそうな青空をみた。鼻腔が刺激され大きなクシャミと共に、突然大粒の涙が滞りもなく零れ出し止まるところを知らなかった。単なる悲しみの涙ではない。より奥深い厳肅なものだったろう。白痴の様に弛緩した頭を潤す様な涙だった。

病室にはひっきりなしに看護婦達が入り出した。針穴だらけの肉のこそげた腕に、麻薬、栄養剤、新抗生物質を注ぎ入れる為に、無表情に事務的に、慣れきった様子で。こいつらは一体何を考えているのだろう。理由もなく無性に腹が立った。彼女等には人生の無常に麻痺した神経しかないのだ。或は彼女等の神経が余りにも細かったのかも知れない。しかしその後では細胞の死んだ茶褐色の皮膚が、枯草が水を吸い込むように生々と赤味を増し始めると、やる方ない不満は消えた。その薬効の威力を目のあたりに見、その神秘性に一葉学生として身の内から湧き出る歓喜に思わず父の手を握り締めた。がその手の冷たさに一挙現実に戻され、薬の神髄といったものを考えてみた。

この新薬はまさに消えんとする灯に、確かに油を注ぎ入れてはくれた。しかし所詮燃え尽るのを永びかせるに過ぎぬ。いくら油を補給しても肝心のシンが燃え切ったのでは最終消却する運命にあるのだ。薬は効くのではなく、効かせるものだった。

しかしいくら異端者の攻撃を甘く見過ぎ、ないがしろにしたとは云え、その猛攻を阻止する強薬が生れていてもよい筈だ。組織の反乱を鎮圧し撃退する薬が、人工衛生が飛

び核兵器が現存する世に、完成していないのは、どこか異常に科学が発達しているからだ。晴しようのない憤りが心に充満したが、考えが自己中心的になるのはやむを得なかった。

父は時々瞳孔の定まらない目で自分を見た。何とでも解釈出来る無言の伝達だった。後は頼んだぞと云った様でもあり癌奴の仇を打ってくれと云っている様にもとれた。

その時不思議にも悲しみとは違って、思わず口を引き締めた決意といったものが心を横切り、思わず微笑みかけた。父は安堵したかの様に目を閉じた。その際40年輩の主治医は必らず哀憐とも激励ともとれる目付をした。息子が薬学生であると父から聞いていたのだろう。その度に自分は後目痛のような気持を覚え、気力の充実した状態と、虚無的な心情が、シグナルの様に交互に往來した。

「先生貴方はよく奮闘してくれました。心から深謝します。絶望と解り切った患者を最後迄捨てず、試験的な新薬さえ使用され、鎮痛の為麻薬迄用いてくれました。現代医学の真髄を尽されました。その立派な職業意識、尊敬すべき人格と、暗闇の中に一点の光明を見出す様に、今でも自分の嘆きを慰めてくれます。あなたが今後も治療に専心出来るように、自分も今に新しい薬を次々と発明発見出来るように至らない迄も努力し、せめてもの感謝の念を示したいと思っています。

父の死は自分にとって悲しいといったものではなかった。単的に云えば、人の誕生に居合わせた様な一種の壮厳な気持ちに襲われただけだった。その瞬間人生とは生と死以外の何者でもないのではないかと、ニヒルな状態には落ち入ったが、自分は一体冷血質なのだろうか……。

人の死というものは、平素は密かに内蔵されているものを、嫌応無しにあばくものだ。他人の死いわんや肉親の死に直面した場合、意識的、無意識的に恐れ触れずにいたものに、徹底的に直視、思索させずにはおかない様に思われた。赤裸々に自己反省し、真摯に沈潜した。すると自づから人生の道がひらけてくる様に思われ、思わず目を輝やかせるのだった。——自己の存在価値を認識し、人生を充実せしめ生命者としての任を果たすべきなのだろう。

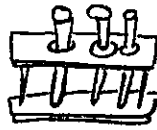
外の空気は新鮮だった。知らず知らず鼻腔が膨らみ、すべてが遠い過去の事の様に思われた。

◇ さ あ! ◇ 1年自由和子

真青な空に、今日もさまざまな形の雲が過ぎて行く、どれも希望にふくらみ、それぞれ独特の抱負を持って、いつも希望を持つこと。そして何でもやってみること、そうして皆で話合う。同じ世代の者同志が同じような問題で、話し合いたいことが沢山ある。さあ、お互いにいつも上を向いて進もう。

× × ×

薬



＝薬扱＝

二年 永谷 富子

彼がこの田舎町の〇病院に来てから、もう何年になるだろうか。まだ10年を数えるには早いと思われるが、彼はいつの間にか、30の年を越していた。病院と云っても、小さな個人の医院であり、彼の仕事は、注射器を手にする事ではなかった。一日中、殆んど日の当ることのない狭い薬剤室が彼の仕事場なのである。しかし、彼のする仕事は薬のことだけではない。隣の待合室に開いている窓口には「受付、投薬、会計」と並べて書いてある。

元々、病弱に生まれ合わせたことが彼をこんな所に閉じ込める大きな原因であったのかも知れない。殊に、小児マヒを患って、左足の自由でない事が、何と云っても一番の苦痛であった。その苦痛と一緒に、それを克服して、新しい生活を得べく努力する精神力をも与える事を、神が忘れていなかったら、彼にも、もっと幸せな生活があったかも知れない。薬剤室は、10センチ足らずの幅の床板を5、6枚通路に残したきりで、窓口側に調薬台がついている。その反対側の棚には、褐色や黒や灰色や、レットルのきたなく汚れた薬びんが上から下までぎっしり居並んで、彼の心を一層、余裕のない硬いものにしていくような感じである。隣の診療室から、処方箋がパイと投げ込まれる。それを手にとって一瞥し、フンと思って、必要な薬剤を棚から降して、適量ずつ調合する。正しく「適量」でやるのである。その言葉には、正確な計測の裏付けがない。こんな薬を、有難がって吞んでいる人々のことを考えると、自分の方が空恐ろしくなってくる。しかし、混ぜる薬の量が、どんな割合であろうと、そんなことは、どちらにとっても要らぬ心配なのである。彼の扱っている薬の量の多少ぐらゐで、生命に異常をきたす程、人間の器管の方も正確ではないのだから。患者を看る医師は勿論一人である。50の上にはなっているがまだまだ精力旺盛で、若い彼などより、ずっと元気がよい。町の人々には、親しみ易い、明かるい好人物で、彼も、そこは認めているのだが、彼自身に対しては、不思議に頑な所があった。仕事の都合上雇ってはいるが、お前如き者は眼中にないと云った態度をとられる時もしばしばである。勿論、彼のやせこけた青白い顔と、光

の無い眼、ほっそりした体つきは、決して人好きのするものではなかったから、医師の態度も一理あることとは思いつながら、それだけでは解せないものが残っている。それは相手は医師であり、自分は薬剤師であると云う事である。これは、医師の方でも、暗黙の中に認めていることに違いない。薬剤師なるものは、結局、医師の下で働らく形をとらざるを得ない。それが、こういう小さな医院となると、医師に働らかされ、使われるという形にさえなるのである。これは自分の選んだ仕事だったんだから仕方がないと諦め切っている彼の場合など、精神までも、そんな形に押えつけられてしまっているのではないか。彼のような意志薄弱なものは、もうそこから起き上がり、立ち直ることはできない。全く変化のない、無味乾燥とも云いたい生活の中では、まだ30台という若さも、損なわれて行きそうである。

そんな生活を敢えてしている自分に、男らしい憤懣と悔蔑を激しく感ずることはあっても、自分の不自由な身体と今まで、こんな生活をさせて来た性格とを考えると、やはり、どうにもなるものではない。

周囲の人々の目だって、こんな誰にでも出来る仕事が、彼にとっては、分相応のものとして見ているに違いない。彼自身の中でも、何か一大変事でも起らない限り、一生、この「薬扱い」から解放されることはないだろうという殆んど無意識的な確信が、日常を支配しているのである。

薬

八木 治彦

薬という文字は、草冠に薬と書き、即ち草を以って薬を求むと書きます。しかるに最近の薬品広告を見ると「少々の深酒をしてもこの薬さえ飲めば明日の仕事にさしつかえはない」という事になりかねません。疾病を治すには薬を服用しますが薬は疾病を治すものでなく、飽くまで疾病を治す補いであって、どんな最良の薬を飲んでも、自己の不節制と不養生はで治らないと思います。疾病を治す事は節制と養生と自己の体力と精神力で、それを補うのが薬である事を忘れてはならないと思います。さて薬なるもの、知識のある者に良く効き知識のない者に効果なきや、これは難問題で腹が痛い、頭が痛いという時に、手持の薬がない場合仁丹や歯磨粉を飲ませると良く効くそうです。これは薬をよく知らないからで、歯磨粉と知ったら効果はありませんが、実際に調べて見ると、歯磨粉も現在薬店等で販売している胃腸薬俗に言う胃散の処方と大いに似通っているのに驚かされます。胃腸薬には、ケンチアナ根末、炭酸マグネシア、メント脳。歯磨粉は、炭酸マグネシア、沈降炭酸石灰、メント脳、フロクシン等でこれに重曹を加えれば上等な胃散になります。故に歯磨粉を使用する人の精神作用及び知識により薬として効く人も効かぬ人もあるのです。

く す り

岩 動 淑 子

薬学科といってもまだ教養課程、不勉強のため薬学のこととは何一つ知らず、ひとの前でははなはだ恥しい。薬学ではなく、薬に対する雑感である。学問とは程遠い。

某君が友達との旅行中、鼻風邪をひいたという友達に、母親からあずかった薬の中からまちがって腹の薬をあげてしまった。まだ子供、母親は薬の名前さえ教えれば、と思って薬袋に名前を書いておいたのだが、なにせ旅行の直前心がうきうきして母の言葉も耳に入らない。ところで友達は、薬をのむとまもなく「あの薬よく効くなあ。風邪すっかり治ったよ。」

毎晩睡眠薬をのまなければ眠れない男が、外泊をするつもりで「何か睡眠薬はないか。」と女中に聞いた。彼女はなにやら赤い錠剤を持ってきた。「ああ、どうもありがと。」というわけのんだ彼は、やがてうとうとしはじめたが、ふすまをあけた別の女中「もしもし、だまされてはいけませんよ。さっきのは胃腸薬なんだから。」はっと起き上がった男、どうしてもそれ以上眠れず、結局家に帰っていつもの薬をのみ、安心して眠った。笑い話みたいな実話である。

この程度なら害もない。薬を信ずるという気分で治ってしまうのだから。しかし新聞ラジオの広告をうのみにして病気はすぐ治ってしまう。と云った狂信的な信じ方は考え物である。薬、食事など新聞を通じた知識を最高のものと考えている人さえある。医者忠告もそれがその知識に反するものなら仲々いうことをきかない。

高血圧患者がいた。看護している患者の娘さん、病気を治そうという気持がすぎ、病人を気の毒に思ったことがある。肉を一片なら良いが二片たべたからいけない。塩から

いものはだめなのにそんなに食べて……する事ことごとくに口をはさむ。入浴、食事の前後、就寝前、起床後に血圧を計り、血圧降下剤は〇〇、栄養剤△△。これでは病人の気持は休まらない。どうやら高血圧は多く気の疲れが原因していることを忘れてるようだ。確かに薬、食事の療法は大切だしおそろかにできないが、これでは新聞医学も誇りに立たないというもの。

1953年頃、アメリカでイソニコチン酸ヒドラジドが発明され、全世界に発表された。その宣伝は、結核に終止符をうつ薬といったものだったので、結核国日本はもちろん飛びついた。しかし話によると、その時の報告は、結核の治療について完全なものではなかった。わずかに数カ月百人足らずの臨床試験なので、人間の体に対する正確な毒性や治療期間など不明な点が多かったという。すばらしい新薬という宣伝を信じすぎたようだ。

もちろんヒドラジドは良い薬だろう。しかし、はっきりした結果がでないうちにそれに期待をかけすぎ、報われない時は逆に薬を信用しなくなり、信仰だけで治そうという事になる。それが恐いのである。

2、3年前、ペニシリンのショックが問題になり、新聞が大きく取り上げたことがある。ペニシリン株はぐっと下がり、生産量が大きく減少した。これにしても考えてみれば変だ。ペニシリンに対する体質を慎重に検定し、安全だとわかった後に使用すれば危険はないと、ある医者から聞いたことがある。それさえ気をつければ、これほど重宝な薬は少ない、と。

どうも人間は、求める事が実現されそうな話には飛びついてしまう。広告はその心理をよくとらえたものだ。また一部の悪い報道に悲観する。

薬学、医学、化学を知らない場合、薬は適度に信用し、金に困らない人が良い薬を使ってのんきに療養している時一番効きめがあるらしい。

Schering

日独薬品

肝炎・胆嚢炎・胆道炎
胆石症・黄疸・消化不良に

フェリカール

20球 ¥350・50球 ¥700・250球 ¥2,800





三太郎故郷に帰る

権 現 三 太 郎

(←) 仙 台

三太郎が仙台を後にしたのは7月9日だった。夏休み前の最後を飾るべくその日は1時間も自発的休講をしなかった。もっとも午前中は休講だった。寮の食券が切れていたの川内の食堂で冷し中華のささやかな晩餐をすましたのは5時近かった。久しぶりに天気も良かったので三太郎は西公園まで深く呼吸しながらゆっくりと歩いた。緑の中に点々と置かれている小さな白い校舎はエキゾチックだったし、広瀬の流れは清流とは言えなかったが、穏やかな音で流れる水は二・三のボートを浮かべて清潔な感じだった。時間が遅かったためもあって人通りは少なく遠くは霞がかかった感じでぼやけ静かな夕方だった。そんな雰囲気の中で今日は帰るのかと思うと神経の二・三本足りない三太郎ではあったが一寸した感慨を催さずにはいらなかった。

(←) 塩 原

駅のホームで明滅するネオンをぼんやり眺めながら終列車を待った。11日の朝早く栃木県の西那須野に降りた。そこからバスで塩原迄行った。そこでは三太郎の義兄の叔父にあたる人が旅館を経営しているのである。旅館は谷間の一方の斜面に城のような感じで建っていた。三太郎は若い女中に案内されて眺望の良い静かな部屋に通された。彼女は女としては大きい方だった。三太郎よりは年上であろうが何才位か見当がつかなかった。顔は色白だったが化粧の跡は見えなかった。髪は黒かったし多分瞳も黒くうるんでいたことであろう。2日間正面から顔を合わせたことはなかったのである。彼女は何時もうつむき加減だったし、それを三太郎も何故か正視するのを避けていた。静かと言うよりは何か寂しい影を漂わせた女だった。二人は一定の距

離を保っていたにもかかわらず、三太郎はそんな彼女の雰囲気無抵抗に同化している自分に気づいた。午後になると「ヒグラシ」が鳴いた。山の中は静かでその声を妨げるものは何もなかった。三太郎にとって「ヒグラシ」のあの覆れた声は夏の気怠さとかすかな孤独感、それに幼ない頃の想い出を伴わずに聞くことは出来ないのである。夜になると蟬の声は止んだ。旅館の庭やあちこちにある噴水、小さな滝の音が闇に静かに響くのみであった。その水の冷たい音は一層辺りの静寂さを増していた。空は曇っていたが部屋のガラス越しに遠い建物の輪郭や木々の幹が影絵のように灰色の暗さの中に真黒に浮き上がって見えた。三太郎は眼が冴えて夜更迄眠れなかった。旅館のある一帯は谷間にあり緑の木々がたれこめ、青く、時には緑の水が冷めたく岩肌を洗い純白の泡をたてて流れていた。紅葉の時期は素晴らしいと聞かされていたが素直にうなずけた。

(←) 汽 車 の 中

雨のために汽車が1時間も遅れ西那須野を発したのは12日の夜8時近かった。駅で汽車を待つうちに雨は止んでいた。星は見えなかった。多分空は黒雲がたちこめていたことであろう。車内は電灯の光が黄色くそんなに明るいはずはなかったがガラス窓に三太郎の顔がはっきり映る程に外は真暗だったので眩しく感じられた。そんな暗さの中に時折稲妻が光った。周囲が深い空色になったと思うと蛍光灯のような青白い帯が大空を素早く走り辺りはパッと輝いた。しかし次の瞬間は元の闇夜だった。パッと輝く明るさの中に恒惚と我を忘れた次の瞬間の暗さ、変化の強さに三太郎はうたれた。

乗客は少なく車内は静かだった。途中担ぎ屋の一隊が乗

昔からの染屋

布 袋 屋

仙 台 虎 屋 横 丁
でんわ (2) 2 1 7 3

御会合に好適!!

東 一

キリンビヤホール

電 話 (2) 4 1 0 3

り込んで来た。大部分が女であった。ゆうに一俵はあると思われ米を力強く背負って手にもさげていた。彼女達は警察の手入れを心配していた。もう何度もやられているらしかった。そんな話を聞きながら三太郎は彼女達の生活力の強さに感動せずにはいられなかったし、その雑草のような力強さに羨望と劣等感の入り混ったものを感じていた。

例 故 郷

13日の明け方信州に入った、八ヶ岳の雄大な裾野が山梨から諏訪へ入るに従い幼い時から毎日見てきたあの八ヶ岳の表情に近づいて来た。三太郎は落着きを失ってきた。窓を一杯に開けて体をのり出した。赤岳硫黄横岳と次第に連峯が姿を現わした。連峯が見慣れた完全な姿を現わすに従い故郷に近づいているのをひしひしと感じた。「故郷の山に向かいて言うことなし故郷の山はありがたきかな」この啄木の歌は八ヶ岳を通してはじめて三太郎には理解出来るのである。今年の夏も、もう犠牲者が出ているかもしれない。鉄道の沿線は雨に濡れた緑が水々しく朝日に輝いていた。見慣れた風景が順序をたがえず流れくる如く続いた。青柳から茅野迄の列車は軽速な音をたてて、速かったが何時もより時間がかかった。バスの停留所から家迄は歩いて15分程である。三太郎はゆっくりと大地をふみしめて歩いた。道端の白樺の幹が目、痛々しくしみこんだ。雨の後は何時もそうであるが、八ヶ岳が正面に近く感じられた。梅雨は晴れたのか連峯は美しく空から浮いていた。赤岳の峯は赤い岩肌が鮮かだった。山肌の日向の深い緑と、日陰の暗い青の対比が鮮明だった。途中4・5名の高校生に合ったが、三太郎が同じ道を通った頃とはすっかり顔ぶれが変わっていた。家ではおふくろが唯1人障子を開けて待っていてくれた。気のせいとかしやつれた感じだった。庭には南瓜や夕顔の花が咲き竹の子は蔵の屋根より3・4メートルも高く伸び、例年と少しも変わっていなかった。唯三太郎が、浪人中に植えたツルバラが無造作に伸び、「白カヤ」が倍程に分株し背丈も伸びていた。南瓜の棚は例年より低かった。カヤの根本にかけた小さな瓶には氷の中で冬を越した金魚が一匹泳いでいた。去年は真夏の直射日光を避けるためにふたをしてやらねばならなかったが、今年はもうその必要がなくなっていた。3月の末姉が結婚し、続いて三太郎が仙台に発つと、家に残ったのは会社勤めの姉とおふくろの2人だった。急に隠者の家の如くひっそりとなった。そんな家に入ると部屋の空気はまるで三太郎が発つた時以来少しも動かたように感じられた。三太郎は云い知れぬ寂寥感にぐっと胸がつかまった。年老いたおふくろにいつまで苦勞をかけるのかと、我身を情なく感ぜずにはいられなかった。ラジオはトラップ一家の合唱を流していた。おふくろの心づくしの朝食を終り畳に座ると、全身の力がすっと抜ける感じだった。色々と計画はたてて来たのであるが、急にこの長い休みをどう過したら良いのかと当惑もし、重荷にも感じられた。

◇? 段 論 法◇ 佐々木 絃 子

○月×日 第△校時 心理学

先生「精神薄弱者とは、知的な欠陥のみに止まらず全身的協応のスムーズでない。いってみれば全人格的な欠陥の持主である。因みに、女性がソフトボール等をしているかっこうは、あまりスマートではない。これは、身体的協応関係の欠陥によるものである。(従って、女性は一般に……である)

A子さん「そう云えば、男性がお掃除やお炊事をする手つきも、あまりスマートではないわね。するとやはり男性も……。 (結論! 男女等平の原則は、いかなる場合にも、成立するらしい。)

= 寸 感 =

秋 山 知 子

蒲生へ行った。日曜日のため、多くの子供釣師がもっともらしい顔付きで棹をおろしているのもおもしろかった。ちょっと入江めいた所では潮干狩に集まった人で一杯である。にぎやかな人の群を離れて海際へ行く。天と地の合一。うち寄せる白い波。青、そして濃い緑の海。海猫、かもめ、そして空高く昇るひばり。人っこ一人いない桜貝を散りばめた砂浜。向うに見える一連の松林。訴えかける波の響。動と静の美しいハーモニー。

波打ち際にじっと立って自然に対する時、この瞬間、私は詩人になる。「一人の水夫があつて帆柱の上から落日の大観を擅まました時、この感激を人に伝え得るよう表現する能力がなかったならば、その人は詩人とは云えない。」と、ある技巧派の文学者はいった。しかし、私はそうは思わない。実際、誰もが認めるように、世にはあまりにも多くの啞の芸術家が存在しているからである。

私は自然に接する時、いつも思うのである。自然は人間の偉大なる教師であると。そして限りなく素直で謙虚な自分を発見出来るのも又この時なのである。

生も死も自然の前には取るにたらぬもののように思われる。

二

何事に於ても、徹底するという事はむずかしいものである。私は実際何にも徹底出来ないでいる。自分の生活態度に自信が持てないからかもしれない。私の人生を支えてくれる強固なもの、精神的な支えがないからかもしれない。あまりにも他人の生き方を気にするからかもしれない。結局、自分だけの世界を、まだしっかりと確立出来ないでいるからかもしれない。それが何であれ徹底出来るものを持っている人は幸福である。しかし私は私自身だけは自分で恰好に守っていくつもりである。

思い出の記

三ヶ月前

江田 絃子

体育館いっぱい響きわたった学生歌の演奏に感激してから早くも三ヶ月にもなる。いよいよ大学生だという緊張感と、受験勉強からの解放感の入り混った気持で、それでもしっかり勉強しようという決意にもえてそれを聞いていた私。掲示板の前で、休講がないとがっかりしている二年生を大いに軽蔑もした。緑の山々と雄大な広瀬川に囲まれた自然環境満点の川内分校。瀬橋附近の何とも言えない美しさにすっかり有頂点になって、毎日この美景を見たいと歩いて通うことにした私。まだ友達もなく、出歩くこともおっくうなまま、下宿にいて、ホームシックにかかり、家族の写真を取り出してはながめ、帰省できる夏休みを待ち遠しく思っていた。和英併用の化学の講義に驚き、一時間の講義に対して二時間の予習が必要だと言われ、いかにしてその時間を得るか、真剣になって計画を立て、実行しようとしていた私。

しかし三ヶ月後の私は、授業をさぼることをなんとも思わなくなりました。本当に「慣れる」ということは恐ろしいものだ。

入学に思う

嶺岸 謙一郎

それは東北大学の入学試験合格者発表の日であった。外は心の内と違って憎い程明かるく感ぜられた。

私はたまたま立ち寄った同じ薬学科を受験した某君と発表を見に家を出た、途中知人に逢うのを恐れ遠廻りして行ったが、まだ発表を見て帰って来る様な人はいない。おそらくこれから発表になるのだろう。

発表掲示板の前にはすでに黒山の人だかり、私は人目を避けて建物のかげで待っていた。足ががくがくして少しの風でも体の中までつきぬけそうな肌寒さを感じた。これこそ自分の運命を待つ気持なのか、それは早く知りたい、そして一秒でも遅れてもらいたい気持……。

トラックが発表の掲示を待って来ると一度に多くの目が板上に吸い付けられた。

ふだん呼ばれ且つ自分で何度も書いた事のある自分の名前を見つけるのは容易ではなかった。(むしろ友達の名が先に目に入ったから)。私と同行して来た友は不幸にして名を見つけた事が出来なかった。

あたりは喜びと悲しみのうずだった。私は気を落ち着ける為に早く人ごみからぬけだしたかった。ふと聞きなれた声で「入った」「よかった、よかった」それは友達とその父

の抱き合って喜ぶ姿だった。裏門を出て人気の少ない片平丁へ出た。不幸な友も一緒だった。無言のままゆっくりとした足どりで……。評定河原、広瀬川、そして青葉山の方へと目をはせた。もう薄暗くなっている西の空だけまだ美しい色を残していた。

急に胸にこみ上げて来るものを感じて私は早く一人になりたくなり友に別れを告げた。涙がしきりに流れて仕方がなかった。涙を止める為顔を空に向けてみた。しかしだめだった。私は二浪もした。早く家族に知らせたい。けれど母と姉は一週間ばかりの予定で東京方面へ旅行中だった。誰もいない家に着いた時はすでに真暗になっていた。もし父が生きていてくれたら、どんなにか喜んでくれたろう。私はすぐに自転車で夜のたんぼ道を東仙台にある父の墓へと急いだ。

私が高校3年の時、父は胃潰瘍の手術をした。その結果は誰の目にも良く見え小康を取りもどした父は仕事熱心に又会社へ出勤し始めた。

一浪の身となった私は今年こそその意気込みで一生懸命勉強した。六月の或る日、父は急に苦しみだし夜中の2時、大学の先生に見ていただき腸捻転症との事、夜中まで受験勉強で起きていた私は母や姉と入院準備をし、父と母を送りだしたのは午前4時だった。疲れて床に入った私は父の死を想像しいつまでも眠れなかった。

姉に起されたのはもう8時間際、姉は寝坊をわびたが、4時に寝たので無理もない。丁度その日から私の通っていた補習科の模擬試験が始まり、朝食もとらず空腹をかかえて学校へ行った。父の手術の結果を気づかいながら試験を終えて父の病室に入った時、父は鼻から胃までゴム管を挿入され、その管から胃にたまった血が時々流れ出ていた。一週間程もすると父も顔色が良くなり、私は父の死を想像した自分が可笑しくなった位だった。

七月の初め久しぶりに一家4人家庭につどう事が出来たが、大手術後のことで父の体重は38キロ、見る影もなく痩せてこけて目だけ光っていた。

退院後、間もなく肩から首へかけての痛みを訴えたので色々工夫して枕を幾つも作ったが、その甲斐もなくどうしようもなくなった。睡眠時間は短時間にくぎられ、母と姉は昼間、夜は私の交代で看病が続いた。

その時私は田宮虎彦、田宮千代著「愛のかたみ」(暇な方は読んで下さい)を読み父がガンではないかと思った。

8月中旬、父は再び入院する事になった。父は背中が物に触れるのを非常にいやがったので担架を使わずに私が父を車までおぶって行った。事情は違いますが啄木の歌が思いだされて悲しくなった。

母と姉とが付添いで行ったので私は一人になった。

9月になって学校の講習が再び始まり学校と家事との辛い日が続いた。

9月14日土曜日、私はどうしても学校へ行く気になれず

授業をさぼって、家中の掃除をし、人を頼んで庭の草取りをしてもらった。(これが父の掃宅の準備をしていたとは夢にも思わなかった。)午後少しの時間を見つけて病院へ行った。父は眠っていたが呼ぶとかすかに目を開いたがすぐに閉じてしまった。母も姉も疲労の色こくやつれていたが私が来た事を喜んでくれた。

9月16日月曜日、この日私は常よりも早く目が覚め、時間の余裕があったので自慢の料理を作り昼食を楽しみに学校へ出た。父の死の知らせを受けたのは一校時の漢文の時間であった。自転車で飛び出したもののどちらの方向へ走っていいのかわからなくなった。

私がかげつけた時はすでにおそかった。末期の水をつけているうちに、総てが真暗になっていった。

父は解剖の結果、ガン転移、しかも脊髄あたりまでおかされていたとの事。

今ここに父の残して行った手帳の日記がある。これは総て病との戦いの記録であり、私への唯一の贈物である。日記は8月15日で終わっていたが、一月後の明日、自分の死を知ってか、知らずしてか、最後の一月は只、生きようとする精神力だけで生きていたとしか思われなかった。

そして私がこの薬学科へ入ったのも、いささかでも父の病を軽くしてやりたかったからだ。

◇ ◇ 長谷川 佳子

「心の楽しみは良い薬である、
たましいの憂いは骨を枯らす。」

これは旧約聖書の箴言の中の一節です。今から約三千年前にイスラエルの王ソロモンによって記されました。現在も生きている、古代の賢者のことばの一つです。

◇ ◇ 川 又 健

頭はそれほどでないが人間的に豊かなものを持って

いるのと、頭は切れるが人間としては劣るところがあるのとどちらがのぞましいだろうか？ 勿論どちらも望ましいとは言えないし、頭もよし人間も豊かというのが一番望ましいのは論をまたぬ所だが「天は二物を与えず」とやら(この場合「たとえ」として出した以上二物が頭と容姿の場合もあるとか、ことわざは一面の真理とかいう論議の必要は一応ないこととして)なかなかそう両方ともそろふことはないとする……むづかしいことだがあえて前者か後者か、と言われると、個人としてはひそかに後者を選ぶ人もあろうし、又前者を重んずる人もあり得ようが少数の両方共兼ねそなえた人が存在する以上、社会にとっては前者の人間が望ましい気がする。

それにしてもどちらもだめなんてなったらガックリですね。

◇ ◇ カトウヒロコ

入学してみると、どの学部も、合格者数より案内人数が減っているので、意外に思った。聞いてみると、これは毎年のことらしい。それを見込んで、定員よりもっと多くの人を合格させてくれたらよかったのに、と思う。

登 山

「休みたい」と思ったが、やせ我慢した。自分一人のみ弱音をはくのは、みんなの手前どうも納得がいかない。土と石ころをただ真剣に見つめて、ひたすらがらばった。

◇ ◇

下りる時は、つるりとすべって困った。竹やぶを平泳ぎするように、両手でかき分け、かき分け格好ばかりは、熊さながらである、後の男性が「ア、大丈夫ですか」と、私が転ぶ度にきまって声をかける。私の自尊心は少々動揺した。

カナマイシン明治

適 応 症

1. 葡萄球菌、肺炎球菌、緑連菌等による気道感染症
2. 葡萄球菌、大腸菌、緑膿菌、変形菌等による尿路感染症
3. 淋菌感染症 術前、術後の感染予防
4. 葡萄球菌、肺炎球菌、緑膿菌等による一般化膿性疾患
5. 細菌性赤痢、肺結核、泌尿器結核、急性下痢症

包 装 硫酸カナマイシン 1g(力価)
硫酸カナマイシン注射液 4cc入、1cc中250mg(力価)

明治製薬株式会社

雑 観

小 嶋 晃

華やかな空の彼方めざして、ただ一途に思い込みあこがれた彼方へ、わき目もふらずにただ彼方へつづくため、あらゆる手段を講じ、もくもくと進んで来た男。彼方へつけば名前だけはまあ一流の所におちつくことができたということで自分をなぐさめることができ、今のように毎日進めばなんとか恥しくない相当な仕事をもてる日もくるだろうとばくぜんと考え自らをなぐさめ、もくもくと進んで来た男。長い月日をかけてどうやら彼方へつける自信もつき、その間をへだてる障壁を一気にとびこえて、めざす彼方へとやって来た。到着したときまぜうれしさを感じると共にやがてやってくる冒険に胸をおどらせたものだ。だが、実際ここはなんとという楽園だろう。ここは今まで住んでいた世界と比べてなんとという違いだ。始めそれにいささかとまどったがそれになれてみるとこんなに良い所がまたないことがわかった。今までと比べて制約がはるかに少ない。自分の行動は全く自分の判断の通りにできるし、その後でそれに対していくらでも理屈をつけることだってできる。ある程度自分がここに心配なくいることができるためにはごくわずかの時間だけ机の前にすわって、本やノートをひっくり返し、それを1日ももたせておけば十分まにあう。ここにいる人達は1人前の人間として取扱われているから、その人々自身も努めてそのような人間になろうとしている。そのため中にはそのことに心をうばわれすぎここにいることなどすっかり忘れがちな人もいる。事実ここにいるとまじめに一本道を進んで通りぬけてしまうのは、まったく惜しくてもったいない。道の両わきに美しく咲きほこっている多くの花のまわりに集まり、我々の時代を謳歌したり、つまり、将来のためにとか、いくらでも理由はつ

けられるが、とにかく遊びまわることのできるのがいちばん楽しいここは自由でいいと云うときには、多くの場合何の気もねもなく遊べることにほかならない。しかし遊びといっても我々人間には食う、ねむるなどのかかせないもので、もしこれから遠ざかることができたとしても。魅力のない人間になってしまうのだけれども。とにかく、ここで楽しく苦悩のない生活をするには、そのときそのときを、愉快にすごすことだ。しかしここにいる人達は皆良識をもっている。これによって時に自分を深く反省することがある。がそのとき今まで美しくみえていた自分の姿が急に醜くみえてくる。いわば我々の時代はこういったくりかえしといえよう。

ある時その男は将来進んで行こうとする国に出かけて行ってその国の人々からいろいろと話を聞き、その国から自分が今いる場所をながめる機会を得た。でかける前には果して我々のような者がどんな取扱いを受けるか、どんな眼でみられるか全くわからなかった。さて行って見て感じたこと、一言でいえば、これからわき目もふらずに一筋に道を歩く必要であった。つまり、その男のいると同じような所が数えあげてみるとたくさんあるが、その中には、名も実もすぐれている所がかなりあり、そこにいる人達と同じようにしていたのでは、とうていその人達に追いつき追いつくことはできないのである。さてその男は考えた『今まで自分はそういった人々にひけをとらない仕事をやりたいたいと思ってきた。しかしそれを裏づけるためには普通の人の二倍も三倍も励まなければならないだろう。とすれば少し大げさにいえば犠牲的精神で努力に努力を重ねなければならないだろう。こういったことは、我々のようにこれから全く新しい歴史を創っていくかなければならない者にとってぜひとも必要なことではあるまいか。とすれば現在の自分のように将来の理想に向って現実の生活を一步一步積み重ねていくというより、将来のことは将来のことと一応現実と切り離して考え、日々を楽しく退屈のないように生



Naruse

理 化 器 械 } 一般
顕 微 鏡 }
計 量 器 硝 子 }

島津・オリンパス代理店

成瀬科学器械株式会社

仙台市国分町125 TEL (3) 8482
3246

処方調剤・医薬品
マーガレット化粧品

西 内 薬 局

仙台市南町通10(東一電停前)

電話 (2) 5372番

大槻勳夫

作者は誰だったかもうすっかり忘れてしまったけれども Wind Mill という詩の一節に、粉屋の主人の生活をうたったものがあって、そのなかに

I envy no one and no one envies me.

というのがあった。

誰も羨ましく思うことなく、又誰からも羨まされぬという粉屋の主人の充ちたりた幸福な人生をうたったものである。

唯これだけのことにすぎないのであるけれども、ときどき、この一節を想い出すことがある。

思い残すことなく自己の最善をつくし、それによって他人からそれ相当に遇せられるような人生は何と充ちたりたものであろうか。

しかし現在の世の中は数々の矛盾があって、我々にとっては想像以上に冷酷であろうし、我々が最善をつくしても正当に評価してくれない場合も少くないだろう。だがこんなことに屈服して無気力になってしまっただけではいけない。このような社会の矛盾を是正することも又我々の任務の一つなのである。

我々の生き方は、云うまでもなく各人の境遇、その他の要素によって、左右されるけれども、要するに自己の立場を認識し、任務に邁進することが何と云っても重要であると思う。そしてこの詩のように悔いなき人生を送りたいものである。

薬学科男性諸君に一言

E. S.

わが愛する同胞よ、諸君はデクの棒だと女性に言われているのを感じぬだろう。そう勉強にだけ固執しないで、もっと青春を味わう気はないのか、残念ながら諸君の番ブラ姿を見たことないよ、たまにはデートでもやりたまえ。えっ？誰とだって、とぼけなさんな、君の机のまわりにこんなに魅力ある女性がいるのに、僕はいろいろの人とつきあったが、仙台での最大難物は藤崎ガールと薬学科ときめこんでいた。前者はシャンだがよそよそしく、後者は独語の辞書のように近より難く面白くない（失礼）しかし2つともこの雑信はいみじくも消えさった。前者はやっと映画のさそいに応じてくれたし、薬学科の女性も外に出れば話はわかり魅力もあることが分ったからである。諸君、女性が多いという薬学科の特徴を多いに活用しなくてはうそである。（それは義務ではないが当然の権利である）これに際して女性側の絶大なる協力を願う次第である。女性諸君よ、純情なそして多感な男性の意に応じてくれたまえ。

きていくという態度では、なにか、なまぬるく心もとなくみえる。しかしそう考えて今までの態度に一切背を向けてせまい道にとびこんでいったとしたら、視野のせまい物わがりの悪い、人間的に魅力のない人物になってしまうだろう。そこで何事にも中康をつくせよという言葉を出す。しかし自分のような者がこういう言葉に甘んじて、すごすとすれば、はたしてどの程度までのびていくことができるであろうか。不安にならざるを得ないのである。しかしこういう問題は解決を急いではならない。やがて自然に自分の進むべき道がはっきりとしてくるかもしれないし、あるいは逆にますます苦悩におちいるようになるかもしれない。だがいずれにしても、常に自分の将来の目標をもち続け、それを現実と結びつけ、前向きの立場で物事を考えて行きたい。』男はそこまで考えると深い眠りについた。

思いつくまま

戸引久雄

メロディーは単に音波の組合せにすぎないが、唯それには制限がある。即ち人がその音を耳にした時不快な感じを受ける様なものであってはならない。不快音は単なる雑音或は騒音にすぎない。現代は全くこの雑音と騒音の世界である。

人間は欲望という名の有形物である。即ち欲望をの化身である。欲のない人間は幸福であろうか？ 欲望を十分に充足する事が出来て、且それに満足している時こそ幸福なのではないか。

思想は自ら求めて得られるものである。したがって最初から制約されたり、強与されるべきものではない。

以前不老不死薬を作る為に（これは絶対不可能な永久機関を作ろうとする事に似ている）いろいろ研究（？）が行われたが、作る事が出来なかった。そんな事は不可能であり第一、自然の理に反している。よしや、永く生きたからとて、果して、人生を良く生きた事になるであろうか。

人は生きているのが嫌になったと軽々しく口にする。だからといって、死にたくはないといったのが大多数の人間の現実ではないか。

人間は生物学的な動物という事をはなれて、神になる事が出来るであろうか（一瞬間でも）。

医者は病人を安心させるゼスチャーを心得ている。患者が心配そうに自分の病状を医者にたずねた際、医者が「私に一切を任せなさい」と考える事は、もう人間ではない、即ち人間を忘れた越権行為である。

◆偶 感◆ 道 菅 梓

1人部屋に寝ころんでいて、こう考えた。運命というものはおもしろい、と。僕自身中学、或いは高校のとき、まさか東北地方へ将来行くとは一度だって考えたこともなかったが、これも何かの因縁か、東北大へ入りいろいろ友達もできた。もし東北大へ来なかったらこれらの人達と、知り合いになることはおそらくなかっただろう。

「袖ふれあうも他生の縁」ということがあるが知り合いになるなんて大変な縁である。この諺を広く解釈すると、人間に生れたということ自身一少くとも同時代に生きている者はすべて他生の縁があったのだと思われる。前世からの縁なんていうものは努力して作り出せる性質のものではない。確率の極めて小さいこの

縁を持つことのできた我々は、縁のあったことを喜び、仲良く平和に暮さなければならない。平和を保つためには個人の少々の犠牲は仕方がない。自分の都合のいいことばかりを主張したのでは平和は保てない。異なった立場の人々が協力しなければならないのである。

◆朝 顔◆ 飯 塚 義 夫

一つの大きな朝顔をつくるために、春に種を苗床にまき双つの葉が出たら、鉢に移して毎日毎日水をやり、余計なつるやつぼみを切ります。しかし花の寿命は何んと短いのでしょうか。大きな花が咲いたなら、暑い夏のうちに一番快ち良い朝早く、縁側にひじをついて鉢一ぱいのその青い広がりをつゆくりと眺めたい

△考△△△△る△
△考△え△る△△
△△△△え△△△△

佐々木 結子

デカルトが「我思惟す、故に我あり」といい、パスカルが、「人間は考える葦」といっているように「考える」ということで人間と動物を区別し、さらにそれが、人間の生活をより、高度なものにしているという事は、誰でもが認めていることだろう。私達の周囲には、考えねばならない問題が沢山あるとよくいわれるが、現在までの私には、考えることの必要性が、身にしみて感じられるような問題は、なかったのである。もちろん、今までだって、年令・境遇に応じて、何かは考えて来ただろうが、ここで私の云うのは、もう少し突っ込んだ意味のつもりなのである。実際、私は、この頃自分に何か物足りないものを感じて来たのだが、それが何のためであるかは、はっきりしない。しかし「考えることなくして、内容の充実は望めない」という世の一般原則からして見ると、その物足りなさは、どうやら自分の考え不足に原因しているらしい。

私はいまだかつて、親のもとから離れて生活したことはない。親から離れて生活すること自体の良否は、自分に経験がないためもあるが、よくわからないが、親から離れて生活しているが故に、又他人と一緒に生活しているが故に考えなければならない問題も当然ある筈である。事実、私の友達で、下宿・自炊・寮生活をしている人々のすべてが「家にいればぼんやり見過してしまいうような問題も、自分で考えるようになるし、新に首を突っ込んで行かねばならない問題も起きてくる。家を離れることはうれしくないが、物事を自分で考え、自分で処理するようになる点だけは自分にとって、大きなプラスであると思っている」と口をそろえて云うのである。羨しいことだと思う。しかし、

考えるチャンスは、この様な場合に限られている訳ではない。私は、親しい友人が自分の経験を通して語った言葉を思い出す。「私は最近、ある問題にぶつかって、非常に悩まみしんだ。そのために、一は目から見てわかる位やせたけれど、私にとってはいい薬になった。夜も眠らないで考えたし、本も読んだ。この結果、問題そのものの解決にはあまり役立たなかったかもしれないが、それ以上の何物かを得たような気がする。」私は、もちろんその悩みの内容もある程度知っていたし、苦しんでいる様子も見えていたのであるが、そんな風に、ギリギリのところまで考えを及ぼしたことの無い私は、どうすることも出来なかったのである。ただ、その問題と真剣に戦っている姿をみて、感心するばかりだった。その友はさらに云う。「ある切迫した問題にぶつかって、真剣に考えるということが、いかにその人間を成長させるものかを、身にしみて感じた。生活上の問題でも、恋愛の問題でも、とにかく、自分に迫って来る問題について真剣に考えることは、大いに必要なことだと思う。」

この友人の得た結論は、私が常に考えている事と一致しているのであるが、体験を伴わない私のものは、単なる理屈でしかない。自己の経験を通して得たこの友の結論は、ほんとうに貴重なものであり、実質的なものである。私も早く、自己の経験を通して、この結論を再認識したいものだと思っている。

聞くとところによると、薬学科の1・2回生の人達は、校舎問題などで相当苦労され、色々と考えなければならない問題をもたれたそうだが、その苦しみをさることながら、ある意味では非常にプラスになったのではないかと思う。もちろん、考えるだけでは、事の半分にも達しないかもしれない。しかし、考えないことにはどうにもならないのである。人間から「考える」ことを除いたら、後には、人間的な何物も残らないであろうから……。

ベルクと宿命

山本紀一

「年経る放浪の念は昂まり
習慣の鉄鎖を憤る
その冬の眠りから再び
野性の旋律が眠さめる。」

彼は離れたかった。1歩でも離れたかった。埃、騒音、仕事、対人関係、そういっためぐるしい現代の社会、文明化された、あまりにも文明化された砂を噛む様な現今の生活、そこから1歩でも離れたかった。そしてそこに生存する資格を掠奪された彼は、そこから遠ざかりたかった。それは永く仮死状態にあった彼の本能が、再び生き返ってくる時に感ぜられる野性の息吹であった。そして彼は望んだ。彼がそれを望んだのはそれが彼の本性だったからであったし、彼があの名づけ様もない捕捉し様もない、山行の矜持にしっかりと取りつかれているからであった——その矜持はこの労役に服する人間共を最後の喘ぎまでつかんで離さず、その人間共はこの矜持の故に喜んで荷を背負い、荷を切離されれば断腸の思いをするのである。

そこは、真夏の太陽がキラキラと照りつけ物音一つせぬ死の世界であった。風さえも出しぶっているその中で、彼の動作は鈍かった。暑さはいよいよ暑く、肩の荷はいよいよ重い。咽は渴き口腔はねばつく、汗は流れて眼に入り、更にそこから流れ出て、口唇を伝わり、舌上を管めまわす。が、最早それは鹹味を感じせしめない。路傍に咲き誇る薄雪草も、眼前を乱舞するカミナリ蝶も、彼の眼には映らなかつた。渴きが時折耳を惑わして、風の音と水音とを錯覚させるのみだった。その毎に、彼の筋肉は一瞬張りつめ、それが錯覚の所為だとわかるとき、緊張は彼のエネルギーを消耗して崩壊して行った。彼の脳細胞の一つ一つは、清溪を失った岩魚の如く、既に活動を停止せんとしていた。その停止寸前に、昨夜別れたF子の顔が、既に忘れかけている旧友の様に、ぼんやりと映し出された。岩場のホールドにしがみつく様に、必死でその面影を確保し様とする彼に対して、肉体の疲労がそれを阻んだ。F子は消え去った。そしてそれは彼に一つの空虚を与えた。何となく空腹に似ていたが、その空虚はしきりにうづいて、食物で満たす事は出来なかつた。そして、そのうづきの内から「どうしても登るの?」と云うF子の声が、ミヤマカケスのあの、不気味で、そして死を讃美する様な鳴声に掻消されそうになりながらも、やっと彼の所に達した。その中には、不思議な未知の力が潜んでいて、山の誘惑的で荒々しい力と、互に、肉体と精神を夫々味方に加え、彼の身体を借りて、激しく闘った。彼の脳裏には、それを感知し得る余裕がなかつたが、肉体がそれを刻明に捕えて離さなかつた。その戦場を「魔の8合目」彼はそう呼んでいた。そし

てそのいづれの一方が敗北を喫し様とも、頂上に立たねばならぬ宿命を彼は背負っていた。そして彼は歩くだけだった。果してその行為が、彼の人生に対し、如何なる役割を演じて来たであろうか。又今後如何なる役割を演ずるのであるであろうか。だが彼には、その事を考える余裕などあるう管がない。歩くだけが精一杯だった。それは、故障しながら辛くも廻り続ける一個の機械であった。そしてそれはこの上もなく悲しい。人間と云う動物が、本性的に持つ宿命の悲しさであった。

突然、目の前が開けて、頂上は眼の前に在る。山の雄大さと神秘さが、眼に痛い程浸みわたり、鼓動は一瞬停止する。彼方の、雲塊の間に輝く尾根が美しい。汗ばんだ肌に風がいかにも爽かだ。そしてこの空気の旨さ!そこは下界と絶が反対である。山と彼の区別は最早ない。それ故彼は山を讃美する。

“Auf die Berge will ich steigen,
Wo die frommen Hütten stehen,
Wo die Brust sich frei erschließet,
Und die freien Lüfte wehen.

Auf die Berge will ich steigen,
Wo die dunkeln Tannen ragen,
Bäche rauschen, Vögel singen,
Und die stolzen Wolken jagen.”

◇個性◇ 津田 宣直

人というものはどうも他人の表面のみを見、かつそれだけでその人を評価しがちである。唯でも人は必ず何等かに於て他人には求められない良い点(美点)——その美点が外部に表われて一目瞭然にわかるような人もいるし、美点が内部に内在していて、はたから見たのではわからない、否本人自身も分ってない、という人もいでしょう——を持ってその人独自の特性となっている即ちそれが個性である。我々は各自めいめい自分の個性をもっとはっきり出すようにしたらよいのではないでしようか。現在の我々を見ると、個性というものをあまり問題にしないようにみえるものですから。

◇奇妙な礼儀◇ 菅原 朝子

粗雑な態度も非礼だが馬鹿丁寧な態度も確かに非礼である。日本人には今でも丁重すぎる言葉、動作が残っておりそれが深い教養の現われの様に考えられているのは滑稽だ。応答に困る様な丁寧すぎる挨拶をされると却って馬鹿にされている様で腹立たしいものである。おまけに此方も同じ様な態度に出なければならぬとしたら、その煩わしさはたえられない。

単純な言葉、単純な挨拶こそ自然で美しい。

薬学の将来

千葉祐広

ライナス・ポーリングは彼の著書「一般化学」に於いて有機化学者の最終の目的は「物質の物理的、化学的性質、さらにまた生理学的性質をその分子構造によって完全に理解することである」と云い、さらに又続けて、「現在化学者は物質の物理的ないし、化学的性質が、その分子の構造とどんな関係にあるかということについて非常に洞察を得ているが、しかしながら構造と生理的活性との関係という大きな問題については、今までのところほんの第1歩をふみ出したにすぎないのである。」と述べている。若し、ポーリング氏が云われる如く、今まで分子構造とその生理的活性との関係が、殆んど未発達の状態だったのなら、過去に於いて発明発見された医薬は全く科学的な裏づけなしに、偶然的に作られたと考えてもさしつかえないであろう。実際、この事実は薬学史を読む時、より一そう明らかになって来るのだが。

本草万能の配合医薬からの脱却は化学、医学、その他種々の学問が進歩するに従い可能になり、近代医薬時代へと変遷し、そして近代医薬時代に於いて、初めて薬学はその花を咲かせた。サルファ剤、抗生物質等の医薬は悲惨な疾病から人々を大部分救うという大活躍を行い、人類の死亡率の大低下という輝かしい成果を生み出し、世界人口過剰現象への一役割を果たしている程である。

所で、此等優秀な医薬の発明発見は、外国では、薬学関係者以外の科学者（医学者、化学者、生物学者等）によってなされている。（もっとも外国の薬学系大学では薬学者の養成でなく、薬剤師養成を主な仕事としているので、医薬を作るのは、一般に化学者、生物学者等にまかされているそうだが）他方、外国の薬学教育と逆の方針をとっている日本の大学の薬学科出身者についてその業績を調べると、あまり外国と変らない様だ。日本で発見された世界に誇り得る医薬は医学者、化学者、その他によるものが多い。古い所で、オリザニン、新しい所で、トリコマイシン、カナマイシン等すべてそうである。

この様に薬学者が医薬の創製の機会に恵まれなかった最も大きな原因の一つが、医薬の発明発見は過去に於いて非常に偶然性に支配されていたという事にあつたのではないか。即ち、医薬の創製を志す人々は、物質の分子構造とその生理的活性との関係には無関心のままで、医治効用があると推定される天然物を分析したり、あるいはその様な物質を合成したりすることによって得た物質を臨床実験して、その結果如何によって製品化するという科学的でない勘だけに頼った方法で医薬を作ってきたのではないか。

近頃、上述の如き新薬創製法の打破への芽生えが、少々

見受けられるが、一層育でるべきだ。未来の医薬は分子構造論と生物作用の化学的研究とにより成る「構造と活性相関」を調べ、推計学的生物試験法を経て得られる科学的に裏づけされた産物であろうし、又そうであらねばならぬと思う。

物質の生理的性質とその分子構造との関係という大きな問題に明確な解答を与えていくという大きな任務を果すものは、これからの薬学を志す者であり、又この重要なそして困難な仕事をやり遂げる事によって始めて薬学者本来の仕事、即ち科学的に裏づけされた秀れた医薬の創製が可能となるものと信じる。

医学と従来の有機化学を主とした薬学との融合の強化ということの具体的表現を、私は、分子構造とその生理的活性との関係という大きな問題に対する解明への前進としたい。

◇ライフワーク◇

川村 通夫

我がライフ・ワークは生そのものであって他の何ものでもない。多くのものにとっては単なる前提に過ぎぬものであっても、ある者にとっては何等かの事情のもとには必須要素となり得る故、満更論外的なことでもなからう。

しかし斯く口外するペスイミストは、人生を意義づける要素を生みだそうとする努力以前に生そのものから何ものかを見出すことのみで終始してしまうかもしれない。それ故よりいっそうの生への憧憬を抱いて止まぬのかもしれない。

増子 和子

○友の一切を見、一切を手に入れ様と望んでも無駄である。結局二人は依然としてお互に謎である。そして疑いもなくどの人間も他の人間にとっては謎である。そして其掟に魅力がある訳だ。しかしめいめいの中に相手に対して決して解らないものが何と多い事だろう。

○此の世に在る物で一つとしてすぎ去らぬ物はない。せめてその中で誠を残したい。

高橋長盛堂薬局

仙台市肴町五十一番地

電話 (2) 4548 番

—武田、塩野義を見学して—

橋本幸子

とにかく、御覧にならなくてはわかりになりません。「これが自動ソフトカプセル製造機と申しまして、自動的に作られた2枚のゼラチンの間に一定量の薬液を自動的に充填し製球するもので、一時間に約16,000球できます。世界に1,000台あるうちの1台でございます……」ゼラチンで覆われた美しい赤い錠剤が、次から次へとできて来てみるみるうちに、それが大きな裾野をもつ赤い山となってゆくを見て、ただ驚くばかりです。

私は大阪市内にある塩野義製薬会社の浦江工場、そしてその翌日は、武田薬品工業会社の十三（じゅうそう）大阪工場と、研究所を見学させていただきました。

工員 410名（女子工員 320名）の浦江工場は、塩野義にある3工場1研究所1農場（工場は浦江の外に杭瀬、赤穂にある）の中でも比較的小さい工場で、主に錠剤、注射薬を製造している。原料はすべて杭瀬工場から送られて来るそうで、ここでは製品として送り出されるまでの過程が行なわれるのである。注射薬の工程を中心にらせていただいたのであるが、無菌無塵室での異様にまじり驚きの声をあげた。天井から床まですべて白一色。勿論その中で働く女子工員は白装束、白頭巾。アンプル充填から全数検査までの過程が行われるのであるが、隣室から大きな窓越しにのぞくだけでも消毒薬の臭気紛々。うんざりする程なん度も行われる試験、検査、滅菌。しかし我々の体内に同化されるものであれば、どんなに清潔にしても、しすぎることはあるまいと思った。全数検査では、2.5倍の拡大鏡で熟練した工員が一つ一つ不良品を見つけたのであるが、1～Sプロのロスきりない程の優秀さだそうである。また出来

た製品の一部の保存試験が行われているが、最低10年は保存されているようだ。

8つの外国有力会社と技術提携、主に東南アジアへ輸出しているなどのお話を伺ってこの工場を失礼した。

翌日は、武田の十三工場と研究所である。この工場は、4つの工場のうちでも最大であるだけあって、77,000坪の敷地（延建坪約35,000坪）を持つ大工場である。ビタミン剤、注射薬製造過程を見せていただく。

12種のビタミン、D-Lメチオニン、安定剤、賦形剤などの原料は、ペースト製造機にかかりよくねり合せられ、前に述べてある自動ソフトカプセル製造機を経て、乾燥。

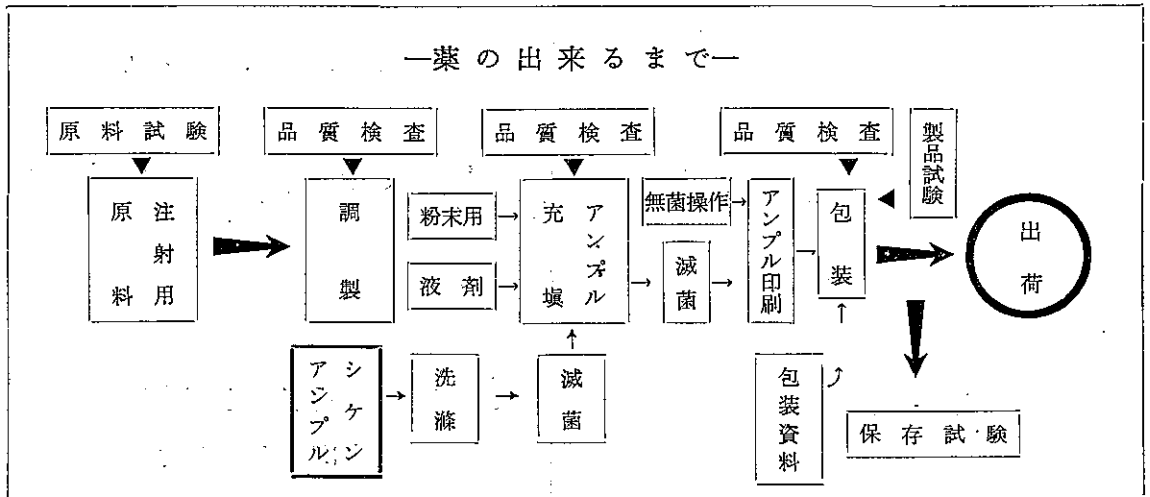
これらの製品は全数検査が行われ、不良品は検査員が手にする真空管で吸い上げられるのである。最後に定温、定湿の室でビン詰からはじまる包装がなされるのである。

最新の高能率な機械による包装があるかと思うと、片やベルトの両側にずらりと並んだ女子工員のあざやかな手さばきによるレッテル貼りや包装を見てみると、今までの工程中にも見られた機械化のアンバランスというものを再び感じさせられた。

注射薬の方は、数回のアンプル洗滌、検査、試験など、塩野義とは大差なく、べつに注目すべき所はなかった。

この広大な敷地内に、建坪 4,000坪という堂々たる近代建築物がある。1958年8月に建設されたという真新しい研究所である。有機化学、物理化学、分析化学、生薬学、生化学、薬理学、病理学、微生物学、細菌学、植物化学、植物病理学、応用昆虫学などに分類された研究室で約300名の研究者が研究しているのである。地下1階、地上6階の隅から隅まで、心のゆきとどいた設計がなされているのには、感心するばかり。たとえば、無菌室は塵がたまらないようにというわけで、角のない、つまりすべてがまるく作られており、動物飼育用の棚は、天井から宙づりになっている。掃除の便利さ、操作の便利さを考慮に入れたのだそうである。面白いことには、屋上に、兎、犬、鶏、山羊、

—薬の出来るまで—



猿など実験用動物が飼われているが、その一隅にはそれらの動物の焼場や靈魂を慰めるお地藏様が設けられていた。

研究所員についていえば、平均年齢40才前後というから、これからの研究に大いに期待できるはずである。薬学博士が40名。東大卒ががぜん多いのは東大の朝日奈先生がこの顧問であるからばかりでもあるまい。

しかし女性というのはごく小数である。五・六名なそう、それも旧制の薬専出身者ばかりであるということを知っても、如何に女性が研究所に進出するのが困難かを思わせる。与えられたテーマに結論を出すのに費やされる年月が10年を単位とするということからも、うなづけると思う。この会社では、相当研究所に重点を置くらしく、年間6億もかかるのである。参考までにいえばこの資本金は32億である。

また、研究所内には、医学・薬学関係の洋書約3万部、東洋医学に関する古書外2万部を有する図書室があり、213人の研究所員が、静かな閲覧室で読書しているのが見られた。それから生薬標本室に案内された。5,000種の標本と50,000種の薬草のおし薬。1781年和漢薬販売業に端を発するという会社の歴史がものをいっているのだろう。実際に、標本として整理しはじめたのは大正10年頃だそう。その他、15匹のうさぎの体温を一度にはかる機械などと、いろいろ珍しいものを見せていただいた。

再び、応接室に戻り、ブラッシーの効能を伺いながらごちそうになり、主要ビタミン剤は全国の55.2%が当社製品だそうで、やはり、武田の製剤別生産比からいっても、ビタミン剤が53.5%を示しているというお話や、外国からの原料輸入、輸出小会社をつくって他会社との競争にたち向かう話など、面白い事を伺った。

外へ出ると35°Cの猛暑。うんざりしてしまった。

◇怪 我◇ 菊 部 悦 郎

ある日、日比谷の電車通を横切った時のことである。自動車の来ないのを見定めて、三・四人の人達と向側に渡ったので、多少、安心感があったせいか、車の来る方を見ないで行った所が、風のように私の前をオートバイが通りすぎ、ハンドルを持っていた肘が私の外套をかすめて行った。私はハッとして、一瞬寒気が背筋を通った。信号の無い所だから自動車だけ注意して通ったのはこちらの油断である。このようなときに怪我が起るのである。怪我という文字は面白い字で、たしかに我を怪しむという場合が多い。しかしよくしらべてみると、不注意あるいは不用意が怪我の原因の大部分のようである。だから怪我は割合に荒い人に多い。

◇人まかせ◇ 大 峽 寛 子

兎に角、入りさえすればそれで周囲の期待から解放されると思ったが、今度は、四年間の勉強が思いやられる。もともと、勉強と云うものが、大嫌いなのに、他の方面も取り立てて秀れたところがなかったから、ついずるずると、大学受験まで来てしまい、さて、自分が進むべき道は、と考えたが、理科系にも、文科系にも秀れていず、自分では、少々文学部に気があったが周囲が反対して、結局ここに到着してしまった。両親は安心していらっしゃるし、御本人も満足そうな顔付をしてみせる。良かったですネエ。と人は云う。

次々に、自分の前に開かれた道を、ボンヤリ歩いて来たから、帰る道を忘れてしまった。帰れないとすれば、前に行くより仕方がないだろう。

ミドリ薬局支店

東 一 92

(9) 2 7 0 9

良薬と新薬のお買物は

親切第一の店

フタバ薬局

仙台市東一番丁大通(藤崎西向)

話話 (2) 7 9 5 9 番

井田 昶

あこがれの大学、学都仙台の川内校舎。そこに集う数千の学生諸君はそれぞれの努力の憶いを秘めて入って来たことであろう。環境にめぐまれた静かな校舎—それは他の大学に誇ってよいと思うが、交通の不便なものにはいささか閉口である。新設の学科、学校は意気大いにあがるのが普通であり我々の責任もまた大きいと言わねばならない。自らを含め学生諸君の自重自愛を祈るや切なるものがある。

◇ビール◇

柴田 健雄

ビヤホールでビールのコップに蠅がとびこんだ。
イギリス人—ボーイを呼んでとりかえさせる。
スペイン人—金をはらって店を出る。
アメリカ人—ビールをぶちまける。
ロシア人—気づかぬ事にして飲む。
ドイツ人—蠅をつまみだしたたきつぶしておもむろに飲む。
シナ人—蠅をつかんでそれをサカナにして飲む。

三年たったら

佐藤 洋子

医学祭の6月16日の午後、見学者はよく降る雨の中を解剖学教室の前に長い列をつくっていました。

私もMさんの傘に入れてもらって片方の肩を雨にぬらしながら一時間も立ち続けていました。

全教室を廻って来たので二人ともいい加減疲れて、口もきかずにニョッキリ立って順番を待ってた時のことです。

入場者の整理に当たっていた医学生の一人が「君達仙台初めて？」と聞くのです。

「何を言うのかしら、この人。」と思って変な顔をしていると、側にいたMさん何と聞き違えたか大真面な顔で、「はあ」と答えたものです。すると「三年たったら又やりますからね。見に来て下さい。」とおっしゃるのです。

私達が二人とも東北大の、しかも、れっきとした医学部の学生であるということを知りなかつたのは仕方ないとしても「仙台初めて？」には全く恐れ入りました。

廊下を歩きながらレインコートの衿に手をやってみたら確かに東北大のバッヂはくっついていましたのに。

帰り際に彼がまだそこに立っているのを通りすぎるときに軽く会釈しましたら相手も微笑んで頭をちょっとさげましたっけ。

「三年たったら私達も仲間に入れて頂きます。」のつもりだったけど、あちらのは「又見いらっしゃい。」という挨拶だったのでしょうねきっと。

提 案

児玉 充生

些細な罪でも犯したことを、子に詫げるだけの心懸けを持ち合わせてる親は幾人あるだろうか。若い人達が口を揃えて大人の世界は見苦しく、嘘で固まっていると思いついでいる。またその若い人達の言葉や文章に、どの程度親たちが耳や目を傾けているかが疑問である。義務教育の期間中生徒から両親以上に絶対的な尊敬をうけ、否うけなければならぬ教師が、身をもって生徒を教育するのに苦心している毎日である。勿論教師の素行性格にもよるが、親以上に真剣に考えて指導していることは事実である。そのため、指導を束縛したり邪魔となるような規則を為政者がきめると、公平に考えて教師でなくとも当然の反対抵抗を生ずるのである。勤務評定の問題で教師たちが強い反対斗争をしているときに、親以上に尊敬する教師の斗争を生徒達はどうのような目で見るとであろう。強引に押し通そうとする強力的な反撥となって表面化する。その風景は若い人の悩みの中に、更に暗い大人の社会の影を投じているのである。それというものはじめから相手の話に耳を傾けようとしないで賛成反対ときめつけてかかっているからである。もっと公平で自由な話し合いの広場を持つべきであると思う。

× × ×

× × ×

加藤産婦人科病院

仙台市土樋
TEL 仙台(2) 8658

早坂神経科

早坂長一郎

東七番丁 127 TEL(2)8323

長崎ある記

大津耀子

海岸線すれすれに、汽車はその体を右に左にわん曲させて走る。左手が三月末の有明海である。東海道線付近の海の色の濁りが、南下するに従ってなくなって来て、反射する日光で美しい。右手はミカン畑、こんもりとした濃緑の間から、夏ミカンが顔を出している。諫早を過ぎるとまもなく、終着駅長崎である。一応道順は書いてもらってはあったがわかりにくい所だし、近いから、奮発してタクシーでいっちゃいとの事で、駅の駐車場で待ったが、大して多い客でもなさそうなのに一台もなく出はらっている。案内ノンキな街である。数度迷いながら迷路のように曲った石だたみのだらだら坂を上る。坂のぼりをした事も手伝って、覚悟はしていたが暑い。「みちのく」から着ていったコート、カーディガンを脱いでブラウスになる。しばらく上ると、長崎湾を眺める事が出来、一方は赤レンガの塀が背の高さ位で、続いている。長崎だなと思う。この街には湾が細長く、鋭く入りこんでいて、一寸見ると、右も左もかすんで、どちらが海へ続いているのかわからない。三菱長崎造船所と湾をへだてて向かいあっていて、数千トン級の汽船も停泊している。小型の船も数隻行ったり来たりで、向う岸へ行くには細長い湾をまわるより、汽船で渡った方が早そうである。翌朝は「ポーッ」という汽笛が目がさめてうれしかった。お蝶夫人で有名になったグラパー邸、ステンドグラスが美しい。形の良い大浦の天守堂、支那の影響が仏教に混入して、別名「赤寺」とも呼ばれる。文字通りの真赤な支那風の——私は浦島太郎の物語に出てくる竜宮城を想い出したのであるが——お寺「崇福寺」や被爆の中心地に、わずかにその影をとどめる浦上の天主堂とその記念の文化会館等を、観光バスが案内してくれた。皆長崎ならではのものばかりである。どこへ行くのもオランダ坂の上り下りと、その石だたみの上にサボテンを並べて売っている風景、港の様子、西洋風の昔の建物、それらが支那風な味をとりまぜて、南国的な異国情緒を漂わせてくれる。が、そのような、暖かい、半ば淡く哀しい気分の中で私達を現実に戻してくれるのは、被爆の事実を再認識させられる事である。12時2分前で止った針がまがって、色の変った柱時計や、板べいにはっきりついた色の変り目、作業服の破れ、ひどいケロイドの模型や写真、その他当時を知るに充分な品々が文化会館に陳列されてある。私たち

には、ある事について本等で読んだり、他の人の言葉を聞いて、胸中にイメージを画き、一つの概念が出来上がると、それを頭の中にしまっていて、必要な時それを引き出し出して来て、判断の材料にする。が、それはあくまで理解であり、理論的に割り切れるものであって、多くの場合実感ではないから、直接身に迫って心を動かしてはくれない。これは自然風物についても言える事であろうと思うが被爆の事についても、多分にそういう気味である。「そういう事実があったのだ」という事を知ってはいても、真に痛切に迫ってくるものとはなっていないのではないかという気がする。それがここで沢山の証拠品にとりまかれると、現実にあった一つの大きな出来事へ一歩近づけられる。それは長崎という経験者が持つ強みなのであろう。私が意外に気に入った所、それは魚市場であった。観光バスは案内してくれぬが、すばらしいところである。水揚げ場ではないから新鮮度は大分落ちているのであろうが、それでも、赤、橙、青、黒、何種類ものねずみ色が冴えていて、見ていてあきない。ずっと以前、竹内柄鳳が水揚げしたばかりの魚のすばらしさを画家の眼をもって書いていたが、なるほどと思った。漁獲量は日本で二位という県だけあって、種類も豊富で、名を知る魚、知らぬ魚が、大きいものはコンクリートの床に、ころがっている。中でもエビに目を見はる。甲らの赤い色が、普通の魚屋で見かける日数を経たしたものとは、微妙なちがいを持っている。いく分色が明るい感じで、あざやかであり、全体に丸味を帯びて、海中での様子を思わせる躍動が未だ失われていない。引きしまった感じである。もちろん後でエビ天試食もさせてもらった。最後に菓学科の喫茶店(?)に「銀嶺」を紹介しておこう。繁華街をぬけて、平地から山手に入る境にあるのだが、一風変っている。中は、古い西洋風の置物が、よく集めたものだと思ふ位沢山ある。宣教師の使ったという二・三百年前も前のパイプやシーボルトの使用したという医術書等もあったが、ランプが面白い。全く多種多様であって、小さいのから大きいのもまでデザインがすばらしいし、薄く着色されたその色も、異国の味が出ている(汚れ等はもちろん少しもない)。花びんは白地に青色の支那風の模様であったが、西洋的なランプの隣りに置かれていて、うまく調和している。そういえば、長崎はこの調和のすばらしさで出来ている。古い時代からの、次々に、港から入って来る文明の自然に消化して、この街にマッチしたものとして行き、街はそれらによって作られて来たのであろう。それが旅行者に何ともいえない異国情緒を与えてくれるのである。



十和田紀行

佐々木 綾子

// 出発 //

1959年7月13日20時25分、仙台駅一番ホームより出発、アルプス隊と駅頭でお別れ、「死なないでネ」

// 車内 //

乗車早々、向いの客（東北大の学生らしい）に「どこの高校ですか？」といわれフンガイ。だが客観的にみると、大学生らしい顔はみあたらない。バッジだけが唯一の物的証拠である。

眠れない一夜を車内ですごし、ねぼけまなこをこすりながらおむすびにかじりつく。食欲旺盛。

// 青森 //

どうしても朝のような気がしない。前日自分が家を出た頃と区別がつかないのだ。人間の感覚とは、はなはだ怪しいもの。

// 八甲田山麓（バス） //

海拔500米を越えると放牧場が見えてくる（下車）。馬が沢山いた。馬の生態をとらえようと迷カメラマン達がおしかける。「どうぞマにナメラレませんように」

酸ヶ湯温泉について、八甲田仙人に勇ましいラップで迎えられ、ちょっといい気分。いよいよ八甲田連峰をまぎして出発。だんだん口をきくものがなくなって、黙々として進む。やっと八甲田大岳の麓につき昼食。とてもおいしかった。お腹を満して大岳を見あげ、ファイトをもやす。

// 大岳 //

海拔1583米の大岳はさすがに息が切れた。頂上からは、下界のものは何も見えない。あたりは一面のガス。仙人のような(?)気分になる。マンガの雲上の孫悟空を思い出す。

誰かが「せっかく登ったんだから、一番高いところに登ろう」といいます。が残念なことには、一番高いのは頂上に立てられた石柱の先で、とても人間が登れそうもない。しかたなくこれは断念。

// 小岳 //

このあたりからグロッキー組も出はじめる。だが、わが班はすこぶる元気。

// 高田大岳 //

最も苦しかったところだ。雨がふり出して地面はつるつる。連続スライディングをやっている人もいた。

// 谷地温泉 //

どろまみれの悪戦苦闘のすえ、やっと温泉に到着。ひとフロあびて、薄暗い石油ランプの下で待望の夕食。皆疲れたせいか、予想外(?)にたべなかつた。

翌日のエネルギーを貯えるべく、早く眠る約束だったが、昼間の苦闘を思い出してはクスクス……。もちろん一言もしゃべらないで陥落した人もいる。

// 奥入瀬溪流 //

元気をとりもどした翌日は、溪流にそって12キロ、子の口まで行く。途中、道端で昼食。今までおむすびがこんなにおいしいものとは知らなかつた。食事中に、大阪府大の学生と会う。またしても「どこの高校ですか?」「東北大です」というと「へえーッ、ホンマカイナ」ですって。バッジを見せてやっと納得してもらった次第。全くいやになってしまう。それにしても、よくまあこう小つぶなのが揃ったものと同感心する。

// 子の口 //

十和田湖畔のキャンプ場。湖面を渡ってくる風がとても気持ちよかった。各班とも自慢のウデをふるっての夕食。どんなごちそうが出来たやら……。夜はキャンプファイヤーを囲んで各班ごとにかくし芸披露。風下に陣だったわが班は、初めのうちは「煙は美人の方へなびく」などといって、大いに喜んでいたが、しまいにけむりてけむりて目もあけず、ちょっと残念だったがついに風上に引越す。

歌も火も下火になったところでめいめいのキャビンへ引きあげる。先生から早く寝るようにとの厳重なお達しがあったにも拘らず、そちこちのキャビンからは笑い声がひとしきり。

// 朝 //

昨夜の夜ふかしにも拘わらず早々と起き出した我々は、元気一ぱい朝の料理に腕をふるう。さわがしい朝食。我々の食欲旺盛を見込んでか、近くのキャビンからオートミールがとどけられる。名づけて“オートミールの君々”。

// 湖上 //

ガイド嬢の声もさることながら、湖水の美しさにはただ驚くばかり。ボートにはぜひ乗りたかつたが「泳げないヤツは絶対に乗るな」といわれ、うらめしうにボートをにらむ。

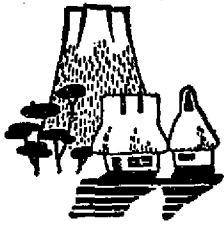
// 休屋 //

みんなのリュックがおみやげでふくらんだ。ここからバスで十和田南駅まで行く。バスは落ちたら命がないという道を登りつめて美しい十和田湖と最後の別れをする。

好麻から東北本線に乗りかえて一路仙台へ。好麻からは八幡平隊も合流して互いの無事を喜びあう。

7月16日20時10分、無事仙台駅に着く。皆、ねむそうな顔をしながらも、楽しい思い出を胸に抱いて家路についた。





富士山

村松誠一郎

富士ヶ嶺はさはるものなし久方の
天ゆ傾きて海に至るまで
海の上ゆ振りさけみればわが前に
押してか来らし富士の裾野は

これは島木赤彦が駿河湾から富士山を仰いでつくった歌だが富士の神々しいまでの美しさと動的な力の漲りとを極めて簡潔に表現している。

私の郷里は静岡県だが、しかし私は富士を静岡の山などとはみじんも考えてはいない。それは勿論日本の富士であると共に世界の富士でもある。そしてこの名山に対して日頃すっかり慣れ切ってしまって殆んど無関心に近い状態で相対して来た自分の過去が余りにももったいなく思う。

私は数年前の秋、修善寺温泉の近郊で数日を送ったことがあった。そこから見た明け方の富士の雄姿は今に私の脳裡に強く焼きついている。裾野も駿河湾もまだ真暗な時に富士の頂きの雪がまず薄紅く燃えはじめた。まだ地平にあらわれない朝日の光を、国内で真先に仰いだことになる。見ているうちにその紅味は九合目、八合目と下の方へ徐々に広がっていった。

私にはこのとき見た暁闇の富士の、四辺はまだ夜の闇が暗くたれこめている時にいち早く朝日めざめる姿がふかい感慨をもって時々蘇がえってくる。

私は高校在学中はこの富士の存在について見向きもしなかった。登校の折、或いは沼津あたりへ私用で行くにしてすぐ近くで富士は自分を見つめていてくれるのに私は全然無関心であった。あまり近くに富士があるがために「灯台もと暗し」とも云うのであろうか。たとえ万雪をたくわえた富士の雄姿が眼中に入ってきてても何の感興もおきなかった。慣れきってしまうということは実に恐い事である。

しかるに住みなれた郷里をはなれて数ヶ月を仙台ですごし、いざ帰省という段になって私は従来とは思いもよらぬ感興にとらわれた。早く両親に会いたいという気も無論あった。しかしそれにもまして雄大な富士の姿もすぐにも仰ぎたいという気の方が強かった。東京から東海道線に乗ったとき早や私の心は富士にとらわれていたのだろうか。富士のみえる右側のイスに腰かけたことはいまでもない。

たかが四ヶ月程離れていても、その愛着をおおい難くする富士は、丁度親もとはなれた子が自分で生活してはじめて親の有難さがわかるのと似ている。つねづね富士をみているものが、その美しさ、端麗さにすっかり慣れきってし

まって何の感興もおこさないことは実に残念でならない。

遠方からながめ得る富士の感興と、実際にその岩肌に触れるときの感触とは非常にちがうものだというを知ってしばらくの間、私は驚きの念を禁じ得なかった。高校二年のときだったが友人数名と富士登山をしたときのことである。遠くからながめた富士はいかにも端麗な女性的な感じを抱かせる。ところが実際に登ってみると一合目から二合目さらに三合目位までは普通の荒山と全然かわらない。うっそうたる常緑樹が茂り、参道は急をきわめ、ときには蛇が出るというそのあたりにある山と何らかわるところがなかった。「近よれば富士山も駄山にすぎない」と友人と話し合いもした。

ところが四合目をすぎて五合目近くになると針葉樹林が非常に目についてくる。そして五合目をすぎるところどころに地衣類があるのみで、一面荒ばくとしてどすくろい火山岩や熔岩が、ゆったりとした不気味なスロープを形成してくる。折りしも夕日の沈む頃で、岩肌は暗赤紫色を呈し秋風めいた風がふき上げ痛快きわまりない気持ちにさせられた。同じ勇壮な感を抱くにしてもここで感じるものと、「自然と人生」の中にある相模灘でみた夕日の富士の勇壮さとは全然別個のものではないだろうかと思う。「自然と人生」の富士は美しい勇壮さであり、富士の岩肌から感じられるのは不気味な勇壮さ、実につきつめれば壮嚴という感じがびったりする。ここに至って私は二合目あたりで感じた幻滅はどこかにふっとんでしまった。富士の端麗な美しさの裏には、このような荒々しい雄々しさがひそんでいることを知っていただうれしかった。

この拙文をよんで下さる人の多くはまだ富士山へは登山されたことがないだろうと思う。しかしいつの日か登られたときその抱かれる感慨は千差万別にして、その根底には「壮大にして壯嚴」という感興が流れているものと確信する。

再度申し上げておこう。私は富士が静岡にあるからといってお国自慢のつもりでこれを書いたのでは毛頭ない。そんなケチな料簡を持つには富士はあまりに偉大すぎるし壯嚴すぎる。私は世界の名山ともいうべき富士が日本にあることを喜び、富士が日本人の一人一人の心の糧となってくれることを願ってやまないのだ。 1959. 8. 18

外科 今野病院

院長 今野源四郎

副院長 今野喜八

仙台市鍛冶町19-6
電話 仙台 ③ 3285

旅の余徳

庄司堅次郎

この世に生を受けて以来あの戦争の末期、秋保の奥の方に疎開した外は生家から離れたことのない、いたって箱入り息子で育ったので長い旅に出ると見るもの聞くものめずらしいものばかりで、いささか井の中の蛙であった自分にあきれ始末である。

今迄本や新聞やラジオ等のいわゆるマスコミを鵜呑みにして、いかにも物識りぶっていたのだが観念的な認識の弱さを楽しみ思い知らされるのが旅であると思った。

夕日が山の端にさしかかる頃、同じボックスに座を占めた同行の友人連との雑談もとぎれ、各人各様の想いを窓外に走らせる。

輝く様な緑色もいつしか灰色を帯びて見渡す限りの田圃に点々と浮いている様な林に囲まれたわらぶき屋根を眺めていると妙に「シュン」としたものを感ずる一時がある。それを旅愁というのかもしれない。そして無意識にも中学は高校のため、高校は大学のためと過ぎ去った味気ない少年時代の日々と静かな平和そのものの様な緑の土地で想像できる少年時代とを天秤にかけてみたりする。

そして後へ後へ飛び去る夕闇せまった田圃を改めて眺望すると何ともいえない愛着を覚えるのである。又道中の汚れを一風呂浴びて、さっぱりした丹前に着代え、どこいしょとテーブルの前に腰をおろし、今日の日程を満ちたりた気分思い出しながら、旺盛な食欲を満たす。そんな旅は良いものだと思う。

自分の知らない土地で知らないことが一杯起っており、どこにいても人がいて、それぞれ生活しているという事実は当然のことだが驚異であり脅威である。大都市のものすごい人、人、そして車の数、それらが赤黄緑の信号でちょっとの遅もなく彼方に散っていく、個人のはかなさ、大都会の無情さが実感として入ってくるのはショックであるが、一方「モサモサしておれんぞ」といったファイトも出てくる。自分の家の中では到底得られないものの一つである。

旅の予定は巾を持たせておくべきである。

翌朝目をさますと、すごい雨である。再び来るチャンスもない土地であるから当然一日延ばしてその日は悠々としてザル碁を打ったとか、おとといの行程でせつかく苦心して友達となった彼女等が夕方ここにつく予定だから、もう一日滞在しようとか、とかく旅は予定通りいかないものだし、予定通り過ぎたのでも面白くないものだ。その結果、連続のコッペパンになってもドンマイというものである。

汽車やバスで「学生さんは一番いい」などと隣にすわった人から気軽に話しかけられるのも旅ならではである。老

人と一緒になり、土地の話しを語ってくれたり、こちらの予定を話している内に、面白い人生体験談をきかしてくれる。そんな時の自慢話しも長い車中では結構楽しいものである。

めったにない事だが、若い御婦人と同席した時等は風景なんて問題でなく、妙にソワソワして、腕に(?)覚えのある御仁は実力行使に出たりして旅のエピソードを作る様だ。もちろん程度問題だが旅でのフラストレーションほど馬鹿らしいものはない。そして東北人特有の非社交性も是正される恰好の練習場であるとも云える。いろんな人といろんな話しを窮屈にならずに続けるということは、なかなか難事であるが大切なことだと思う。

自分の家、自分の故郷の良さも、広くよそを見て来なければわからない。

我家に帰ると自分に以前はなかったゆとりとか巾とかいったものができているのに気づき、新たなファイトが生まれるものである。

旅は良いものだ。

漫然と出かける旅もよいものだが、見学旅行というものである。

はからずも第3号の編集人になったお陰で東京迄ではあったが、見学旅行が出来た。事前に連絡しておいたので当日はどこでも親切にもてなしてくれた。短時間にその内容や現状を見聞し、さてそれを書く段となつてはたと困った。花の色彩や形状をいくら説明しても、その花について語りつくすことは不可能であると同様に、「百聞は一見にしかず」で自分で見、自分で感じなければナンセンスである。

特集を作ってみたが全く冷汗もので。諸君に一つの見方のサンプルとしてあえて提示した次第である。

話しは脱線したが、旅行というですぐ観光旅行が脳裏に浮かぶものだが、はっきりした目的と計画性をもった見学旅行をすすめたい。

学生時代に(なすべく教養部時代に)将来自分の進み得る社会というものを見ておく必要があるし、我々の先輩達が、現在仕事面でいかに苦労しているか。そしてそこから得られた学生時代のあり方等を直接聞けるチャンスは又とないのではあるまいか。気軽に出かけられることをおすすめする。

◇薬学◇ 津田 宣直

医学は医師への道、薬学は薬剤師への道、これが世間の人の医学と薬学に対する漠然とした考ではないでしようか、何だか悲しくなります。我々は薬学というものは広範囲で、応用の広い学問であるということを世間の人に認識させる一すばらしい研究等で一必要性を痛切に感じます。

寝言

S S 生

将来私は一体何になるかわからない。なって見なければわからない。しかし私は職業は何であっても、又職場はどこであっても自分の立場を知りそれに意義を感じられる生活を送りたい。快楽を求めて空しく過す生涯ではなく、我が生涯に悔なしといった生涯、死の実際に安らかに死んでいける生涯を送りたい。人生と、生活そのものに生きがいを感じつつ生涯を送っていきたく願っている。内面的絶対的見地より見れば3尺の竿を上下する蝸牛は、千里を走る虎と同様に尊敬に値する。そうして虎は蝸牛を軽べつすることの代りに千里の道を行かずして休まんとする自己を恥ずる。蝸牛はその無力に絶望することの代りに3尺の竿を上下する運動の中にその生存の意義を発見する。(三太郎の日記人と天才と) 私は1人の薬剤師で終るかもしれない。あるいは大製薬会社の社長若しくは大学者になるかもしれない。しかしそんなことは問題ではないのである。

山形 修

我々が大学に入学してから早くも3ヶ月程経ってしまった。勿論入学式の感激はとっくに消え失せてしまった。しかも自分は、ただぶらぶらと毎日を過ごしてしまったので、この3ヶ月の間には何も得るものがなかった。強いて得たものといえば、大学はつまらない所だということとソフトボールが少しばかり上達した(?)ことだろう。前者は、中にはそうでもない人も大いにいるが大いにする人は感じるようだ。あまりにも大きな期待をもって入ってくるからだろうか。後者は、毎日のようにやれば少し位うまくなるのはあたりまえだ。自慢にはならない。

話によると専門課程に入るとそれほどでもなく、しかも相当な体力が必要だそうだから教養課程のうちは大いに運動をして体力を養っておくつもりだ。

◇私の人生観◇ 嵯岸 謙一郎

「人生とはマラソンなり、途中で落伍するな」これは私が中学生の時から自分の座右の銘のようにして来た言葉です。マラソンや長距離競走には幾つかの難所があり、又ランナーには各自のペースがあります。従って競走に打ち勝つためには他人のペースに巻込まれることなく常に自己のペースを守り目的地に向かって進むことです。これは人生に於ても全くその通りで、たとえ自己のペースがおそくとも、又いかなる難事に遭遇しようとも途中であきらめる事なく最後まで目的を全うするために全力を尽すことが人生におけるマラソンの勝利だと思えます。

◇私の人生観◇ 武田 尚子

広い視野にたち、常にファイトを持って自己を向上させながら、自分の究研を進めていきたい。

考えること

佐藤 進

真理の探究とか学問の神聖とかの名の下にその研究の社会的な意義と影響を考えずして独善的にひたすら研究を行う事が優秀な科学者の態度なのであろうか。戦前の科学者の如くその研究成果が直接的・間接的にしる侵略戦争に協力して来た事実を見る時我々は科学と社会を常に有機的に考慮しなければならぬと思う。学術会議6回総会の平和声明は「戦争を目的とする科学の研究には今後絶対に従わない」と結んである。この事は何も戦争に限った事ではない。科学者の社会的無関心からその研究結果が一個人、一部資本家そして金権政治家の利益に使用され人類の福祉という科学研究の大本目的からははずれる可能性を考えなければならぬ。例外なく科学的側面を必ず持っている今日の社会的・政治的・経済的問題に対して科学者が何らかの形で関与している事は疑いのない事実である。我々自然科学研究を目指す者はこういった意味からも自然科学そのものだけの知識を得る事だけに専念する事なく、広い視野に立って常にその研究と社会との関係を考えつつ研究を進めるのが本当の科学者としての態度ではなからうか。中谷宇吉郎氏はその著書の中でこう定義している。即ち「科学とは良識のエッセンスである」と。

私はこの大前提から全てを出発させる事が出来ると思う。良識のエッセンスを研究する者は決して人類の福祉を裏切らないであらうから。

時計の
御用は

三 原 本 店

仙台・大町

TEL ②0385・③2923

親友

飯塚 義夫

山沢しばらく。

俺は何んだかお前に礼を云いたくなつた。お前の友達の中で俺くらいねちねちしてエゴイストだった奴はいないだろうな。その俺にお前は高校時代よく付合ってくれた。本当に俺は少々おかしい所があったと思つているし、今もあるかも知れぬ。俺は本当に俺を偽つた俺以上の生活や俺以下の生活をする事につかれてしまった。俺は俺を築く前に土台を掘らねばならなかつたのだ。自分を偽つた自分以上の生活をする事は苦しい事だったが何事にも自信のない者にとっては、せめて虚勢だけでも張つてくらさねば、世間に押しつぶされると思つていたのが間違ひだつた。でも俺は絶えず心の底から次の様に叫ぶのを聞いていた。「この邪道の人生はいつかはなおさねばならないな。でもなおすことができるだろうか。自信はあるのか。このままでいた方が面倒くさくなくていいよ。でもいつかは真道に戻らねばならぬ。」

お前の欠点を手紙に書くと約束したがお前は本当に完全な奴だ。下から上を見るからだからかも知れぬが、とにかく俺の目にはお前の欠点が、無理してついたりこじつたりしない限り出てこない。そのお前によって高校時代、人間らしさの初歩を知らされた事に深く今になって感謝したくなつたのは、わずかでも、無理のない自分になつてはじめてお前の有難さに気付いたからだ。いや以前にもその様な

感情がない事もなかつたが、氣負う事によつて頭の奥へ消えてしまつていた。とにかく俺は高慢だつた、非力な自分を認めようとししないで、自力でいろいろの事を解決しようとしたり、わからぬ事でもわかつたふりをして通そうとしたのだから。頭が良く経験豊かな古人が、我々と一緒に書物の中で考えてくれた上に、最良の解決策を暗示してくれる事にもやつと気付いたし、又友人達もいつも一緒に考えてくれて、良い忠告をしてくれる。世間は重石ではなく新しい水が次々にわき出る泉だ。

お前は皆んなに愛される性格を持つていて本当に好ましい限りだつた。それはお前が広い心で皆んなを愛する事が出来たからだと思う。本当に善意に満ちた愛というものはわからぬ事をわからせ、みにくい自我を去らせてくれると思う。俺も出来るだけ人を愛し、事物を愛する様にしたいが、お前に言われた通りまだまだ心が狭い。お前には迷惑かも知れないが、俺の友人のうちで一番有難かつたのは山沢だつた。だから俺はお前に礼を云いたかつたのだ。

これで今まで生きていた俺は死んでもいい。無理して生きていた俺とお別れするのだ。これからは自分の心と一致して素直に生きたい。自分の悪い所を誤魔化すことなく、自分の良心のどがめを静かに聞く態度を養いたい。果して養えるかどうかわからぬが、とにかく俺は俺以外の何者でもなく決して俺の心の中につくられた理想の俺ではないのだという事を自覚せねばならぬと思う。おい山沢、俺はもっと俺を知りたい。もし書いてもらえるなら俺の欠点をはつきり書いてくれないか。もちろんそちらの都合の良い時でいいよ。突然変ぬ手紙を書いて大変失礼。

三陸旅行記

早坂 弘子

前々から行こう行こうと言つていた三陸海岸へ、夏休みを利用して一行7名で出かけた。目的はただ漠然と、三陸の自然にふれ、人にふれ、重い荷物をしょつて、何日間かキャンプの集団生活をする事であつた。以下が私達のとつた行程である。第1日 仙台^{盛岡}盛岡^{盛岡}盛岡^{盛岡}津内^{盛岡}津内^{盛岡}（キャンプ）第2日 浅内^{盛岡}浅内^{盛岡}岩泉^{盛岡}岩泉^{盛岡}湧口^{盛岡}湧口^{盛岡}（キャンプ）第3日 湧口^{盛岡}沼袋^{盛岡}沼袋^{盛岡}（中学校泊）第4日 沼袋^{盛岡}普代^{盛岡}黒崎^{盛岡}北山^{盛岡}（民家泊）第5日 北山^{盛岡}机^{盛岡}上^{盛岡}島越^{盛岡}弁天^{盛岡}島^{盛岡}（小学校泊）第6日 島越^{盛岡}小本^{盛岡}茂師^{盛岡}田老^{盛岡}（キャンプ）第7日 田老^{盛岡}官古^{盛岡}白浜^{盛岡}重茂^{盛岡}（漁業協同組合泊）第8日 重茂^{盛岡}姉吉^{盛岡}鮎崎^{盛岡}灯台^{盛岡}川代^{盛岡}（民家泊）第9日 川代^{盛岡}山田^{盛岡}岩手^{盛岡}船越^{盛岡}荒神^{盛岡}神社^{盛岡}（神社泊）第10日 荒神^{盛岡}船越^{盛岡}花巻^{盛岡}仙台^{盛岡}

10日間を通じて感じた事は、人があまり行かない田舎に行くに従つて親切であることだ。休んでいる私達に親しく話しかけたり、暑いでしょうと桃を御馳走してくれたり、全然見知らずの者なのに、言ひ出さないうちから泊めてくれたり、その上お風呂に入れてくれたり、御飯の用意をしてくれたりどうしてこう親切にしてくれるのか理解に苦

しんだほどである。旅行中であるので一層身にしてみて感じたのかもしれないがとにかく感謝した。旅行中の方で子供達を見かけたが私達を物珍らしげに見に来ても目が合うと必ず逃げて行く。話しかけてもそれに答える子なんてまじない。卑屈な感じがした。人々は朝暗いうちから起きて一生懸命働いている。唯何も考えずに一生懸命働いてそれで満足している様な感じを受けた。朝から晩まで働くことに満足しきつて（仕方がないからというのではなく本当に満足して）生きて行くのと、自分の仕事に飽き足らず、常に更に上のものを求めて生きて行くのとはどちらがいいだろうかちょっとわからなくなつてしまつた。

三陸の自然は特有のリアス式海岸で絶壁である。雄大である。絶壁の上から青い青い海を見下し、あたりの山々を見まわし、私達の他、誰も人がいなくて森閑としている中にある時、人間なんてなんだ、という感じにならざるをえなかつた。又鮎崎灯台に行った時も、太陽がギラギラ照りつけ、それを受けて強烈な青さを示している示している広い海、男性的な岩に猛然とおそつて来る白いしぶき、それらを眺めていると毎日の生活にあくせくしているのが馬鹿らしく思われた。

編後



集記

◆この「あみこす」誌上より9月15日我々の学友薬学科1年川村通夫君が逝去されましたことをお知らせ致します。

余りにも急なことなので我々一同その報に接し驚くほかりませんでした。今この「あみこす」完成を前にして、共に編集に携わってくれた川村君であっただけにせめてこの完成をお見せしたかったのにと残念でなりません。我々新設薬学科が着々と充実を重ねていこうとしている途上に同じ医薬研究を志している友を失うことは耐えがたいことであります。しかし残った我々は川村君の志を深く心に刻んで決意を新に努力を重ねるつもりです。最後に心から川村君の冥福をお祈り致します。

◆「あみこす」第3号誕生を皆様と共に喜びたいと思います。この第3号で最も苦心したことはいかにしてアカデミックな内容を打ち出すかということであった。この雑誌は学生のものである、しかし教養課程にいる我々にはその種のものには到底書けないという矛盾にぶつかった。

そこでピントを「これから薬学を目指す」という点に合せてこの第3号の前半を編集しアカデミックという創刊号以来の目標にかえた次第である。(庄司)

◆ようやく後記を書くまでにこぎつけた。しかし今度の編集は前半は特に有意義で個人では体験できない様々の経験を積んだことは今後深く印象に残るだろう。また後半もただ紙面の割振りとか校正だけでなく広く各大学の現状や本薬学科生の考えていることを知ることができ考えさせられるものがあつた。きっとこれらの記事を読んで何か得るものがあるだろう。これを出発点として今後の自分を考える指針となれば幸いである。(小嶋)

◆編集の仕事を通じて種々の得難い経験をし、且共々一つの仕事をする喜びを味えたことに満足です。皆様の協力に

深く感謝致します。(嶺岸)

◆座談会の企画を引き受けて、岡崎先生・岡野先生の御出席の下に行ったが、企画の不備の為に思うようにできなかった。両先生及び出席された方々にここでお礼させていただきます。新校舎の事などもうかがったのを、紙面の都合により掲載できなかったのは残念です。(岡野)

◆担当は各講座紹介のための先生方からの原稿とり、先生によって、すぐ書いて下さる方、誰か別の先生にたのんでしまう方、そのたのまれたのをまた他の先生にまわしてしまう方、等々いろいろであった。また原稿をたのんだ先生が出張中と聞き、出張先を聞いたらアメリカとは恐れ入りたいやは大変な原稿集めであった。(及川)

◆最後に、あみこす誌を創るために大変御協力下さいました薬学科の諸先生方、並びに諸会社・官庁及び各大学の皆様方。さらに広告の名目で多額の御支援を下された皆様様に御礼申し上げます。

編集長	2年	庄	司	堅	次	郎
編集員協力者	3年	早	坂			
	2年	及	川	岡	野	小
		山	内	古	沢	永
		今	江			
	1年	秋	山	飯	塚	加
		佐	々	木	柴	田
		目	黒	八	木	山
						形
						卓
						郎

52年10月25日

表紙 532年10月25日

1959年10月25日 印刷
1958年11月1日 発行

あみこす 3号

発行所 東北大学薬友会委員長 荒川 陸
編集責任者 庄司 堅次郎
印刷所 K.K. 針生印刷製本所
仙台市花京院通39
電話(2)3388(2)6644

1959年10月25日

背広 制服

学生様割引

東北大学指定

大丸洋服店

仙台市東一番丁東北大前 TEL@3665

理化学器械一般・磁製及び石英製品

分均用硝子器具

星理化学器械店

肴町73 (2)6822

肝臓と副腎強化に

パント錠

パントテン酸製剤

- ★パント錠の主成分パントテン酸は、他の成分と共に、肝臓の分泌機能、代謝機能、解毒機能、血液成分生成機能など、あらゆる働きを旺盛にし、肝臓病の予防、治療に卓効を奏します。
- ★パント錠はあらゆるストレスに反応して、副腎のホルモン分泌機能を旺盛にし、身体の防御力をたかめます。
- ★パント錠は新陳代謝を円滑にし、疲労を回復させ、生体に活力を与えます。

20錠 300円 100錠 1,200円 (1日1~2錠服用)



第一製薬
東京・日本橋

開腹手術時の癒着防止に

注入用プラスゲン

—7% P.V.P. 製剤—

P.V.P. 製剤は従来代用血漿、解毒利尿剤として用いられて来たが、最近 Uppligger は高分子膠質溶液7% Polyvinylpyrrolidon (P.V.P.) 液に腹腔内の癒着防止効果があることを認め、国内でも山中・山田らの追試によつてその優れた効果が裏付けられている。

特 徴

- 腹腔内に約8時間滞留して完全に癒着の発生を防止する。
- 操作が簡便で組織障害などの副作用は全く見られない。

用 法

開腹術時縫合終了前に1回100~300ccを腹腔内に注入する。

包 装 100cc 1A 5A

(文献進呈)

杏 林 薬 品 株 式 会 社

東京都中央区日本橋本町4-6





ご家族の健康をまもる!

ミネラル入り 総合ビタミン剤

ミネビタール

12 ビタミン・11 ミネラル・肝臓エキス配合

ミネビタールには、沢山のビタミン・ミネラルの他、これらの栄養素の働きを高める肝臓エキスが配合されている効きめの早い総合ビタミン剤です。

・疲労回復・胎育促進・産前産後・療養中の方に……

強度の疲労に

高単位配合

強力ミネビタール

30錠(350円) 100錠(1,000円)



30錠 300円 100錠 850円

東京 銀座 三共株式会社

J-166

リウマチ
喘息
皮膚疾患
ネフローゼ
眼疾患など

〔健保適用〕



シノギ 塩野義製薬株式会社

☆コルチゾンの約5倍強力。従つて臨床上、コルチゾン・ハイドロコルチゾンに比し著しく少量で迅速、強力、的確に奏効する。

☆電解質代謝障害による副作用（浮腫・心臓衰弱など）はほとんどない。

☆Cortisone escape および副作用で治療を継続できない患者にも、優れた効果を発揮する。

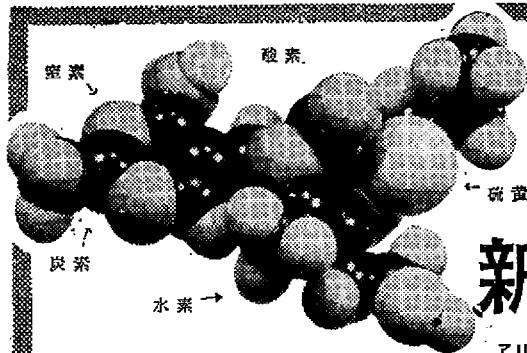
☆局所症状の治療には（リウマチに）関節腔内注入用、（皮膚疾患に）軟膏が効果的である。

強力合成副腎皮質ホルモン剤



（プレドニゾン）

内服用錠剤・調剤用 100倍散・関節腔内注入用
局所用軟膏・A軟膏・眼軟膏・油性点眼液



『アリナミンの分子模型』

ウロコ印



武田薬品

新型ビタミンB₁剤

アリナミンは細胞透過性が強く、次の優れた特長があるので、従来のB₁では望めなかった効果を発揮する
 (特長) ① 臓器中へ高濃度に移行し、長時間作用する
 ② B₁の血中濃度、特に血球中濃度が著しく上昇する
 ③ コカルボキシラーゼになり易い。
 ④ 内服した場合にも、ほとんど全部が吸収され、またアノイターゼ (B₁分解酵素) で破壊されない

神経痛・リウマチ 神経炎・顔面神経麻痺・視神経炎・手術後の神経障害・疲労・脚気・脚気様症状・便秘・肺結核の補助療法

注射液 (1cc 5mg) 10管・50管
 (2cc 10mg) 10管・50管
 糖衣錠 (1錠 5mg) 30錠・100錠・300錠

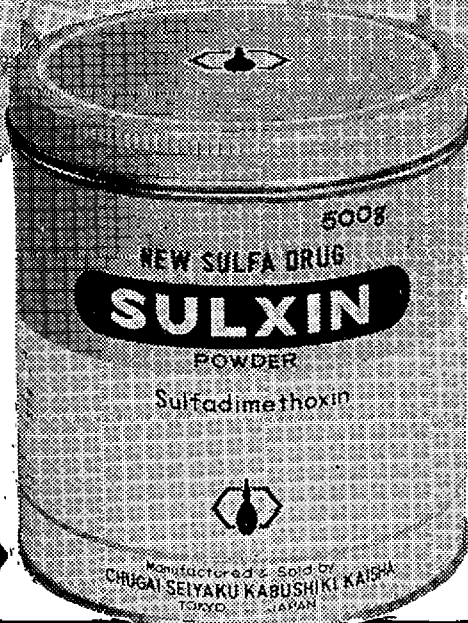
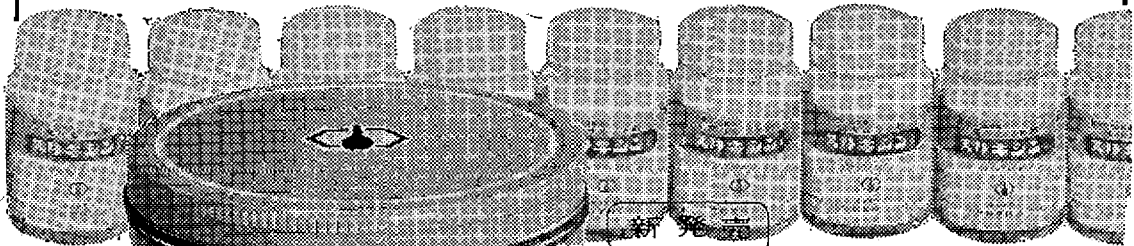
★新型ビタミンB₁剤

(T P D)

アリナミン

大阪市道修町 武田薬品工業株式会社 >タケタ< (718)

1日1回で、持続的効果のある...



- ◎消化管からの吸収が速い。
- ◎血中や尿中の溶解度が高い。
- ◎服用量は極めて少量でよく、しかも排泄が遅いので、有効血中濃度の持続時間が長い。
- ◎毒性が殆どなく、尿路結石や血尿、卵疹、胃腸障害などの副作用はみられません。
- ◎グラム陽性菌及びグラム陰性菌に有効です。

適応症：肺炎、気管支炎、扁桃腺炎、咽頭炎、喉頭炎、中耳炎、赤痢、大腸菌性疾患、尿路感染症、淋疾、梅毒肺炎、癩癧症、外科的化膿疾患、創傷感染症、産褥熱、結膜炎、トラコーマ、歯槽膿漏。

スルキニン

包装：25g ¥800、100g ¥3000、500g ¥13500

東京日本橋本町 中外製薬株式会社



中外製薬